

鶴崎駅周辺整備基本構想

令和5年3月
大分市

目 次

序章	1
1. 基本構想の目的	1
2. 対象区域：鶴崎駅周辺地区（JR 鶴崎駅周辺及び鶴崎市民行政センター周辺）	2
第1章 上位・関連計画及び関連事業	3
1. 上位・関連計画	3
2. 関連事業	18
第2章 鶴崎駅周辺の現況	21
1. 人口動向	21
2. 鉄道の利用状況	22
3. 交通環境	23
4. 土地利用の状況	25
5. 建物の状況	26
6. 都市機能の立地状況	28
7. 歴史文化資源の状況	29
8. 法規制の状況	32
9. ハザードエリアの状況	33
10. 市民意向の把握	35
第3章 課題の整理	43
1. JR 鶴崎駅周辺に関する課題	43
2. 鶴崎支所周辺に関する課題	43
3. 交通ネットワークに関する課題	43
4. 歴史文化・自然環境に関する課題	44
5. 防災まちづくりに関する課題	45
第4章 鶴崎駅周辺地区の将来像	47
1. 鶴崎駅周辺地区の魅力	47
2. 鶴崎駅周辺地区の将来像	48

第5章 都市づくり方針	49
1. JR 鶴崎駅や鶴崎市民行政センターを核とした住環境の高質化.....	49
2. 円滑な交通ネットワークの形成.....	50
3. 鶴崎の伝統・文化・緑を「まもり」「つなげ」「いかす」ネットワーク形成.....	51
4. 安心・安全に暮らせる防災都市づくり.....	52
第6章 方針実現に向けた取組	53
1. 鶴崎駅周辺全域（共通）.....	53
2. 鶴崎駅前広場.....	54
3. 県道鶴崎停車場線.....	54
4. 鶴崎市民行政センター周辺.....	55
5. 市道北鶴崎3号線.....	55
6. 市道中鶴崎1号線.....	56
7. 国道197号.....	56
8. 市道鶴崎・三佐線（（都）寺司三佐線）.....	57
9. 県道鶴崎大南線（別保橋）.....	57
10. 回遊ネットワーク.....	57
11. 街区公園.....	58
12. 各取組の実施時期のイメージ.....	61
第7章 取組実現に向けた課題	62
1. ハード整備における主な課題.....	62
2. ソフト対策における主な課題.....	62
附属資料	63
子育て世代アンケート調査による意向把握のまとめ.....	63

序章

1. 基本構想の目的

大分市の北東部に位置する鶴崎地区は、別府湾に注ぐ大野川、乙津川による広い沖積平野であり、古くから水運を利用し、瀬戸内海航路の拠点として発展してきました。豊かな歴史と自然に恵まれた鶴崎地区では、鶴崎踊に代表されるような伝統行事も数多く受け継がれています。

大正3年の日豊本線鶴崎駅の開業により、鶴崎地区は大分市と大分郡・北海部郡をつなぐ結節点として大きく変貌を遂げ、昭和に入ると大企業が次々と立地していきました。そして、昭和38年、鶴崎市は大分市と合併し、新産業都市の指定により企業誘致がなされ、現在では、新産業都市の中核を形成しています。

鶴崎地区は、『大分市都市計画マスタープラン』の地区別構想において、「歴史と伝統の息づく居住型拠点の形成」をまちづくりの目標に掲げています。鶴崎地区の拠点として位置付けている鶴崎駅周辺地区（JR鶴崎駅周辺及び鶴崎市民行政センター周辺、以下「本地区」という）は、立地適正化計画の都市機能誘導区域となっており、商業・業務機能と都市型居住機能が調和し、地域に根付いた歴史や文化を生かした地区拠点の形成を図る地区として、今後の持続的な発展が期待されています。

一方で、本地区においては、人口減少や少子高齢化に伴い、商店街などに空き地や空き家、空き店舗が増加し、まちの活力や賑わいが失われるなどの問題も生じています。

現在、本地区の東西を結ぶ国道197号において、大分市東部地区の交通問題の解消を目指し、国道197号志村～乙津間の4車線化に向けた拡幅工事が進められており、これらは本地区のまちづくりにも大きな変化をもたらすものと考えられます。このような本地区を取り巻く環境の変化を絶好の機会として捉え、鶴崎地区の地区拠点にふさわしい、魅力ある都市空間を再構築（リニューアル）していくことが求められています。

本市では『大分市まちづくり自治基本条例』において、市民の幸せな暮らしの実現を目指すために市民主体によるまちづくりを行うことを自治の基本理念としています。

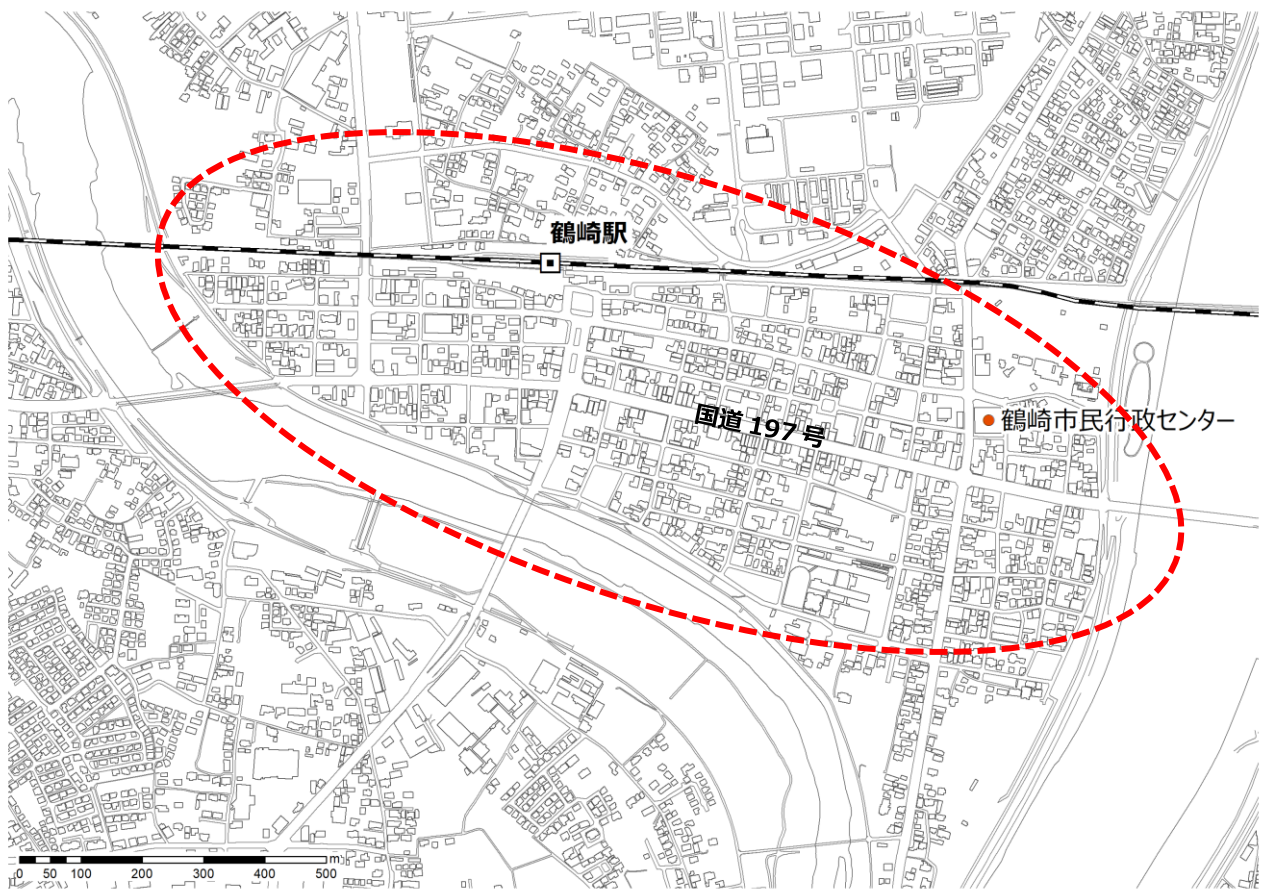
都市づくりは、そこに住む人、そこで働く人のためのものです。自らの生活を豊かにする都市づくりは、自らが考え、行動することが重要です。

「鶴崎駅周辺整備基本構想」（以下、基本構想）は、こうした諸状況を踏まえ、市民や利用者のニーズに的確に対応し、本地区の拠点整備の方向性や方針等を市民、行政、まちづくりの専門家等で共有し、市民が主役となる都市づくりを官民協働で整備の推進を図っていくことを目的として策定するものです。

2. 対象区域：鶴崎駅周辺地区（JR 鶴崎駅周辺及び鶴崎市民行政センター周辺）

基本構想では、鶴崎地区に活力や賑わいの創出に資する魅力ある都市空間の再構築（リニューアル）を目指す対象区域として、JR 鶴崎駅及び鶴崎市民行政センターを中心とした、国道 197 号沿道を含む下記の範囲を設定します。

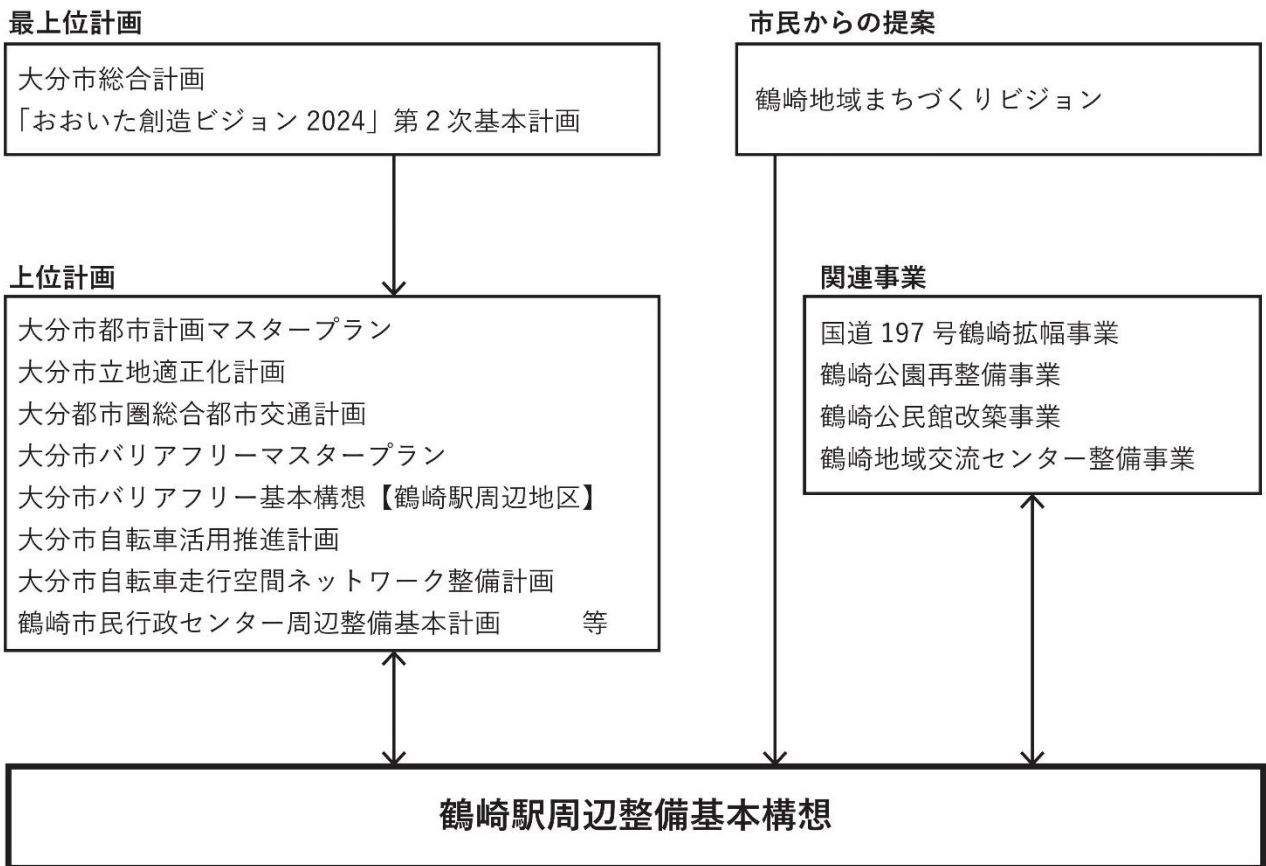
ただし、本基本構想の趣旨を実現するために必要な施策や事業によっては、対象区域外も含めることを検討します。



第1章 上位・関連計画及び関連事業

1. 上位・関連計画

本基本構想の策定・推進にあたって、統合が重視される主な上位計画や関連事業等の関係性は以下の通りです。



(1) 大分市総合計画「おおいた創造ビジョン 2024」第2次基本計画

策定年月	2020（令和2）年3月	
計画の期間	2020（令和2）年度～2024（令和6）年度	
めざすまちの姿 （都市像）	笑顔が輝き 夢と魅力あふれる 未来創造都市	
基本的な政策	<ol style="list-style-type: none"> 1 健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり（市民福祉の向上） 2 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり（教育・文化の振興） 3 安全・安心を身近に実感できるまちづくり（防災安全の確保） 4 にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり（産業の振興） 5 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり（都市基盤の形成） 6 自然と共生する潤い豊かなまちづくり（環境の保全） 	
基本計画 （各論）	2 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり（教育・文化の振興）	<p>第2章 個性豊かな文化・芸術の創造と発信</p> <p>>>> 伝統的な芸能、行事の保存・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伝統的に地域で受け継がれてきた民俗文化財の保存・継承に努めます。 ●伝統芸能や地域固有の行事などを通じ、地域に対する愛着をはぐくむとともに、市民相互の連携を深めて地域の活性化を図ります。
	5 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり（都市基盤の形成）	<p>第1章 快適な都市構造の形成と機能の充実</p> <p>第1節 計画的な市街地の形成</p> <p>>>> 風格ある広域都心と暮らしやすい地区拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の自然・歴史・文化などの特性を生かした個性的で魅力のある暮らしやすい地区拠点の形成を目指します。 <p>>>> 計画的な土地利用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●良好な市街地の形成を目指し、区画整理や住環境の整備、市街地再開発など、地域の特性に応じた事業の推進を図ります。 ●市街地の整備等に当たっては、低・未利用地の有効活用など、効率的かつ都市の健全な発展に資する土地利用を図るとともに、緑の保全や創造、景観、防災などに配慮し、周囲の環境との調和、宅地等の安全性の確保に努めます。 <p>>>> 産業や生活を支える道路体系の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市域の均衡ある発展と経済・産業活動の活性化、交通渋滞の緩和などのため、道路、橋梁の拡幅や新規橋梁、休憩施設等の整備を促進します。 <p>>>> 人にやさしく美しい都市空間の創造と整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者や障がいのある人をはじめとするだれもが円滑に移動ができ、安全・安心に都市施設の利用ができるよう、段差の解消や点字ブロックの適正配置、無電柱化の推進などユニバーサルデザインに配慮した都市空間の整備に取り組みます。 ●災害時の延焼遮断帯や避難・輸送路、避難場所など災害に強い都市空間の整備を進めます。

- 風格のある質の高い都市景観づくりや地域の特性を生かした個性ある都市空間形成を推進するとともに、歴史・文化・芸術を生かした観光拠点の整備を推進し、回遊性の高い、魅力的で歩いて楽しい都市を創造します。

第2節 交通体系の確立

>>> 公共交通ネットワークの構築

- 交通事業者等と連携し、各鉄道駅における駅前広場、駐車場、駐輪場などの整備をはじめ、新駅の設定、日豊本線の高速・複線化などを促進するとともに、バスやタクシーをはじめとする交通機関との乗り換えなど、交通結節機能の強化を目指します。

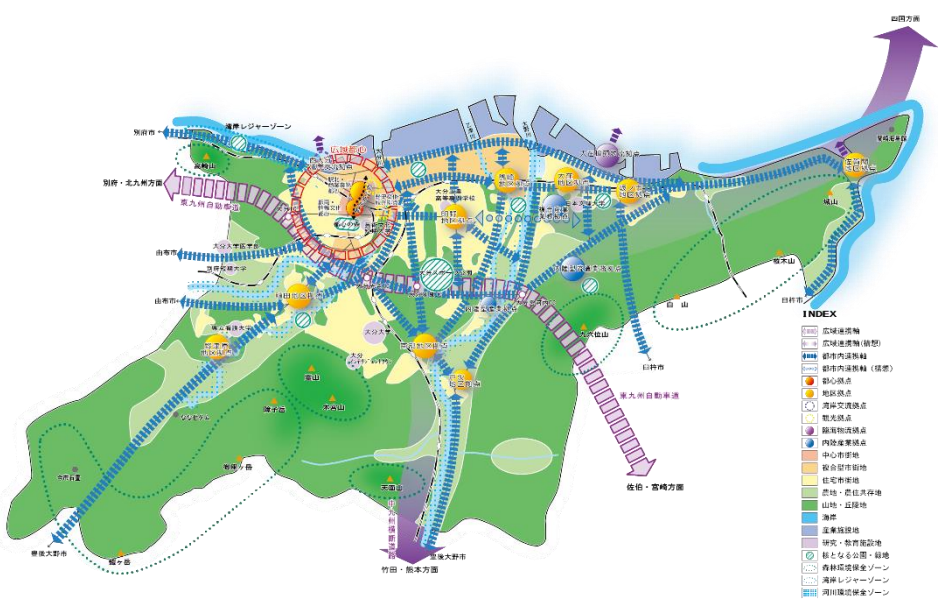
>>> 公共交通の利便性の向上と利用促進

- 高齢者や障がいのある人等の移動制約者や訪日外国人旅行者、来訪者等の公共交通機関を利用した移動の安全性及び利便性の向上を図るため、市民、交通事業者、行政が一体となり、ハード・ソフトの一体的な取組のもと利用環境のユニバーサルデザイン化・バリアフリー化を促進します。

>>> 自転車等利用環境の充実

- 国、県等の関係機関と連携し、連続性のある自転車走行空間の整備を進めるなど、自転車を安全・快適に利用できる環境づくりに努めます
- 駐輪場の整備やシェアサイクルの導入、自転車利用者の安全対策に関する取組を進めます。

(2) 大分市都市計画マスタープラン

策定年月	2021（令和3）年3月
目標年次	2040（令和22）年（中間年次：2030（令和12）年）
将来都市像	笑顔が輝き 夢と魅力あふれる 未来創造都市
基本理念	<ol style="list-style-type: none"> 1 健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり 2 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり 3 安全・安心を身近に実感できるまちづくり 4 にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり 5 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり 6 自然と共生する潤い豊かなまちづくり
都市づくりの基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 県都にふさわしい広域都心の形成 2 広域的な交流・連携やまちづくりを支える交通体系の確立 3 ライフスタイルを豊かにする快適で安全な住環境と地区拠点を中心としたコンパクトな都市づくり 4 都市の個性と風格を醸成し集客力を高める都市の魅力創出 5 人と自然とが共生できる豊かな自然環境の保全・活用と身近な緑、水辺の再生 6 自然災害に備える防災機能の向上と危機管理体制の確立 7 産学官民が協働して参画する都市づくりの推進
将来都市構造	<p>■鶴崎地区拠点：JR 鶴崎駅周辺地区については、商業・業務機能と都市型居住機能の集積による地区拠点の形成を図ります。</p> 

■まちづくりの方針

1. 土地利用・市街地整備

- ・ JR 鶴崎駅周辺及び鶴崎市民行政センター周辺では、国道 197 号の拡幅整備と合わせた駅前広場の整備等の交通結節機能の強化、既存施設の有効活用を基本とした施設整備と各施設間の連携等、計画的な市街地の再生により、商業・業務施設と都市型住宅が調和し、地域に根づいた歴史や文化を生かした地区拠点の形成を図ります。
- ・ 三佐北地区においては、住環境整備事業による良好な住宅市街地の形成を推進します。
- ・ 狭あい道路や行き止まりが多い地区等においては、安全で快適な住環境の形成に向けた取組を進めます。
- ・ 松岡地区の大規模商業施設周辺においては、居住機能と商業機能が融合した利便性の高い市街地形成を図るため、隣接する大分スポーツ公園などと調和し、多くの人を惹きつける魅力ある地区として都市型観光交流拠点の形成を図ります。
- ・ 国道 197 号南バイパス周辺で先端産業系の工場が立地する地区では、内陸型産業拠点の形成をはたらきかけます。
- ・ 市街化区域内における既存の大規模な低・未利用地などについては、地域特性を考慮しつつ、道路整備など必要な基盤整備とあわせ計画的な土地利用について検討を行います。

2. 交通施設

- ・ 国道 197 号の渋滞緩和のため、車線数の不連続区間の解消に向けた取組を進めます。
- ・ 国道 197 号南バイパスと県道鶴崎大南線との交差点（毛井交差点）の立体化を目指します。
- ・ 県道鶴崎大南線の拡幅整備を促進し、隣接する地区との連携強化を図ります。
- ・ (都)乙津森町線の整備により、大南方面から市北部へ向う交通量を分散し、都市内の交通流動の円滑化を目指します。
- ・ 生活利便性の向上を図るため、広域幹線道路や都市幹線道路を補完する幹線道路の整備を推進します。
- ・ 県道松岡日岡線は、地区の南北方向の都市内連携軸としての交通機能の強化を図ります。
- ・ 国道 197 号などの渋滞緩和や住宅団地の利便性向上を図るため、猪野団地入口と鶴崎スポーツパーク付近を結ぶ（都）松原国宗線の整備を推進します。
- ・ JR 鶴崎駅においては、駅前広場の整備など駅利用者の利便性向上に向け、交通結節機能の強化を図ります。
- ・ 新たな交通システムの導入検討や東九州自動車道の活用など、大分スポーツ公園周辺へのアクセス強化の在り方について検討を進めます。

- ・歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけます。

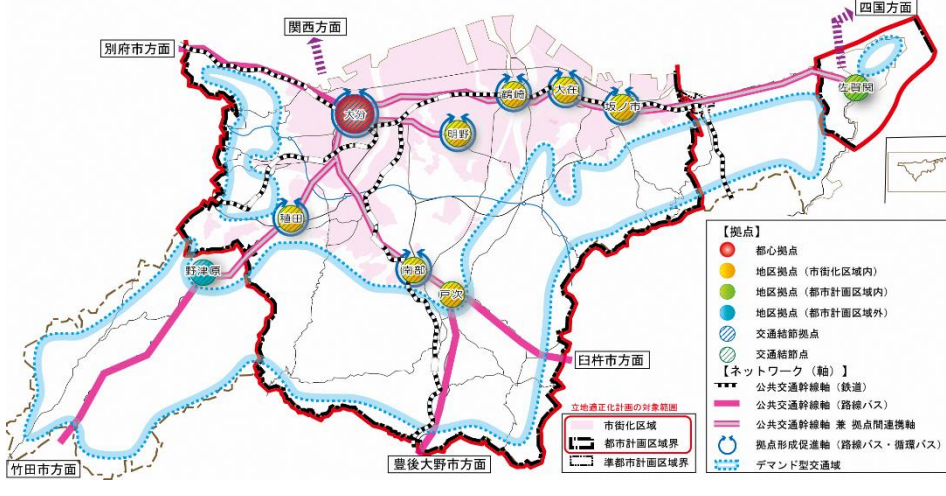
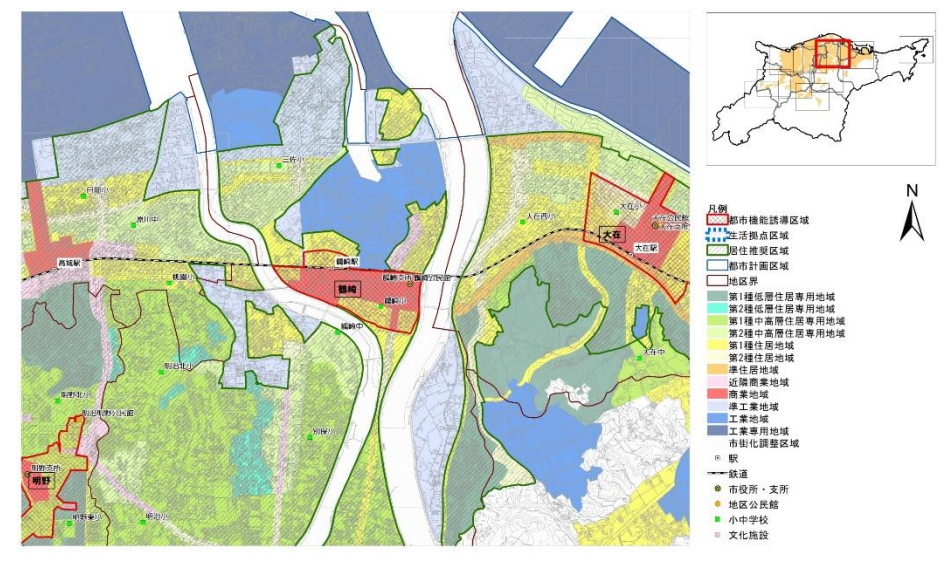
3. 環境・景観

- ・大分スポーツ公園のさらなる利活用・整備方針の検討等を推進し、大分県民のスポーツ拠点の形成を図ります。
- ・鶴崎スポーツパークを地区の核となる公園として位置付け、乙津川の親水空間を有する水辺の楽校(がっこう)などの活用を推進します。
- ・大野川や乙津川の水質保全と河畔林の整備、また、河川空間を生かした水辺空間の整備、自転車道の整備を図ります。
- ・九六位山を中心とする山地・丘陵地の自然環境の保全を図るとともに、森林に親しめる環境の整備を推進します。
- ・高尾山を中心とした自然環境の保全と活用を図ります。
- ・大野川や乙津川沿いに広がる優良農地と田園環境の保全を図ります。
- ・高田輪中地区においては、河川の恩恵や災害に抗する生活の知恵の中で形づくられた輪中の伝統を踏まえた景観の形成・保全を推進します。
- ・横尾地区に残る国指定史跡横尾貝塚等の歴史資源を生かした公園整備を推進します。
- ・東九州自動車道松岡パーキングを生かした大分スポーツ公園へのアクセスを検討するとともに、その周辺地区における地域の特色を生かした活動の維持・増進、にぎわいの創出に向けた取組を支援します。

4. その他

- ・河川の堤防の強化などのインフラの整備により、地域全体の防災面の強化を図ります。
- ・空き家や空き地を生かした地域コミュニティ活動の推進を図ります。
- ・森地区について、計画的な雨水排水ポンプ場の建設や雨水管きよの整備を推進します。
- ・汚水処理の未普及対策として、人口密度の高い地域や住民意向調査による早期接続に見込める地区を優先的に整備します。あわせて官民連携による設計・施工一括発注方式（DB）による汚水管きよ整備を実施します。

(3) 大分市立地適正化計画

<p>策定年月</p>	<p>2019（平成31）年3月</p>
<p>目標年次</p>	<p>2040（令和22）年</p>
<p>都市づくりの基本理念</p>	<p>元気・安心・快適な暮らしを支える 将来にわたって持続可能な『多極ネットワーク型集約都市』の形成</p>
<p>都市づくりの基本方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 県都にふさわしい風格とにぎわいのある大分都心拠点づくり 2 地域特性を生かした個性と魅力あふれる地区拠点づくり 3 だれもが安心して暮らし続けることができる居住環境づくり 4 交流とつながりをはぐくむ公共交通ネットワークづくり
<p>目指すべき 将来都市構造イメージ</p>	 <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心拠点 ● 地区拠点（市街化区域内） ● 地区拠点（都市計画区域内） ● 地区拠点（都市計画区域外） ● 交通結節点 ● 交通結節点 <p>【ネットワーク（軸）】</p> <ul style="list-style-type: none"> — 公共交通幹線軸（鉄道） — 公共交通幹線軸（路線バス） — 公共交通幹線軸 兼 拠点間連絡軸 — 拠点形成促進軸（路線バス・循環バス） — デマンド型交通 <p>立地適正化計画の対象範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街化区域 都市計画区域界 準都市計画区域界 <p>別府市方面、関西方面、四国方面、臼杵市方面、豊後大野市方面、竹田市方面</p>
<p>誘導区域及び 誘導施設</p>	<p>■ 鶴崎地区の都市機能誘導区域及び居住推奨区域</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 都市機能誘導区域 ■ 生活拠点区域 ■ 居住推奨区域 ■ 都市計画区域 ■ 地区界 ■ 第1種低層住居専用地域 ■ 第2種低層住居専用地域 ■ 第1種中高層住居専用地域 ■ 第2種中高層住居専用地域 ■ 第1種住居地域 ■ 第2種住居地域 ■ 準住居地域 ■ 近隣商業地域 ■ 商業地域 ■ 準工業地域 ■ 工業地域 ■ 工業専用地域 ■ 市街化調整区域 ○ 駅 ○ 市役所・支所 ○ 地区公民館 ○ 小中学校 ○ 文化施設 <p>■ 誘導施設（都市機能誘導区域内において、立地を誘導すべき都市機能増進施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模商業施設（1,000㎡超） ○ 商店街内店舗 ○ こどもルーム ○ 地区公民館 ○ 支所 ○ 主要な鉄道駅

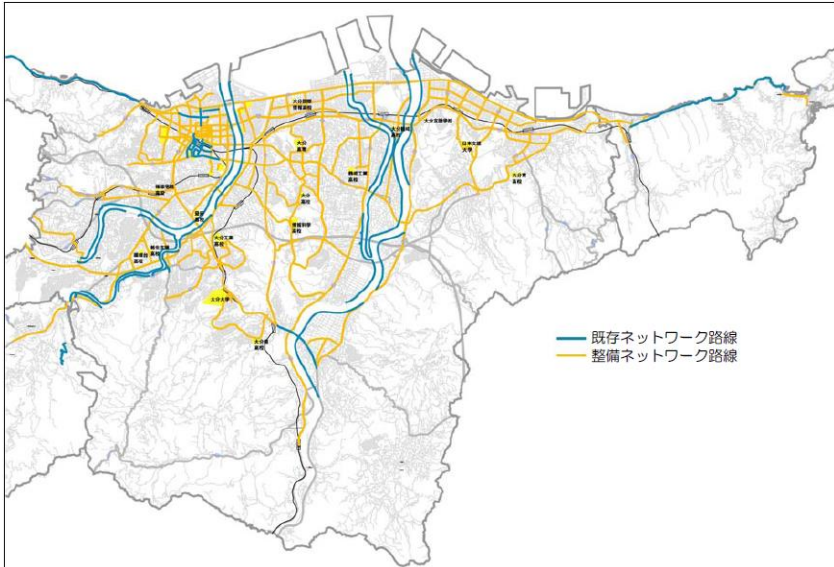
(4) 大分都市圏総合都市交通計画

策定年月	2021（令和3）年3月								
目標年次	2035（令和17）年								
都市圏における交通体系の将来像	将来にわたって安心して利用でき、地域の活力と都市圏の発展を支える交通体系								
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 他都市圏との活発な交流・連携を支援する広域交通体系 2 拠点集約型まちづくりを支援する持続可能な交通体系 3 安全・安心な移動により生活を支える交通体系 								
県都・大分市の将来交通体系	<p>■大分市における道路ネットワーク</p>  <p>注）短期：概ね5年程度、中期：概ね10年程度、長期：概ね10～20年程度</p> <p>■大分市における道路ネットワークに関する整備候補路線</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>路線名</th> <th>区間</th> <th>供用を目指す時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9</td> <td>(国道197号) 駄ノ原細線</td> <td>乙津町～大字志村 【乙津交差点～志村交差点】</td> <td>中期</td> </tr> </tbody> </table>	No	路線名	区間	供用を目指す時期	9	(国道197号) 駄ノ原細線	乙津町～大字志村 【乙津交差点～志村交差点】	中期
No	路線名	区間	供用を目指す時期						
9	(国道197号) 駄ノ原細線	乙津町～大字志村 【乙津交差点～志村交差点】	中期						
大分市における地区毎の主な公共交通施策（鶴崎地区）	<p>■幹線交通網の強化策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鶴崎駅を中心とした交通結節機能の強化 ○大型商業施設やスポーツ施設を有する明野地区との連携強化 ○大分地区への効率的な交通システムの検討 <p>■地域内交通網の強化策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○沿岸工業地帯、内陸産業拠点との連絡強化 								

(5) 大分市地域公共交通計画

策定年月	2022（令和4）年3月																
目標年次	2022（令和4）年度～2026（令和8）年度																
地域公共交通の 基本理念	市民・交通事業者・行政が連携し、だれもが快適に 移動できる公共交通ネットワークの構築を目指す。																
本市における地域公共 交通の基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化 2 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を活かした個性的で魅力ある地区拠点の形成を支える公共交通ネットワークの構築 3 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築 4 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備 																
目標を達成するために 行う取組の全体像	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基本方針</th> <th>目標</th> <th>取組の全体像</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化</td> <td>だれもが安心して生活できる生活交通の確保</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線、地域公共交通ネットワークのあり方検討） ◆ 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び見直しの検討 ◆ 地域内の移動手段の調査・検討 ◆ 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 ◆ 新たなモビリティサービスの調査・検討（その他） ◆ 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 ◆ 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し </td> </tr> <tr> <td>(2) 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を活かした個性的で魅力ある地区拠点の形成を支える公共交通ネットワークの構築</td> <td>都市拠点と地区拠点のにぎわい創出</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の運行 ◆ 中心市街地公有地活用の調査・検討 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討（グリーンズローモビリティ） ◆ 海上アクセスに関連する取組（MaaS等） ◆ パークアンドライドやサイクルアンドバスライド等の取組の促進 ◆ 新駅設置の可能性・役割の検討 </td> </tr> <tr> <td>(3) 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築</td> <td>公共交通利用者の維持・確保</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 移動需要に応じた運行の見直し（地域旅客サービス継続事業の検討） ◆ 公共交通の連携可能性調査（地域公共交通利便増進事業の検討） ◆ 県都大分市交通円滑化検討（BRTの検討） ◆ 公共交通の利用促進に向けた取組（モビリティ・マネジメント） ◆ 広域圏の公共交通との連携強化 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討（自動運転） </td> </tr> <tr> <td>(4) 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備</td> <td>だれもが利用しやすい公共交通</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ バスロケ及びデジタルサイネージの運用 ◆ 低床バス、UDタクシーの導入促進等 ◆ 公共交通の情報発信の取組強化 ◆ 市民・来訪者の受入環境整備（観光戦略プランとの整合） ◆ バス停上屋、接続バス停の待合環境整備 </td> </tr> </tbody> </table>		基本方針	目標	取組の全体像	(1) すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化	だれもが安心して生活できる生活交通の確保	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線、地域公共交通ネットワークのあり方検討） ◆ 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び見直しの検討 ◆ 地域内の移動手段の調査・検討 ◆ 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 ◆ 新たなモビリティサービスの調査・検討（その他） ◆ 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 ◆ 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し 	(2) 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を活かした個性的で魅力ある地区拠点の形成を支える公共交通ネットワークの構築	都市拠点と地区拠点のにぎわい創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の運行 ◆ 中心市街地公有地活用の調査・検討 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討（グリーンズローモビリティ） ◆ 海上アクセスに関連する取組（MaaS等） ◆ パークアンドライドやサイクルアンドバスライド等の取組の促進 ◆ 新駅設置の可能性・役割の検討 	(3) 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築	公共交通利用者の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 移動需要に応じた運行の見直し（地域旅客サービス継続事業の検討） ◆ 公共交通の連携可能性調査（地域公共交通利便増進事業の検討） ◆ 県都大分市交通円滑化検討（BRTの検討） ◆ 公共交通の利用促進に向けた取組（モビリティ・マネジメント） ◆ 広域圏の公共交通との連携強化 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討（自動運転） 	(4) 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備	だれもが利用しやすい公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ◆ バスロケ及びデジタルサイネージの運用 ◆ 低床バス、UDタクシーの導入促進等 ◆ 公共交通の情報発信の取組強化 ◆ 市民・来訪者の受入環境整備（観光戦略プランとの整合） ◆ バス停上屋、接続バス停の待合環境整備
基本方針	目標	取組の全体像															
(1) すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化	だれもが安心して生活できる生活交通の確保	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線、地域公共交通ネットワークのあり方検討） ◆ 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び見直しの検討 ◆ 地域内の移動手段の調査・検討 ◆ 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 ◆ 新たなモビリティサービスの調査・検討（その他） ◆ 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 ◆ 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し 															
(2) 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を活かした個性的で魅力ある地区拠点の形成を支える公共交通ネットワークの構築	都市拠点と地区拠点のにぎわい創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の運行 ◆ 中心市街地公有地活用の調査・検討 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討（グリーンズローモビリティ） ◆ 海上アクセスに関連する取組（MaaS等） ◆ パークアンドライドやサイクルアンドバスライド等の取組の促進 ◆ 新駅設置の可能性・役割の検討 															
(3) 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築	公共交通利用者の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 移動需要に応じた運行の見直し（地域旅客サービス継続事業の検討） ◆ 公共交通の連携可能性調査（地域公共交通利便増進事業の検討） ◆ 県都大分市交通円滑化検討（BRTの検討） ◆ 公共交通の利用促進に向けた取組（モビリティ・マネジメント） ◆ 広域圏の公共交通との連携強化 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討（自動運転） 															
(4) 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備	だれもが利用しやすい公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ◆ バスロケ及びデジタルサイネージの運用 ◆ 低床バス、UDタクシーの導入促進等 ◆ 公共交通の情報発信の取組強化 ◆ 市民・来訪者の受入環境整備（観光戦略プランとの整合） ◆ バス停上屋、接続バス停の待合環境整備 															

(7) 大分市自転車活用推進計画

策定年月	2020（令和2）年4月
計画期間	2020（令和2）年度～2024（令和6）年度
基本方針	バイシクルフレンドリータウン ～自転車が似合うまち～の創造
施策の体系	<p>目標1 自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた</p> <p>都市環境</p> <p>1. 安全で快適な自転車通行空間づくり (1) 「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進 (2) 自転車通行空間を確保するための取組 (3) 自転車案内サイン整備の推進</p> <p>2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり (1) 「大分市自転車等駐車場整備計画」の推進 (2) 附置義務による民間駐輪場の確保 (3) 放置自転車対策の推進 (4) 自転車盗難対策の推進</p> <p>3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり (1) シェアサイクル事業の推進 (2) サイクルアンドライドの促進 (3) 将来的な MaaS 導入を見据えた自転車利用環境の構築 (4) IoT等の活用</p> <p>目標2 自転車で 心と体が元気になるまち おおいた</p> <p>健康</p> <p>4. 情報発信等による自転車利用の促進 (1) 自転車の魅力の発信 (2) 自転車通勤の促進</p> <p>5. サイクルスポーツの普及促進 (1) サイクルスポーツに親しむ機会の創出 (2) 多様な自転車を楽しめる環境づくり</p> <p>目標3 自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた</p> <p>観光</p> <p>6. 自転車を活かした観光・地域振興の推進 (1) 市民参加・体験型のサイクリングイベント等の実施 (2) 観光地における自転車利用環境の充実 (3) 自転車マップの充実</p> <p>7. サイクルツーリズムの推進 (1) 市域を超えたサイクリングイベントの開催 (2) サイクリングの拠点づくり (3) 広域サイクリングルートの構築</p> <p>目標4 自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた</p> <p>思いやり ＜安全・安心＞</p> <p>8. 安全な自転車等の普及促進 (1) 安全基準に適合した自転車購入の促進 (2) 自転車の点検整備の促進 (3) 自転車損害賠償責任保険の加入促進</p> <p>9. 自転車ルール・マナーの啓発 (1) 自転車安全利用五則の周知 (2) 世代に応じた自転車ルール・マナーの啓発 (3) 自転車ヘルメット着用の促進 (4) 通学路等の安全の確保</p> <p>10. 災害時の自転車活用方策の検討 (1) 災害時に備えた市職員の自転車利用の促進 (2) 災害発生時における放置自転車等の活用 (3) 災害発生時におけるシェアサイクルの活用</p>
具体的な取組 1 安全で快適な自転車通行空間づくり	<p>(1) 「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進</p> <p>■ネットワーク路線</p> 

(8) 大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画

策定年月	2021（令和3）年3月
計画期間	2021（令和3）年度～2025（令和7）年度
基本方針	<p>ハード施策の基本方針 ：「安全で快適な自転車通行空間づくり」</p> <p>ソフト施策の基本方針 ：「安全な自転車等の普及促進 自転車ルール・マナーの啓発」</p>
施策の体系	<p>■ハード施策とソフト施策の基本的な考え方</p> <p>ハード施策の基本的な考え方</p> <p>＜ネットワークの早期実現＞</p> <p>○新規整備を行う道路については、自転車通行空間整備の検討を行う。</p> <p>既存道路への自転車ネットワーク整備は課題が多く、時間がかかるのはやむを得ないが、新規整備を行う道路において自転車通行空間の確保を積極的に推進することで、自転車ネットワークの早期実現を目指す。</p> <p>＜整備形態の選定＞</p> <p>○自転車は車道の左側を通行するという原則に沿った自転車通行空間の整備を行う。</p> <p>車両である自転車は車道の左側を走るといった原則に沿った、自転車道、自転車通行帯、車道混在の3つの整備形態を基本として自転車通行空間の整備を推進する。やむを得ず自転車歩行者道内での歩行者と自転車の分離を行う場合は、自転車ネットワークの暫定的な整備形態と位置付ける。</p> <p>ソフト施策の基本的な考え方</p> <p>＜ルール・マナーの実践＞</p> <p>○自転車は車道の左側を通行するという原則に沿った道路利用を促す。</p> <p>自転車通行空間を整備するだけでは、すべての人が正しく利用するとは限らず、逆走などが発生して危険な場合があることから、様々なソフト施策の推進により、車両である自転車は車道の左側を走るといった原則や歩道走行時のルール等を市民に広く認知させるとともに、実践につなげることを目指す。</p> <p>＜お互いに配慮する市民意識（思いやり）の醸成＞</p> <p>○すべての道路利用者がお互いに配慮する意識づくりを目指す。</p> <p>自転車通行空間が未整備の道路においても、歩行者、自転車、自動車のすべての道路空間利用者が自転車のルール・マナーについて理解し、お互いに配慮する市民意識（思いやり）を持つことを目指す。</p>
ネットワーク計画	<p>■ネットワーク計画図</p> 

(9) 鶴崎地域まちづくりビジョン

策定年月	2018（平成30）年7月																					
鶴崎地域の将来像	みんなが住みたくなる 伝統と文化のあるまち																					
市長への提言	提言1 鶴崎の伝統・文化を「まもり」「つなげる」「いかす」 提言2 豊かな川の恵みをつつめなおす 提言3 鶴崎駅や鶴崎市民行政センター周辺を核とした街のにぎわいづくり 提言4 将来住みたくなる街づくりに向けた取組を推進																					
提言に基づく提案事業 (本地区に関わる提言を抜粋)	■将来像の実現に向けた取組（事業案）一覧 <table border="1"> <thead> <tr> <th>提言</th> <th>事業名</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>豊かな歴史と伝統文化の継承</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「鶴崎踊」「三佐の山車」「けんか祭り」などの伝統や文化を継承する ・伝統文化継承の拠点となる鶴崎公民館を整備する ・地域の子どもが伝統文化とふれあう取組を行う </td> </tr> <tr> <td>史実の顕彰による観光連携の強化</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史を活かした観光交流の推進を行う(鶴崎にゆかりのある偉人と関係する地域との観光協定など) ・新たな観光施設を整備する </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>鶴崎駅周辺の整備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴崎駅周辺のバスの利便性を向上させる ・地域を循環するバス路線があればまちの活性化につながる ・鶴崎駅周辺にカフェやレストランができればにぎやかになる </td> </tr> <tr> <td>鶴崎市民行政センター周辺の整備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・防災機能を持った総合コミュニティセンターとして、鶴崎公民館を整備する(エスペランサ・コレジオ、老人いこいの家、防災対策など) ・公民館の機能充実、利用者の利便性の確保を図るための鶴崎公園の整備 </td> </tr> <tr> <td rowspan="3">4</td> <td>地域全体の防災力の強化</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のインフラを強化して防災面を強化する ・地域住民の防災意識を向上させる </td> </tr> <tr> <td>空き家、空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の利便性を活かして、空き家や空き地に集合住宅を建設するなど地域コミュニティの場を整備する </td> </tr> <tr> <td>将来住みたくなる街づくり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・道路や公共交通の機能を充実させ、生活の利便性を向上させる ・子どもや高齢者福祉を充実する ・地域の歴史を活かした街づくりを行う ・企業の誘致や地域の大企業との連携を行う ・鶴崎駅前を活性化させる ・地域の少子高齢化への対策を行う </td> </tr> </tbody> </table>		提言	事業名	概要	1	豊かな歴史と伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・「鶴崎踊」「三佐の山車」「けんか祭り」などの伝統や文化を継承する ・伝統文化継承の拠点となる鶴崎公民館を整備する ・地域の子どもが伝統文化とふれあう取組を行う 	史実の顕彰による観光連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を活かした観光交流の推進を行う(鶴崎にゆかりのある偉人と関係する地域との観光協定など) ・新たな観光施設を整備する 	3	鶴崎駅周辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴崎駅周辺のバスの利便性を向上させる ・地域を循環するバス路線があればまちの活性化につながる ・鶴崎駅周辺にカフェやレストランができればにぎやかになる 	鶴崎市民行政センター周辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能を持った総合コミュニティセンターとして、鶴崎公民館を整備する(エスペランサ・コレジオ、老人いこいの家、防災対策など) ・公民館の機能充実、利用者の利便性の確保を図るための鶴崎公園の整備 	4	地域全体の防災力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のインフラを強化して防災面を強化する ・地域住民の防災意識を向上させる 	空き家、空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の利便性を活かして、空き家や空き地に集合住宅を建設するなど地域コミュニティの場を整備する 	将来住みたくなる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や公共交通の機能を充実させ、生活の利便性を向上させる ・子どもや高齢者福祉を充実する ・地域の歴史を活かした街づくりを行う ・企業の誘致や地域の大企業との連携を行う ・鶴崎駅前を活性化させる ・地域の少子高齢化への対策を行う
提言	事業名	概要																				
1	豊かな歴史と伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・「鶴崎踊」「三佐の山車」「けんか祭り」などの伝統や文化を継承する ・伝統文化継承の拠点となる鶴崎公民館を整備する ・地域の子どもが伝統文化とふれあう取組を行う 																				
	史実の顕彰による観光連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を活かした観光交流の推進を行う(鶴崎にゆかりのある偉人と関係する地域との観光協定など) ・新たな観光施設を整備する 																				
3	鶴崎駅周辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴崎駅周辺のバスの利便性を向上させる ・地域を循環するバス路線があればまちの活性化につながる ・鶴崎駅周辺にカフェやレストランができればにぎやかになる 																				
	鶴崎市民行政センター周辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能を持った総合コミュニティセンターとして、鶴崎公民館を整備する(エスペランサ・コレジオ、老人いこいの家、防災対策など) ・公民館の機能充実、利用者の利便性の確保を図るための鶴崎公園の整備 																				
4	地域全体の防災力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のインフラを強化して防災面を強化する ・地域住民の防災意識を向上させる 																				
	空き家、空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の利便性を活かして、空き家や空き地に集合住宅を建設するなど地域コミュニティの場を整備する 																				
	将来住みたくなる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や公共交通の機能を充実させ、生活の利便性を向上させる ・子どもや高齢者福祉を充実する ・地域の歴史を活かした街づくりを行う ・企業の誘致や地域の大企業との連携を行う ・鶴崎駅前を活性化させる ・地域の少子高齢化への対策を行う 																				

(10) 鶴崎市民行政センター周辺整備基本計画

<p>策定年月</p>	<p>2019（平成31）年3月</p>
<p>計画対象地区及び土地利用の基本方針</p>	
<p>施設整備の基本的方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「行政・教育・文化・福祉機能」の改修・整備 ■ 「鶴崎公園」のリニューアル ■ 「鶴崎大神宮」の現位置保存
<p>施設配置計画図</p>	

2. 関連事業

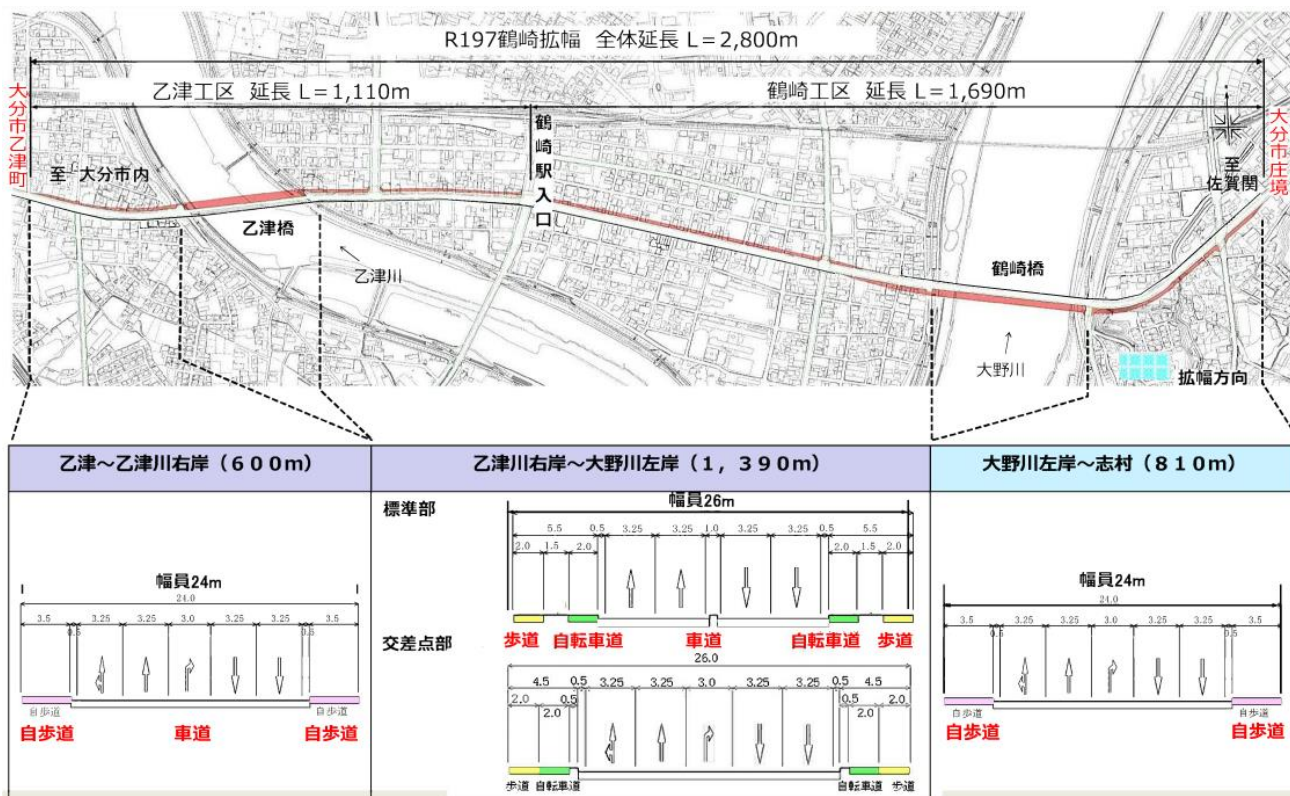
鶴崎地区では、上位・関連計画等に基づき、既に様々な関連事業が実施されています。
ここでは、現在進行中の主な関連事業を紹介します。

1) 国道 197 号鶴崎拡幅事業（志村～乙津間 4 車線化）

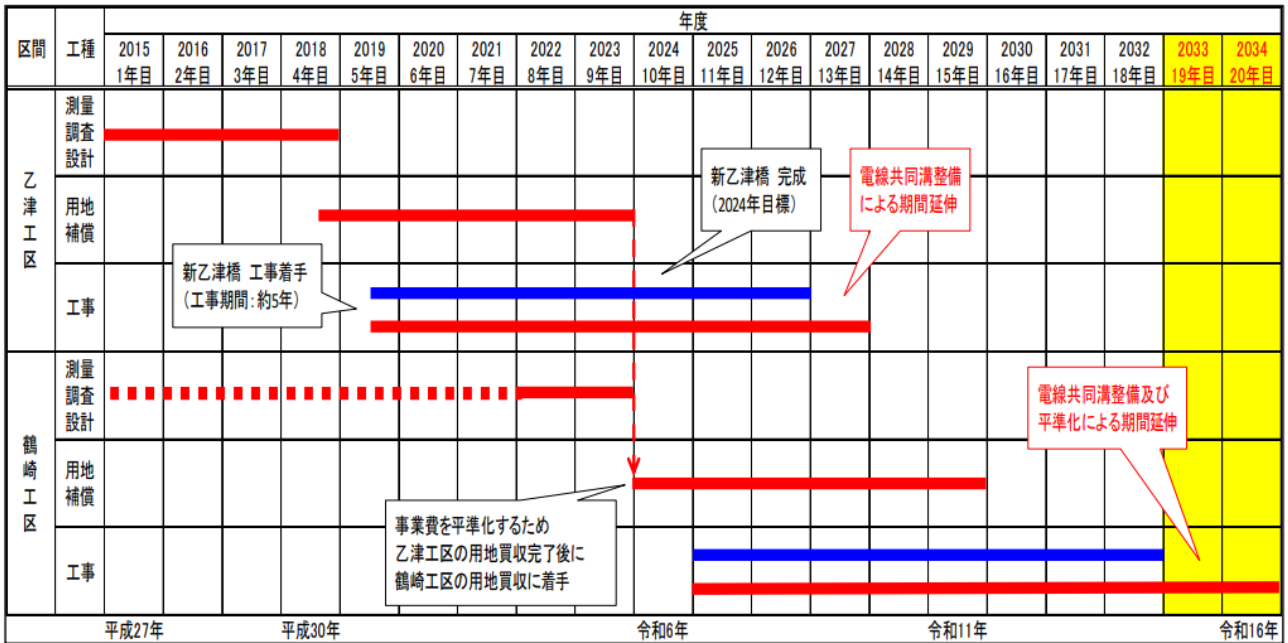
鶴崎拡幅事業は、大分市東部地区の慢性的な交通渋滞の解消を図るため、また、歩行者・自転車通行時の安全性、快適性向上のため、国道 197 号を延長 L=2.8 km 区間に渡って整備するものです。

この区間は現在、車線数が 2 車線～4 車線と変則的であり通勤時間帯を中心に上下線ともに交通混雑が発生しています。また、周辺小学校の通学路となっていますが、朝の通学時間帯は自転車の利用も多く歩行者がすれ違うのも難しい状況となっています。そのため、車道を片側 2 車線の 4 車線とし、歩道も現在より拡幅し両側歩道として整備を行うものです。

- ・ 全体延長 L = 2,800m
- ・ 幅員 W = 車道部 (4 車線) 13.0m (全体 24.0~26.0m)
- ・ 計画期間 2015 (平成 27) 年度～2034 (令和 16) 年度
- ・ 事業費 約 170 億円



事業実施スケジュール



※青は再評価前、赤は再評価後。全体事業期間を2ヶ年延伸しています。

2) 鶴崎公園再整備事業

鶴崎公園は面積が約2haの都市公園（近隣公園）であり、地域の安らぎやレクリエーションの場として利用されている。しかしながら、閉鎖性の面で課題を抱えており、利用者のニーズに沿った施設へリニューアルを図るとともに、リノベーションされる鶴崎公民館との連携や県道沿いのまちなみや大野川等との連携及び鶴崎踊りの開催場所として活用できるよう再整備を行う。

【整備内容】園路整備、多目的広場整備、遊戯施設整備、駐車場整備、植栽・照明・給排水



(整備イメージ)

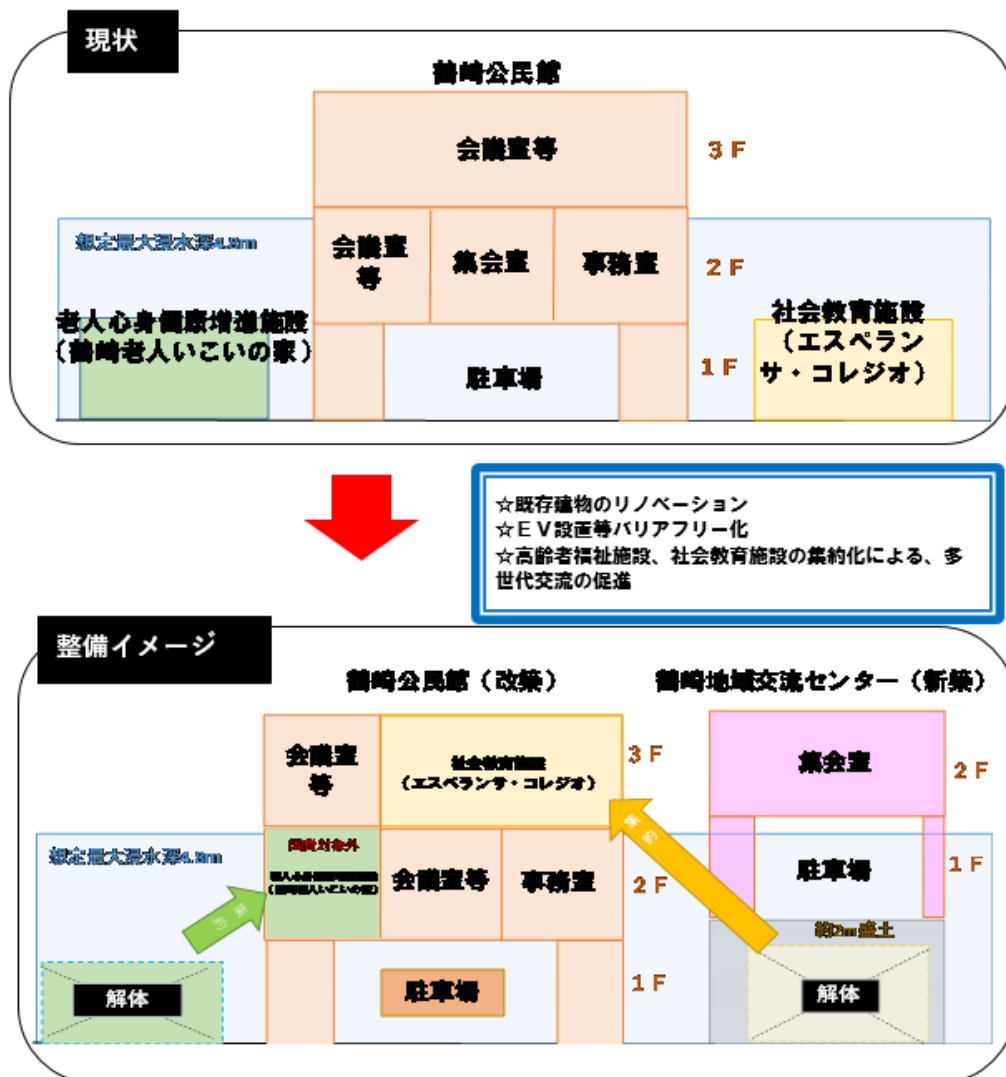
3) 鶴崎公民館改築事業

鶴崎公民館にはエレベーターがなく、高齢者、障がい者の利用を妨げています。また、鶴崎公民館に隣接する老人いこいの家（老人心身健康増進施設）やエスペランサ・コレジオ（社会教育施設）は、公民館と別施設となっており、平屋建てのため、災害時に浸水する可能性が高いうえ、施設の利用者がそれぞれ別の世代に分かれており、多世代交流が図れていません。

そのため、鶴崎公民館にエレベーターを設置し、老人いこいの家やエスペランサ・コレジオの機能を公民館のなかに集約することで、誰もが利用できる施設にするとともに、災害に強いまちづくりに繋げるとともに、多世代交流を促進し、施設の機能強化を図ります。

4) 鶴崎地域交流センター整備事業

鶴崎公民館は、災害時の避難所、緊急避難場所に位置付けられているが、公民館の周辺一帯は洪水時の浸水想定区域（想定浸水深約 4.8m）に入っていることから、災害に強いまちづくりに繋げるため、それを上回る床高で地域交流センターを建設します。



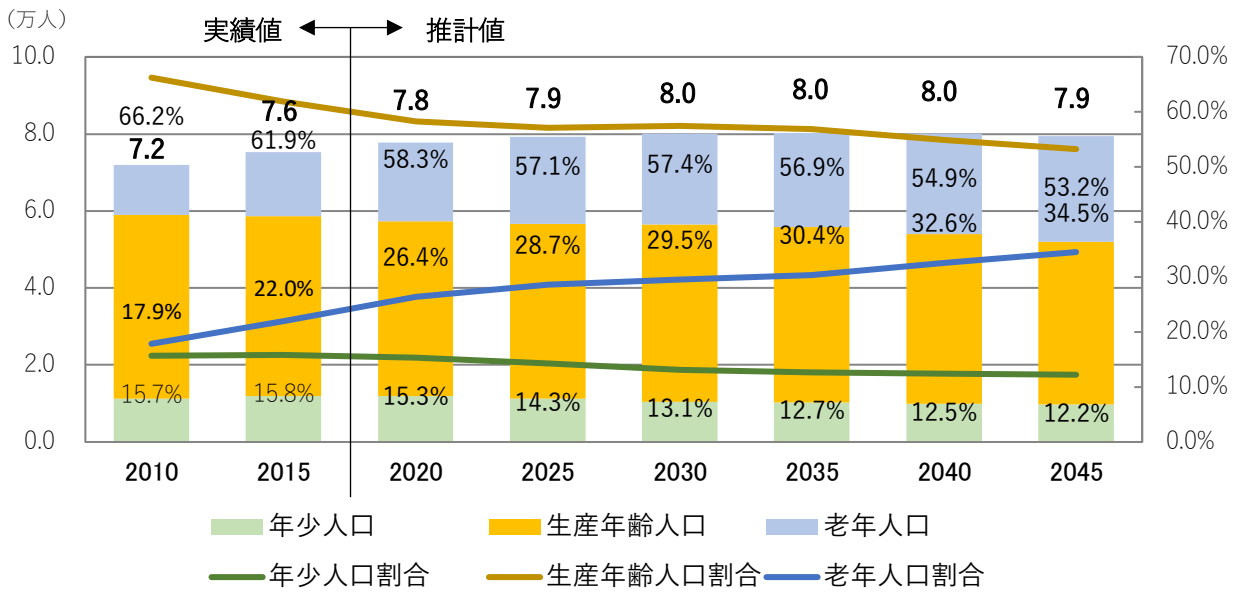
(整備イメージ)

第2章 鶴崎駅周辺の現況

1. 人口動向

(1) 鶴崎地区の人口推移

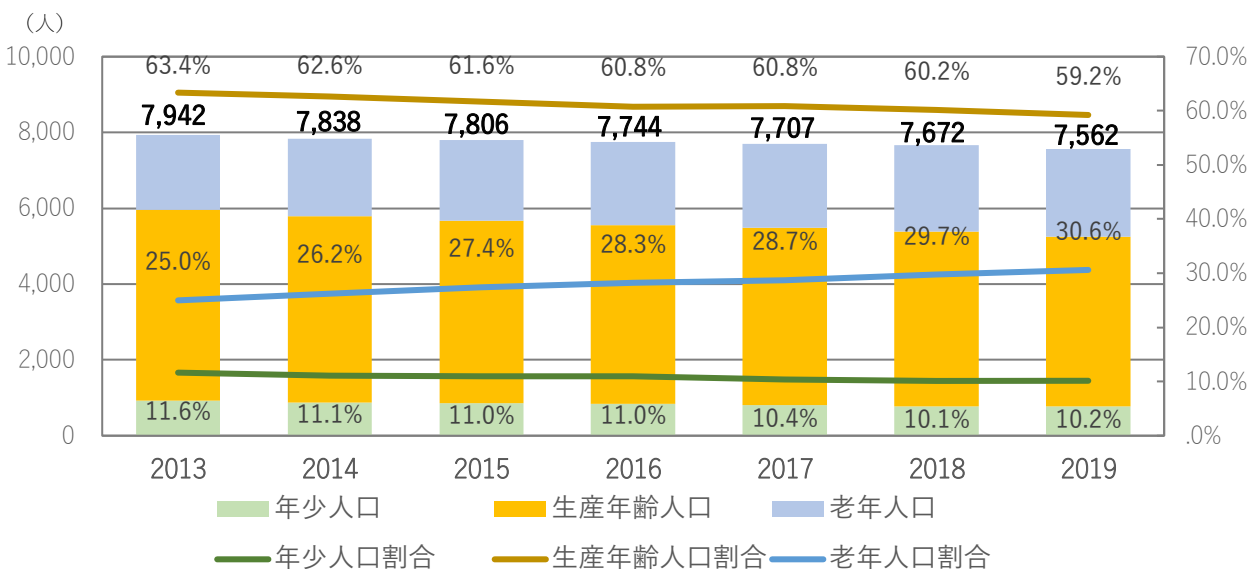
2015年の鶴崎地区全体の人口は、7.6万人で市の総人口の約15.8%を占めています。2045（令和27）年の人口は、7.9万人まで増加する見込みで、増加率は約5.1%となっています。



資料：大分市人口ビジョン

(2) 鶴崎校区の人口推移

鶴崎駅周辺地区が含まれる鶴崎校区の2019年人口は、7,562人で近年減少傾向にあります。年少人口割合は10.2%、老年人口割合は30.6%で、少子高齢化が進行していることが伺えます。



資料：住民基本台帳（各年10月末日）

2. 鉄道の利用状況

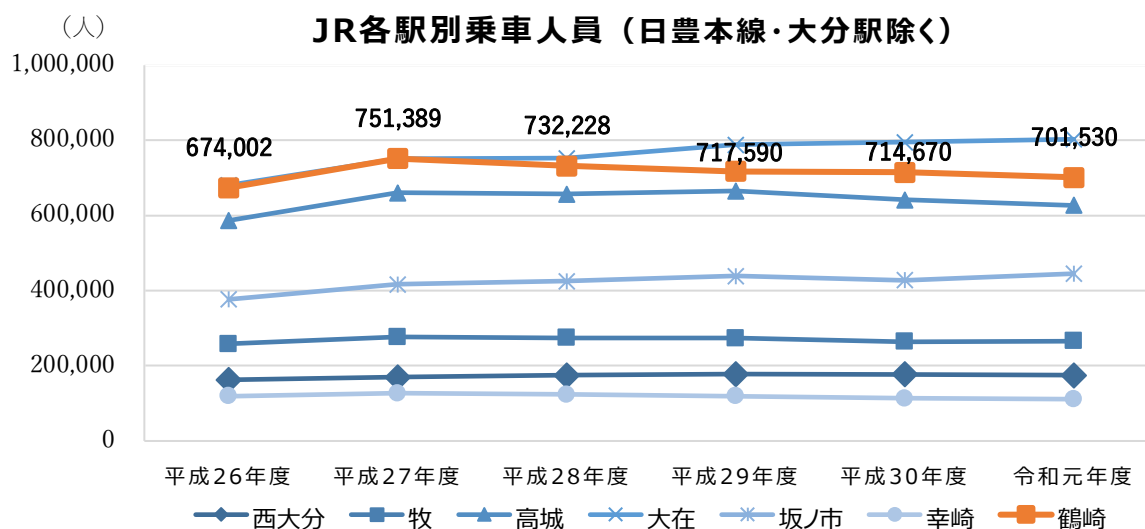
JR 鶴崎駅は、大分市内で3番目に乗車人員が多く、令和元年度における乗車人員は70万1530人、日平均乗車人員は1,922人です。乗車人員の推移を見ると、平成27年度から減少傾向にあり、平成27年度と比較して6.6%減少しています。

大分市内における鉄道駅の年間乗車人員（人）

	鉄道駅名	路線	年間乗車人員（人）	
			平成30年度	令和元年度
1	大分	日豊本線	6,959,455	6,810,900
2	大在	日豊本線	794,970	803,000
3	鶴崎	日豊本線	714,670	701,530
4	高城	日豊本線	642,035	627,435
5	大分大学前	豊肥本線	600,790	598,235
6	坂ノ市	日豊本線	428,145	445,300
7	敷戸	豊肥本線	399,310	389,090
8	中判田	豊肥本線	315,360	307,330
9	牧	日豊本線	263,895	265,720
10	賀来	久大本線	206,225	199,655
11	南大分	久大本線	200,020	197,100
12	古国府	久大本線	173,010	175,930
13	西大分	日豊本線	177,025	175,200
14	滝尾	豊肥本線	144,175	137,240
15	豊後国分	久大本線	124,100	122,640
16	幸崎	日豊本線	113,150	111,325
-	竹中	豊肥本線	不明	不明

日豊本線の各鉄道駅別乗車人員の推移（大分駅を除く）

※新型コロナウイルス感染症により令和2年度から乗降客数が減少しているため、令和元年度以前のデータを使用しています。



資料：大分市の統計

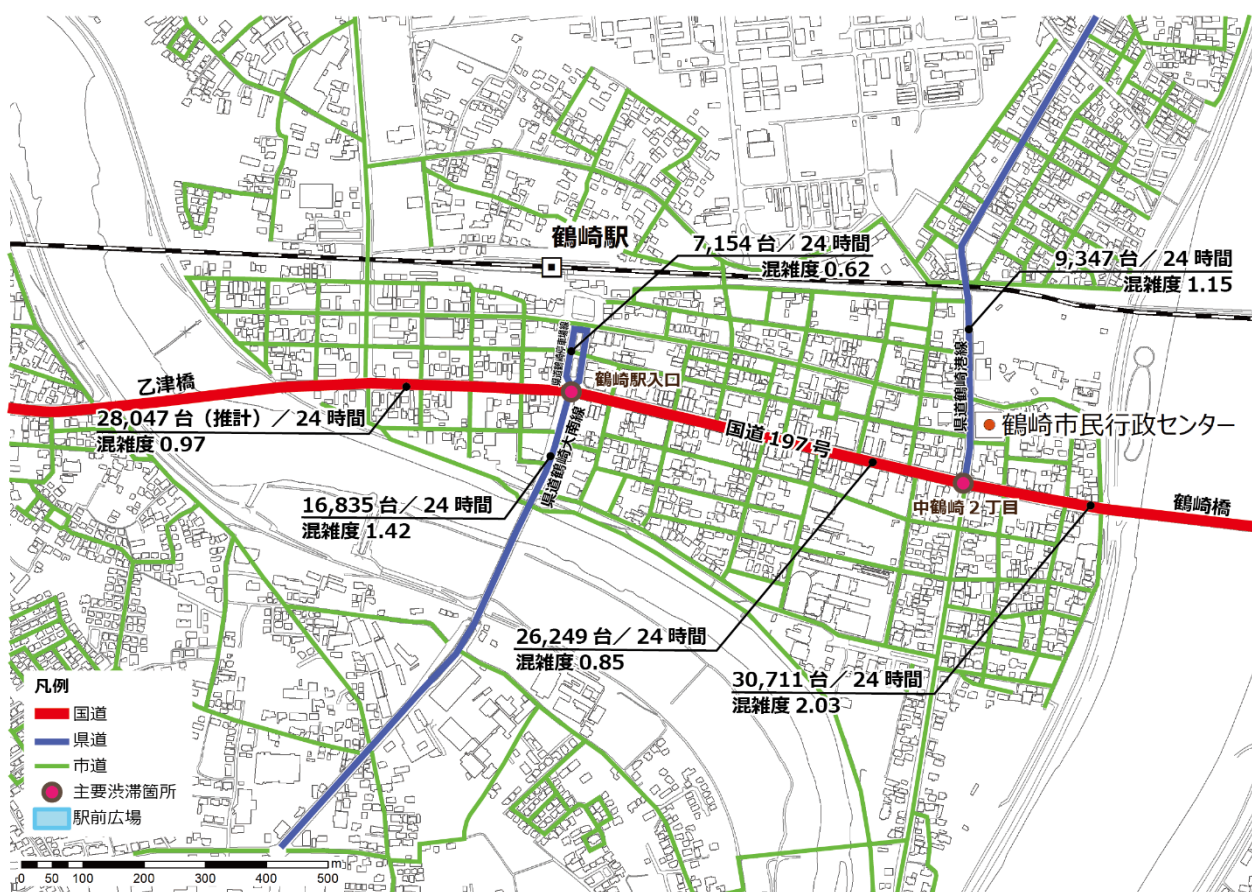
3. 交通環境

(1) 道路環境

地区周辺の道路ネットワークは、大分市の東西を結ぶ国道 197 号が軸となっており、本地区から南へ延びる県道鶴崎大南線、市道東鶴崎下徳丸線（(都) 家島高田線）や、臨海工業地帯へのアクセス道路である県道鶴崎港線、市道鶴崎・三佐線（(都) 寺司三佐線）で構成されています。

平成 27 年度道路交通センサスによれば、交通量が多い国道 197 号（約 26,000～31,000 台/24 時間）では、「中鶴崎 2 丁目交差点」と「鶴崎駅入口交差点」が主要渋滞箇所となっています。また、県道鶴崎大南線（皆春町）の交通量は約 17,000 台/24 時間で、混雑度が 1.42 と比較的高くなっています。

道路ネットワークと交通量の状況



資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査

混雑度の目安

混雑度	道路混雑の状況
1.00 以下	道路が混雑することなく、円滑に走行できる。
1.00～1.25	道路が混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間あるものの、何時間も混雑が連続する可能性は小さい。
1.25～1.75	ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。
1.75～2.00	慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 50%に達する。
2.00 以上	慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 70%に達する。

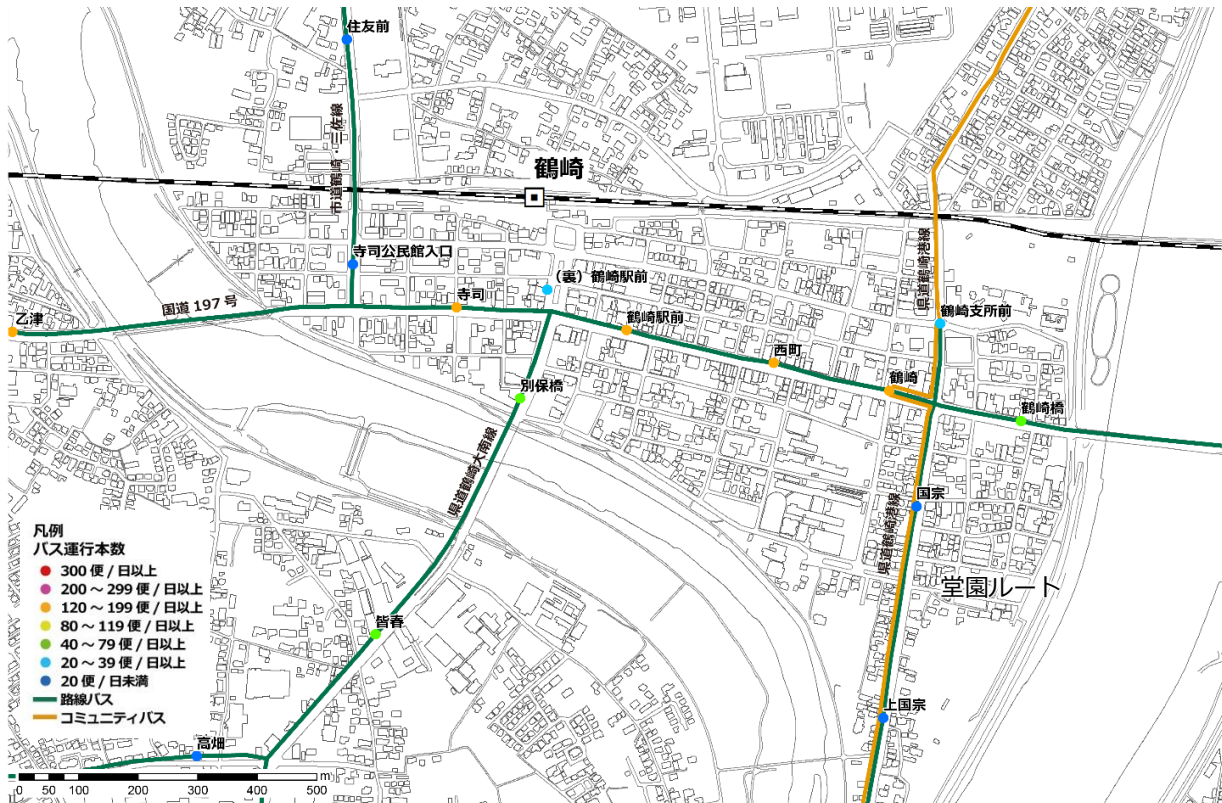
(2) 公共交通ネットワーク

公共交通ネットワークは、JR 日豊本線が鶴崎駅を介して、上りで大分駅方面及び下りで宮崎県・鹿児島県方面を連絡しています。

路線バスは、大分バスが国道 197 号沿線をはじめ、県道鶴崎大南線や市道東鶴崎下徳丸線（（都）家島高田線）沿線、市道鶴崎・三佐線（（都）寺司三佐線）沿線で運行しています。特に、国道 197 号沿線のバス停では、運行本数が多くなっています。

また、鶴崎バス停から家島方面及び学園方面に向けてふれあい交通が運行されています。

公共交通ネットワークの状況



資料：大分バス時刻表

(3) 自転車の利用環境

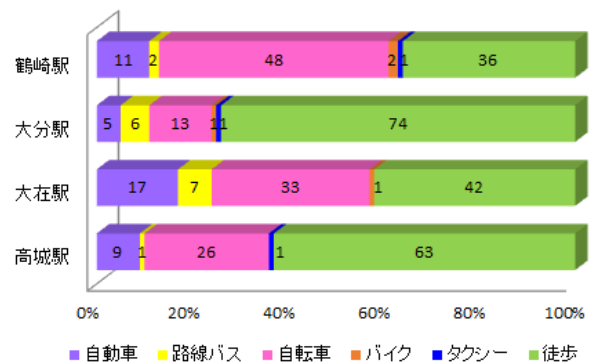
JR 鶴崎駅を利用する方の 48%は、通勤・通学などで自転車を利用されています。駅周辺には、2箇所（自転車収容台数約 700 台）に駐輪場を整備していますが、景観的・動線的な問題があり、快適に利用しにくい状態です。周辺の道路には、自転車専用レーンなどの自転車走行空間が確保されていない状況です。

鶴崎駅前駐輪場の収容台数（台）

	自転車	原付	合計
駅前駐輪場	246	—	246
駅東駐輪場	450	48	498
合計	696	48	744

資料：大分市ホームページ

JR 駅の利用手段分担率（%）



資料：平成 25 年大分都市圏パーソントリップ調査

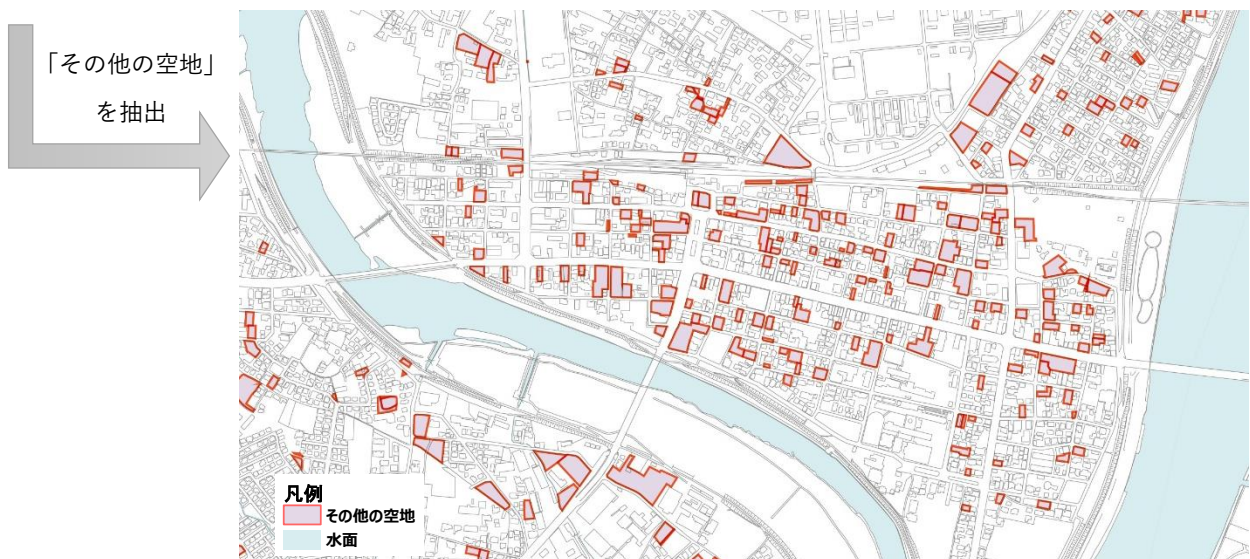
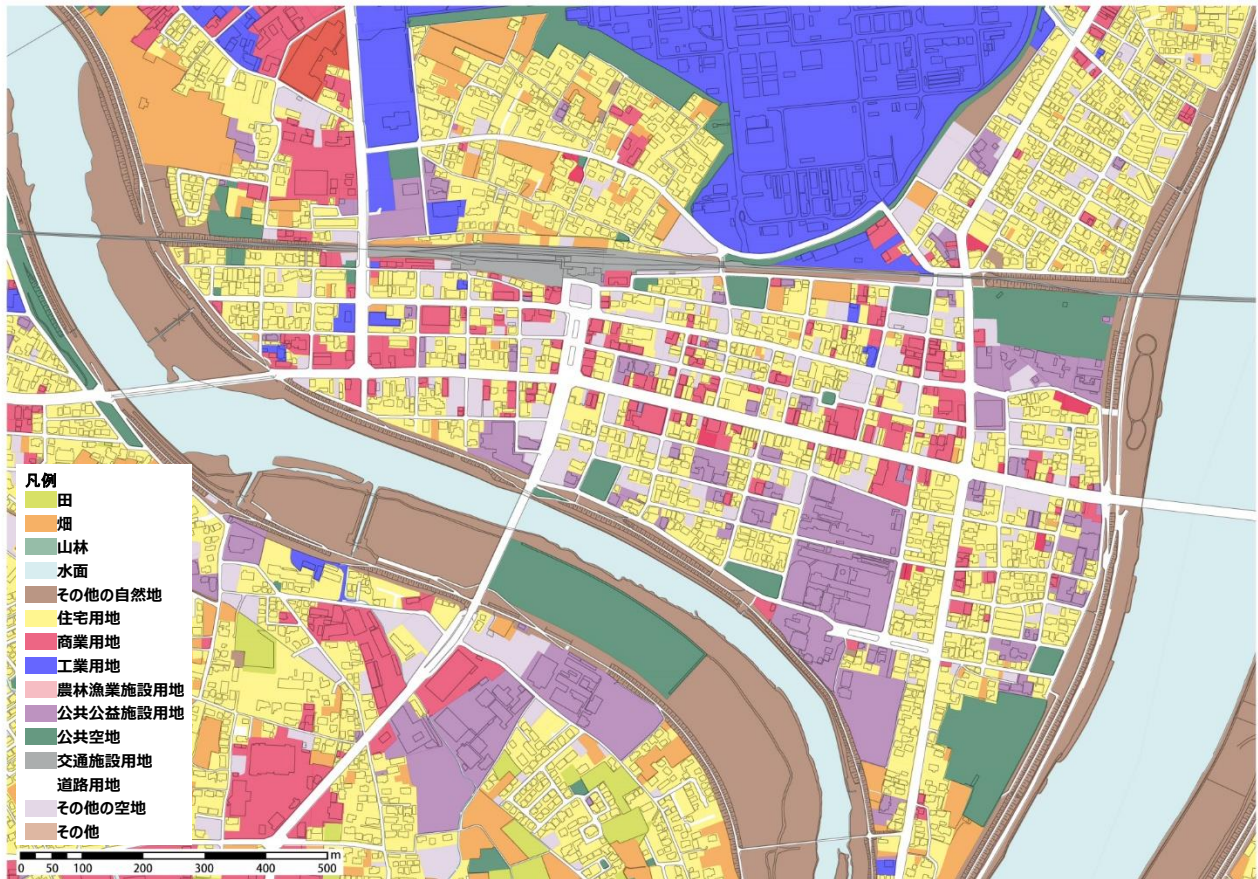
4. 土地利用の状況

JR 鶴崎駅南側の国道 197 号沿道には商業用地が多く、その間や後背地には住宅用地が広がっています。また、鶴崎小学校や大分鶴崎高等学校、鶴崎支所、鶴崎公民館などの公共施設用地として利用されています。

駅北側は住宅や耕作地（畑）が多く、対象区域外の北側は工業用地が主体となっています。

対象区域内には、空き地や駐車場などの低・未利用地が多く存在しており、「都市のスポンジ化」が進行していることが伺えます。

土地利用現況



資料：都市計画基礎調査（R4）

5. 建物の状況

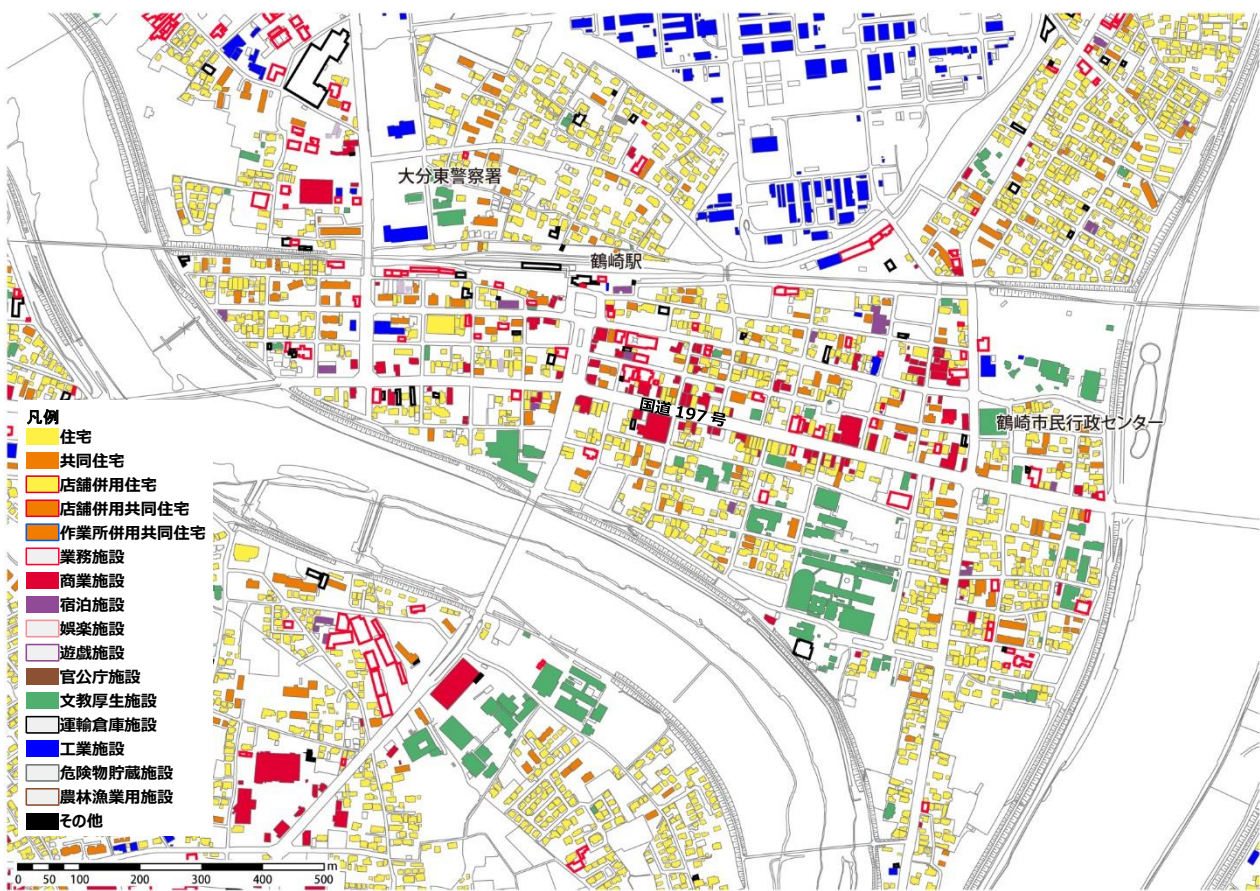
(1) 建物用途の状況

国道 197 号沿道には、商店街が形成されており、商業施設や業務施設、店舗併用住宅等が建ち並んでいます。また、鶴崎市民行政センター周辺の沿道においても、商業施設や業務施設が比較的多く立地しています。

これらの大通りに面していない後背地では、住宅・共同住宅が主体であるものの、商業施設や業務施設、宿泊施設等が点在している状況にあります。

また対象区域内には、鶴崎市民行政センターをはじめ、公民館や学校、病院等の文教厚生施設も多く立地しています。

建物用途現況



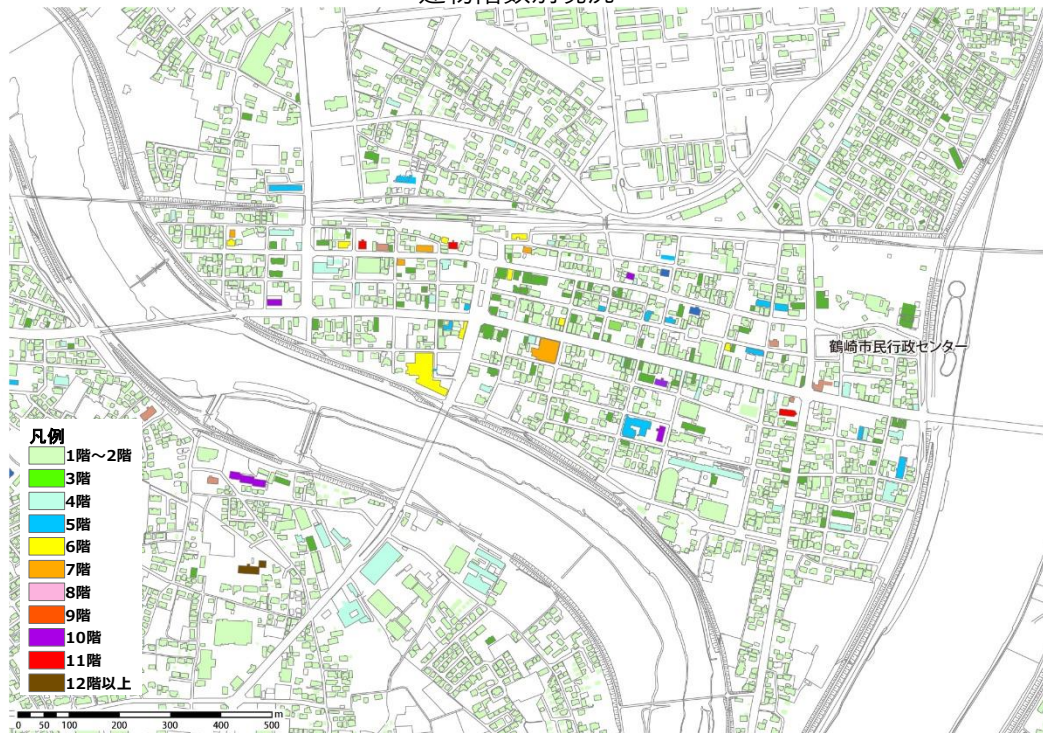
資料：都市計画基礎調査 (R4)

(2) 建物階数等の状況

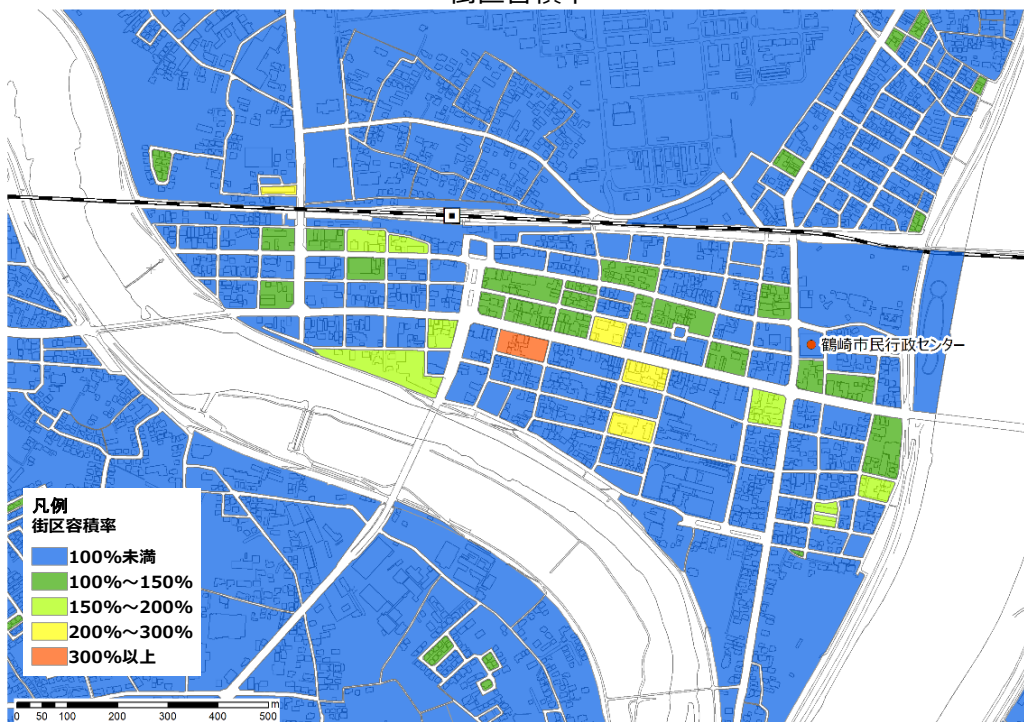
対象区域内の建物階数は、低層（1階～2階）の建物が多くを占めていますが、高層マンションも一部に点在している状況です。商業施設や業務施設、宿泊施設、文教厚生施設等では、3階建て以上の中高層の建物が比較的多くなっています。

街区容積率は、「100%未満」や「100～150%」の街区が多く、一部で200%以上の街区も見られるものの、対象区域全体として土地の高度利用が進んでいない状況にあります。

建物階数別現況



街区容積率



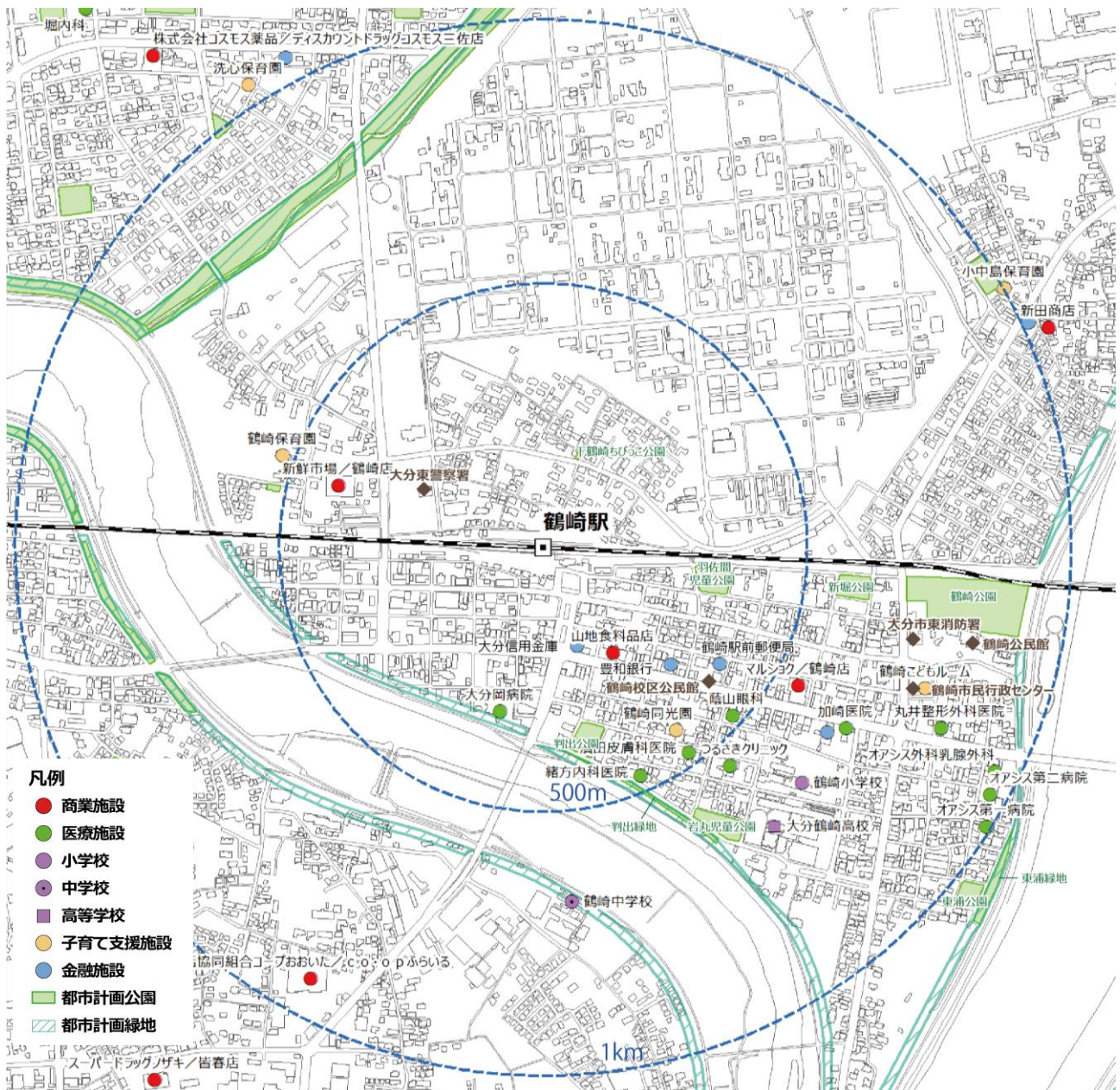
資料：都市計画基礎調査（R4）

6. 都市機能の立地状況

JR 鶴崎駅から 1 km 圏の南東部を中心に、商業施設や医療施設、教育施設、子育て支援施設、金融施設等の多様な都市機能が立地しています。また、鶴崎市民行政センターや鶴崎公民館、消防署、警察署などの公共施設も充実しています。

また、乙津川・大野川沿いには、都市公園・緑地も多く立地しており、特に鶴崎公園は、子どもが遊べる広場や「鶴崎踊り※」の会場として市民から親しまれています。

都市機能立地状況



※市指定無形民俗文化財、毎年 8 月のお盆過ぎの土曜日と日曜日に開催

7. 歴史文化資源の状況

鶴崎地区は、鎌倉時代以降、大友家領地の時代、加藤家領地の時代、細川家領地の時代、そして明治維新以降は大分県として歴史を刻んできています。

(1) 大友家領地時代

13世紀初頭、大友家初代能直は、鎌倉幕府から「鎮西奉行・豊後守護職」などの職に任じられました。文永8(1271)年、鎌倉幕府は、西国に所領を持つ守護に対し、モンゴルの襲来(元寇)に備えるよう命じ、第3代頼泰も九州に下り、大友氏は豊後に住むようになりました。第21代宗麟の時代の天正14(1586)年、薩摩島津軍が豊後に攻め込んで来て、「鶴崎城攻防の戦い」、「乙津川(寺司浜)の戦い」がありました。天正14(1487)年に宗麟が亡くなり、文禄2(1593)年、第22代義統は豊臣秀吉から領地を没収され、約400年続いた大友家の支配は終わりました。

(2) 加藤家領地時代

慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの功績により、加藤清正は、徳川家康から、豊後のうち、「鶴崎・佐賀関・野津原・久住」に約2万5千石の領地を与えられ、鶴崎は加藤氏の領地となりました。清正は、鶴崎に「鶴崎御茶屋」を作り、「法心寺(日蓮宗)」を建立し、港や町並みを整備しました。清正の死後、その子忠広が後を継ぎますが、寛永9(1632)年に加藤氏は改易されました。

(3) 細川家領地時代

加藤家改易の後、豊前小倉城主であった細川家第3代忠利が肥後を与えられ、豊後の内の元加藤家の領地もそのまま引き継ぎました。細川家は、鶴崎の町並み、港を整備するとともに、行政組織も整備しました。参勤交代の際は、阿蘇を越え、鶴崎の港から大坂周辺まで、たびたび船で往復しています。「けんか祭り」で有名な「劔八幡宮」は、細川家により、正保3(1646)年に建てられました。

文化7(1810)年には、伊能忠敬が鶴崎方面を測量し、また文久4(1864)年には、勝海舟が坂本龍馬らを伴って佐賀関に上陸して長崎まで往復した時、ここ鶴崎に宿泊しています。

(4) 明治維新以降

明治維新後、鶴崎は大分県となり、市町村合併により鶴崎町から鶴崎市となり、昭和38(1963)年3月10日大分市となりました。

昭和60(1985)年毛利空桑の遺品を集めた「毛利空桑遺品館」が建てられ、毛利空桑の旧宅「天勝堂」、塾跡「知来館」を含め「毛利空桑記念館」として公開されています。

対象区域内には、これらの時代背景を象徴するような歴史文化資源が多数残されており、往時の面影を感じることができます。

○剣八幡神社

剣八幡神社は、正保5年（1645）熊本藩主細川光尚によって創建されました。拝殿は入母屋造銅板葺で千鳥破風が付き、唐破風のある向拝を設けています。『大日本帝國大分県社寺名勝圖録』より明治32年（1899）以前に建築されたことが分かります。平成3年（1991）に倒木により外壁が破損したため修理を行っています。本殿は三間社流造で建築年代は不明となっています。

○法心寺

法心寺は、慶長6年（1601）熊本藩主加藤清正によって建立されました。山門（仁王門）は入母屋造本瓦葺で軒唐破風がつき、屋根を三手先の組物で支える伝統的建造物であり明治23年（1890）の『豊後国大分郡寺院明細帳』に記載がありそれ以前の建築となっています。本堂は入母屋造本瓦葺で『鶴崎地方歴史年表』（昭和51年（1976））によれば明治44年（1910）の建築となっています。

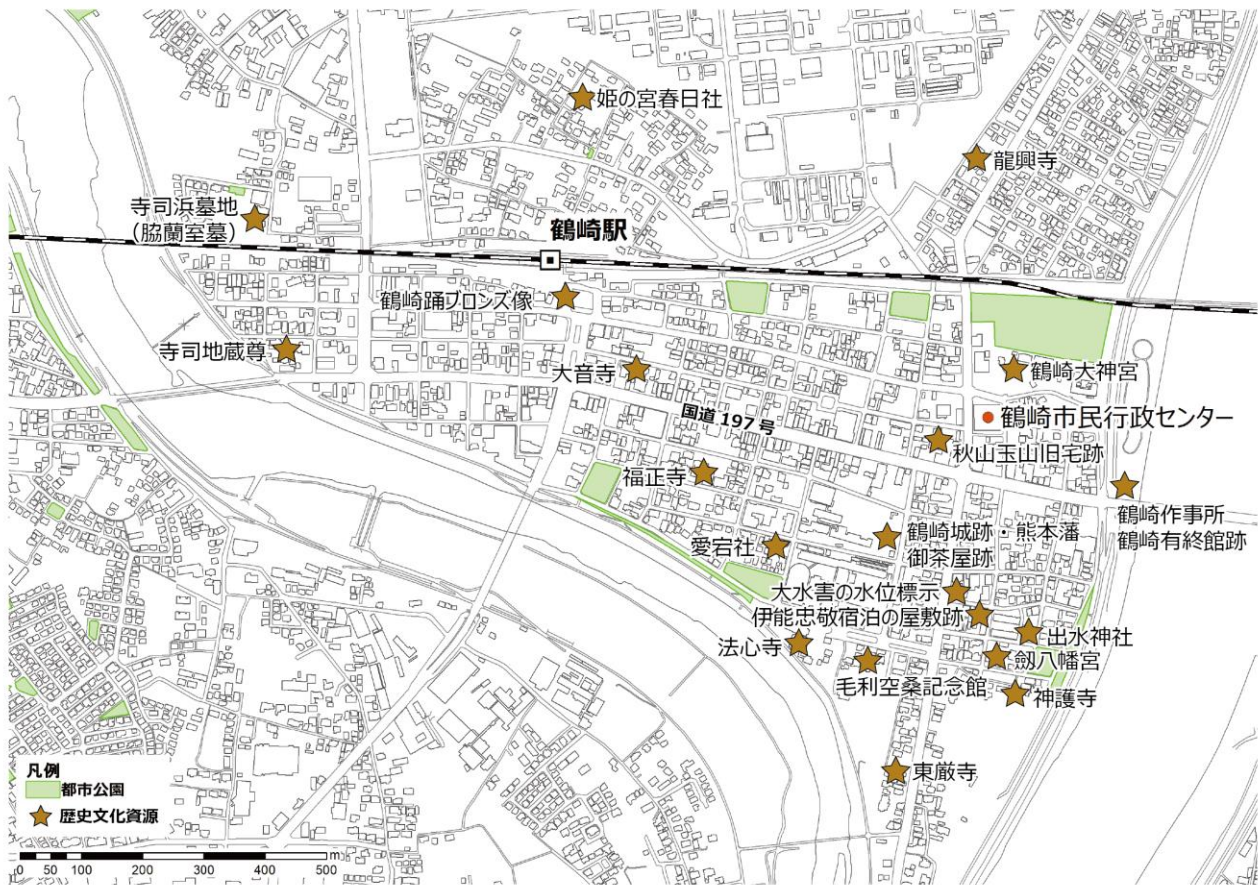
○毛利空桑旧宅「天勝堂」・塾跡「知来館」（県指定史跡）

旧宅「天勝堂」は、『毛利空桑全集』（昭和7年（1932））によれば安政4年（1857）に建築された切妻造二階建棧瓦葺の住宅です。塾跡「知来館」は、旧宅と同年の建築で、切妻造二階建棧瓦葺で、1階部分で塾生が生活し、二階が塾としての勉学の間となっていました。

○姫之宮春日社

姫之宮春日社は、石碑碑文より昭和18年（1943）改築されています。剣八幡神社の祭礼で神輿が立ち寄るところで、拝殿は近年の建築ですが、本殿は一間社流造銅板葺きで、また拝殿前の石鳥居は延享5年（1748）建築となっています。

歴史文化資源



資料：鶴崎校区歴史マップ



鶴崎踊ブロンズ像



鶴崎大神宮

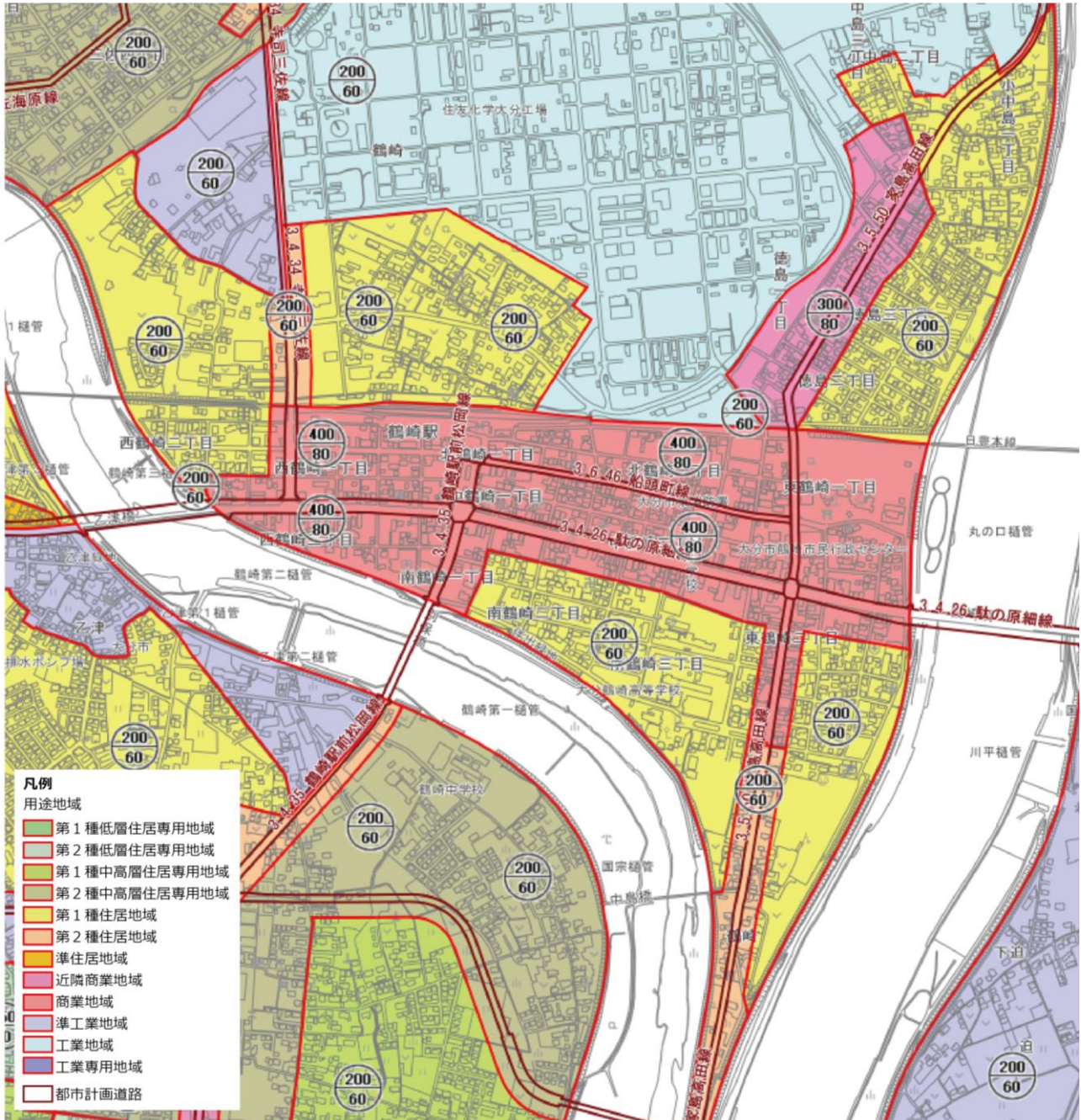


毛利空桑塾跡 知来館

8. 法規制の状況

用途地域は、JR 鶴崎駅南側を中心に商業地域が指定されており、その他は主に第1種住居地域が指定されています。(都) 寺司三佐線の沿道には一部、第2種住居地域が指定されています。

用途地域の指定状況



資料：おおいたマップ

9. ハザードエリアの状況

(1) 洪水浸水想定区域（想定最大規模）

洪水浸水想定区域（想定最大規模）は、対象地区内のほぼ全域となっており、洪水時には 3m～5m の浸水（2 階の屋根まで浸水）が想定されています。

特に、乙津川沿いや鶴崎公民館周辺部では、家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される「家屋倒壊等氾濫想定区域」が指定されている区域があります。

ハザードエリアの状況



資料：大分市洪水ハザードマップ

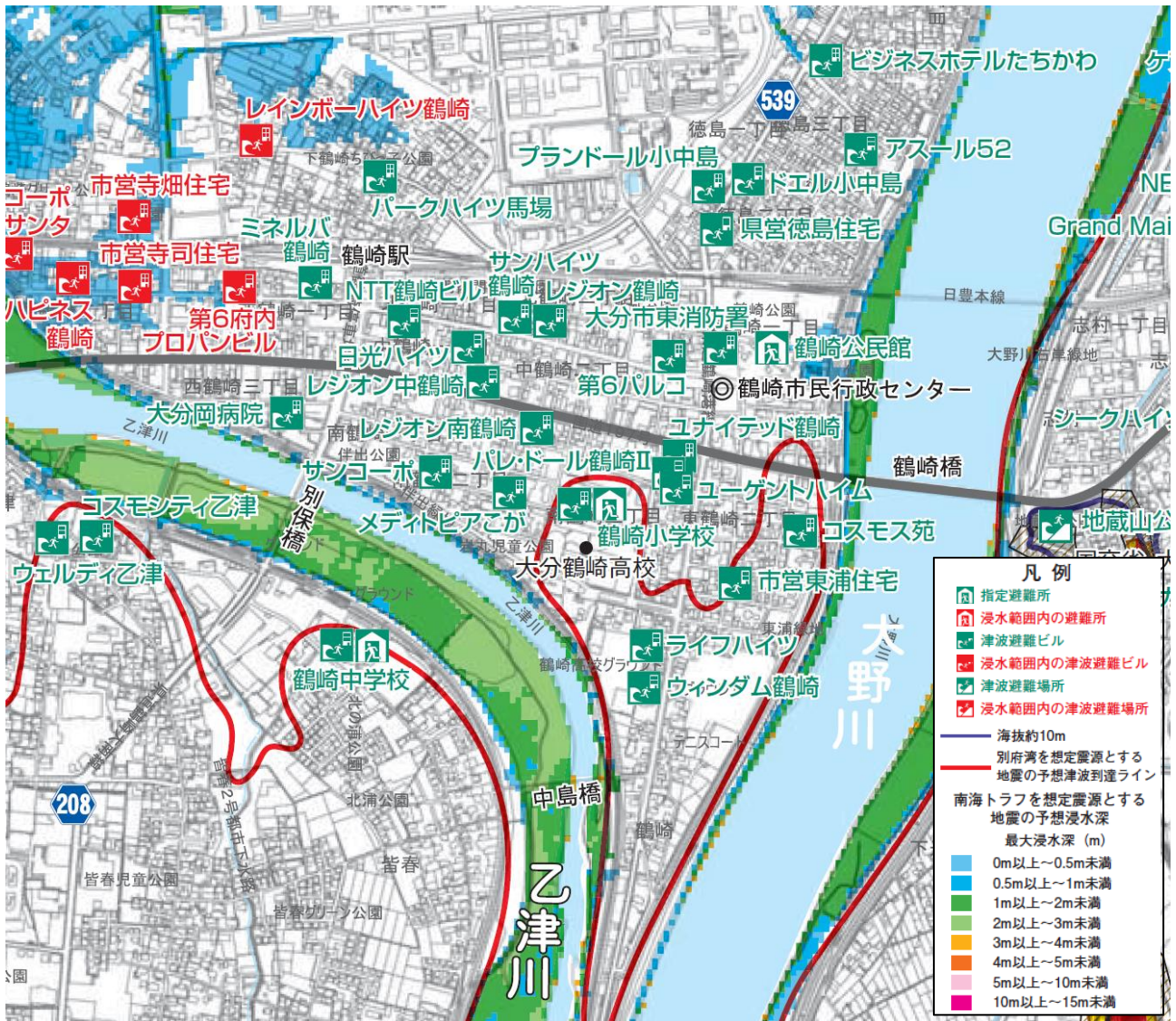
※「浸水想定区域（想定最大規模）」とは、1000年に1回程度の発生が想定されている降雨規模（想定し得る最大規模の降雨）

1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000（0.1%）以下の降雨です。

(2) 津波浸水想定区域

南海トラフを想定震源とする地震の予想浸水深は、対象区域の西端部分や鶴崎公園の一部で 0.5 m未満となっています。

鶴崎小学校や市営東浦住宅周辺一部を除き、本地区のほとんどが別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。



資料：大分市津波・地震ハザードマップ

10. 市民意向の把握

市民意向を把握するため、地元住民及び地元高校生（大分県立大分鶴崎高等学校、大分県立鶴崎工業高等学校）を対象にワークショップを開催しました。

また、1歳6か月、3歳児童健康診査受診者および鶴崎こどもルーム来訪者を対象として、子育て世代アンケートを実施しました。これらの結果を踏まえ、市民意向を整理します。

(1) 地元住民ワークショップ

地元住民 ワークショップ	開催日時：令和3年7月22日 開催場所：鶴崎公民館 集会所 参加人数：37名
-----------------	--

ワークショップでは、「できたらいいなと思う活動」、「活動を行うための課題」、「活動を行うために必要な空間・施設や機能」をテーマとしました。

以下に意見のまとめを示します。



会場の様子



ワークショップの様子

鶴崎駅周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・車を使わずに歩いて、買い物をしたい
- ・ゆっくりとくつろぎたい
- ・イベント等をしてみたい（鶴崎三大祭、朝市等）
- ・駅から他の公共交通等を利用して移動しやすいようにしたい
- ・鉄道の北側と南側を駅を活用して、簡単に移動したい
- ・高齢者が集まれるようにしたい。

【活動を行うための課題】

- ・駅前に買い物できる場所が少なく、誘致する場所の確保が難しい
- ・駅のロータリーが小さいのでバスが入れず、鉄道から他の公共交通への乗換がしづらい
- ・送迎スペースや駐車場が少なく、自動車への乗り換えがしづらい
- ・人が集まれる空間が少ない
- ・高齢者が集まれる施設が少ない

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・商業施設の整備
- ・多様な機能の集約（観光、飲食・ミーティング・勉強等）
- ・公共空間の整備及びバリアフリー化など（駅前周辺、広場等）
- ・明るくバリアフリーな歩行者空間と休憩できるベンチ等の設置
- ・南北通路（自由通路）の整備や駅北側での開発
- ・趣味や健康等の高齢者が集まれる施設の整備
- ・多目的スペースの整備（R197～駅間）

鶴崎支所周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・多世代で交流したい
- ・駅前から支所までを安全安心に歩きたい
- ・音楽等のイベントをしたい

【活動を行うための課題】

- ・子育てや福祉等で活用できる施設が少ない。
- ・高齢者等にとって、駅から支所までの距離が長く、移動しづらい
- ・駅前から支所までの道が暗く危険である

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・駅からの公共交通網の充実
- ・レンタサイクル等の移動手段の導入
- ・安全に歩くことのできる歩行空間

自然・公園

【できたらいいなと思う活動】

- ・地区内の歴史や自然をまわりたい、観光と連携させたい
- ・河川周辺でウォーキングやトレーニングをしたい
- ・河川敷を地域の活動やイベントで活用したい

【活動を行うための課題】

- ・健康遊具等がない
- ・土手の清掃が行き届いておらず、利用しづらい
- ・季節の移ろいを感じられるものが少ない

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・支所や公民館等と連携した河川空間の整備
- ・ウォーキング・サイクリングコースや休憩場所、健康遊具等の整備
- ・レンタサイクルの導入
- ・河川における花植え活動と地域での管理等による人が利用したくなる工夫
- ・街区公園の駐車場整備や総合運動公園のような大きなグラウンドの整備

商店街

【できたらいいなと思う活動】

- ・商店街でいろんな買い物ができるようにしたい
- ・商店街に立ち入りやすくしたい。

【活動を行うための課題】

- ・駐車場が少なく、アクセスがしにくい
- ・国道 197 号の拡幅による店舗が少なくなりそう
- ・若者が地域外で買い物している

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・買い物以外の施設の整備（イベントやカフェ、フィットネス等）

防災

【できたらいいなと思う活動】

- ・安全安心に生活したい

【活動を行うための課題】

- ・災害発生時の避難場所の確保や情報周知ができていない
- ・鶴崎公民館、集会室のかさ上げが必要

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・高床式の施設整備等の誘導（ソフト）
- ・避難場所や避難タワー等の整備

道路

【できたらいいなと思う活動】

- ・地区内の移動を円滑にしたい
（国道 197 号、市道鶴崎・三佐線、別保橋）

【活動を行うための課題】

- ・市道鶴崎三佐線の寺司踏切や国道 197 号の交差点での渋滞がひどい

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・国道 197 号の拡幅と連携した信号等の交差点改良、寺司踏切の改良（アンダーパス化）、別保橋の拡幅

歴史・観光

【できたらいいなと思う活動】

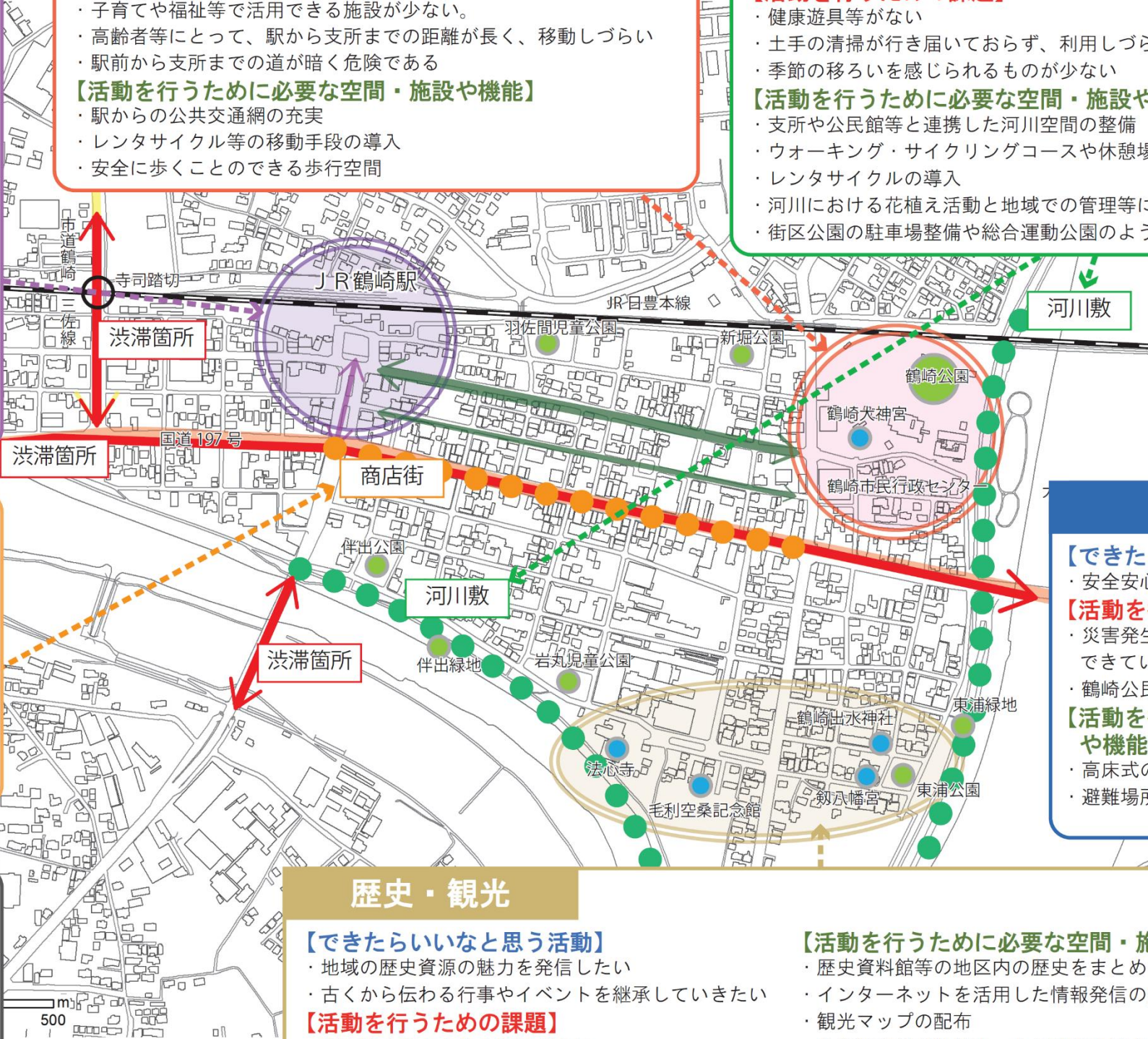
- ・地域の歴史資源の魅力を発信したい
- ・古くから伝わる行事やイベントを継承していきたい

【活動を行うための課題】

- ・歴史等の拠点となる施設がない
- ・来訪者のため駐車場が少ない
- ・サイクリング関連の施設が少ない

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・歴史資料館等の地区内の歴史をまとめてみることができ施設の整備
- ・インターネットを活用した情報発信の実施
- ・観光マップの配布
- ・各資源を結ぶ散策ルートの整備や紹介看板の設置
- ・観光で利用しやすい公共交通
- ・観光ボランティアや学校との連携による歴史を伝える体制づくり
- ・バス駐車場等の観光対応スペースの確保（国宗グラウンド）



(2) 地元高校生ワークショップ

大分鶴崎高等学校、鶴崎工業高等学校の生徒と一緒にワークショップを行う予定としていましたが、新型コロナウイルス感染の再拡大を踏まえ、感染リスクを考慮し、高校ごとに開催しました。

ワークショップでは、地元住民ワークショップと同様に、「できたらいいと思う活動」、「活動を行うための課題」、「活動を行うために必要な空間・施設や機能」をテーマとしました。

① 大分鶴崎高等学校

大分鶴崎高等学校 ワークショップ	開催日時：令和4年7月6日 開催場所：鶴崎公民館 集会所 参加人数：27名
---------------------	---



会場の様子



ワークショップの様子

鶴崎駅周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・放課後や休日に友達とゆっくり話したい
- ・高校生が思いっきり遊んだりしたい
- ・電車の待ち時間に、時間をつぶせる場所、デート
- ・色々なイベントを行える場所
- ・学生が集まる場所を作る
- ・映画館、ゲームセンター、カラオケ、飲食店、本屋、雑貨屋

【活動を行うための課題】

- ・映画館に人が集まってくる工夫
- ・ショッピングモールを建設する広い土地があるか？
- ・ちゃんと利益がでるか
- ・雨の日に車が混んでいる
- ・自転車で通りにくい
- ・駐車場が狭い

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・イベントが開催できるスペース
→椅子の配置を変えて実験教室として利用できる
- ・ゆっくりできる場所
- ・ジム（入場料を払うだけ）
- ・高齢者も行ける運動施設
- ・スーパー、アミューズメントな大きなショッピングモール
- ・車でお母さんがいっぱい来れるようなコインパーキング

治安

【できたらいいなと思う活動】

- ・治安を良くしたい
- ・安全に過ごせる場所

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・街灯、カーブミラー
- ・大人の力

大分鶴崎高校周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・放課後に友達と勉強する
- ・自習できる場所
- ・カフェもあるスペースで勉強したい
- ・運動がしたい
- ・屋内で休憩できる場所
- ・友達と放課後話したい

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・気軽には入れてコスパのいいお店がほしい
- ・小学校の体育館の貸し借り
- ・ジム（入場料を払うだけ）
- ・高齢者も行ける運動施設
- ・公民館

鶴崎支所周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・カフェもあるスペースで勉強したい
- ・友達と長時間利用できる学習スペース
- ・設備の整ったジム、バスケ、市民プール、トランポリン施設、サウナなどの運動がしたい

【活動を行うための課題】

- ・勉強できるスペースが少ない
- ・友達と教え合いをしたい人と一人で静かに自習をしたい人がいる
- ・できたとしても人が集まらない可能性がある
- ・お金もかかる
- ・管理者
- ・国・県の支援

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・支所の自習スペースを増やす
- ・勉強に集中できる静かな空間
- ・広い勉強スペース
- ・ジム、たくさんの筋トレ道具・機械
- ・小さな子供に迷惑をかけない大きな公園
- ・物の貸し出し（例）ボールとか？
- ・大きな体育館
- ・レジャー施設
- ・いろんな機能を一つの場所に集約する
- ・公民館

商店街周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・学生が集まる場所を作る
- ・休憩できる場所、静かなスペース
- ・手軽に借りられるリーススペース

【活動を行うための課題】

- ・大人数が集まれる広いスペースがない
- ・集まって遊んだり話したりできるスペースが少ない
- ・高校生が行きやすい店が少ない
- ・集合場所に最適な場所がない
- ・使っていない建物が多そう
- ・どんな店が並んでいるか分からない
- ・全体的に年齢層が高め（お店）
- ・商店街の活性化
- ・カフェをつくる場所と建設
- ・人不足

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・何でも使えるリーススペース
- ・安くおいしい有名なチェーン店
- ・ワンコインとかの学生が払いやすい価格のスペース
- ・勉強ができて、客席のスペースが大きい、雰囲気の良いカフェ
- ・ゆっくりできる場所

道路

【できたらいいなと思う活動】

- ・サイクリング
- ・バスロータリー

【活動を行うための課題】

- ・スピードを出しても安全な広くてなめらかな道
- ・自分のペースでゆっくり歩ける安全な道

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・鶴崎をぐるっと一周できる広い道
- ・広くて歩行者と自転車を分ける道
- ・二車線にする

歴史・観光

【できたらいいなと思う活動】

- ・寺社を巡るイベント（御朱印）
- ・小・中・高・地域から全員で鶴崎の清掃活動（交流会）

【活動を行うための課題】

- ・主催者がいない
- ・鶴崎で行っているイベントを知らない人が多い

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・クラス単位、学年単位、学校単位、部活単位、個人にならずみんなで仲の良い人たちで参加できる
- ・情報を広く発信できる機能

自然・公園

【できたらいいなと思う活動】

- ・バスケットゴールのある公園を作りたい
- ・川に星がきれいに見える展望台
- ・川でお散歩
- ・鶴崎で釣り

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・バスケットゴール、バスケットコート
- ・頑丈な展望台、天文台



② 鶴崎工業高等学校

鶴崎工業高等学校
ワークショップ

開催日時：令和4年7月20日
開催場所：鶴崎工業高等学校 教室
参加人数：23名



ワークショップの様子



会場の様子

鶴崎駅・商店街周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・勉強がしたい
- ・友達と食事
- ・カフェ
- ・買い物、ショッピング
- ・本屋や服屋で買い物
- ・遊べる場所の確保
- ・友達と遊びたい
- ・映画、ゲームセンター、カラオケ、ボウリング
- ・運動
- ・サッカー
- ・飲み物が買える場所や自販機
- ・自転車をスムーズに停めたい（駅前駐輪場）

【活動を行うための課題】

- ・集まれる場所が狭く、施設が少ない
 - ※カフェが狭い
- ・若い人が集まれる場所がない
 - ※居酒屋が多い
- ・人が集まらない
- ・広い駐車場
- ・場所や広い土地
- ・住宅が多く、建てる場所がない
- ・使われていない敷地がある

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・駅南北を結ぶ通路
- ・ショッピングモールや商業施設
- ・服屋
 - ※ファストファッション、古着屋
- ・映画館
- ・飲食店
 - ※焼肉、ラーメン、ピザ屋、ケンタッキー、カフェ
- ・勉強する場所
- ・本屋

治安

【活動を行うための課題】

- ・治安が悪い
- ・暗い
- ・街灯

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・街灯を設置する
- ・広い芝の広場がある、整備された公園
 - 例）大分市公園通り3丁目のセントラルパーク

鶴崎支所周辺

【できたらいいなと思う活動】

- ・イベント
- ・観光
- ・勉強
- ・リフレッシュ

【活動を行うための課題】

- ・集まれる場所が狭く、施設が少ない
- ・若い人が集まれる場所がない
 - ※居酒屋が多い
- ・人が集まらない
- ・広い駐車場
- ・場所や広い土地
- ・住宅が多く、建てる場所がない
- ・使われていない敷地がある

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・遊べる所
- ・流行のものが楽しめる所
- ・写真映える場所
- ・デートスポット
- ・室内で運動できる場所
- ・各高校ごとに出し物ができる場所
- ・勉強場所として図書館を設置する
- ・温泉、整体、エステ
- ・ジム、バッティングセンター
- ・カラオケ

道路

【できたらいいなと思う活動】

- ・自転車が余裕をもって通れるところ

【活動を行うための課題】

- ・鶴崎全体の道が狭い
- ・歩道が狭い
- ・曲がり角が多い

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・道のガタガタを舗装する
- ・歩道、道路を広くする
- ・大通りを二車線化
- ・街灯を設置する
- ・きれいな道

歴史・観光

【できたらいいなと思う活動】

- ・清正公二十三夜祭の開催
- ・お祭りの開催

【活動を行うための課題】

- ・人手不足

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・テーマパーク

自然・公園

【できたらいいなと思う活動】

- ・体を動かしたい、スポーツがしたい
- ・ランニング
- ・休みたい

【活動を行うための課題】

- ・交通量が多い

【活動を行うために必要な空間・施設や機能】

- ・広めの公園
- ・体育館、コート
- ・ランニングコース
- ・遊具がある、全年齢が遊べる場所
- ・広い公園
- ・室内で運動できる場所
- ・自然や景色
- ・休憩できる場所
- ・植樹をイベント化する



(3) 子育て世代アンケート

子育て世代 アンケート	開催期間：令和3年12月下旬から令和4年3月下旬 対象：1歳6か月、3歳児健康診査受診者の保護者 および鶴崎こどもルーム来訪者 回収数：132名（健康診断：31名／子どもルーム：101名）
----------------	---

- ・回答者の多くは20～40代の子育て中の女性となっています。
- ・その約3割は鶴崎地区以外の方であり、鶴崎こどもルームを目的に来訪しています。

※アンケート調査の詳細は付属資料「子育て世代アンケート調査による意向把握のまとめ」
を参照ください

子育て世代アンケートのまとめ

- ・住みやすい、子育て環境に満足という回答がともに7割を超えています。
- ・鶴崎駅周辺で子どもとしたいこととして公園で遊ぶが7割を超えています。また、自由記述においても子どもが遊べる場所や公園遊具の充実、再整備などが挙げられています。
- ・鶴崎駅周辺でよく利用する施設のうち、こどもルームと鶴崎支所を除いた回答が2割以下となっており、利用者の多くが支所内のみの利用にとどまっています。
- ・鶴崎駅周辺の課題として、約6割の方が渋滞を挙げています。
- ・鶴崎駅周辺の課題として、店舗の少なさなど商業的な活気がないことが挙げられています。
- ・子育て世代のほとんどが自家用車を利用しているため、駐車場の整備を望む声が多くあります。
- ・地区内を回遊するための安心して歩ける歩道の整備を求める声があります。

(4) 市民意向のまとめ

地元住民及び地元高校生を対象としたワークショップ、子育て世代アンケートを踏まえ、市民意向を整理すると、以下が挙げられます。

全体的な傾向としては、人が集まれる魅力的な場の確保を求める多くの意見がありました。

- JR 鶴崎駅周辺や商店街には、商業的な賑わいを呼び込むような整備が求められています。また、自転車、バス、タクシー、自家用車との接続が行いやすい交通結節機能が求められています。
- 憩いの場、スポーツの場、遊び場として利用しやすい公園や広場などの施設整備等が求められています。
- 交通渋滞の解消が求められています。また、自動車を利用して訪れる地元住民や来訪者が多いこともあり、駐車場の確保に対する関心が高い傾向です。
- 安心・安全に移動できる歩道や自転車道などの整備が求められています。
- 川沿いの自然環境を活かした整備に関心が高く、公園には、高齢者、高校生、子育て世代それぞれのニーズに合った整備が求められています。
- 地元住民だけでなく、高校生からも歴史資源を活用した都市づくりやイベントの提案がありました。
- 防災面では、津波等に対する関心が高く、女子高校生からは、治安の維持向上を求める意見もありました。

第3章 課題の整理

上位・関連計画、関連事業の進捗状況、市民意向を含む鶴崎駅周辺の現況を踏まえ、本地区の整備に向けた課題を以下に整理します。

1. JR 鶴崎駅周辺に関する課題

課題①：交通結節機能の改善

- JR 鶴崎駅の駅前広場には、タクシー乗降場や駅前駐輪場及び一般車用駐車場がありますが、路線バスが停車できるスペースがありません。
- 歩道幅員が狭く、段差があるなどバリアフリー対策が十分ではありません。
- 駅のロータリーが小さいのでバスが入れず、鉄道から他の公共交通への乗継がしづらい状況となっています。また、送迎スペースや駐車場等が少なく、自動車への乗継がしづらい状況となっています。
- JR 鶴崎駅から（裏）鶴崎駅バス停（県道鶴崎停車場線）まで約 150m、鶴崎駅バス停（国道 197 号）まで約 300m離れており、利用しにくい状況となっています。

課題②：駅周辺の環境改善

- 県道鶴崎停車場線は中央に緑地帯のある駅前の大通りですが、シンボル軸となる沿道景観が形成されていません。
- 駅前に買い物等ができる場所が少なく、人が集まれる空間が少なくなっています。
- 駅周辺の南北市街地の往来が難しい状況となっています。

2. 鶴崎支所周辺に関する課題

課題①：鶴崎支所周辺の環境改善

- 鶴崎市民行政センターは、こどもルームや図書室などがあり、多くの人々が訪れる施設となっているとともに、公民館や鶴崎公園の改修等も進められ、拠点として整備されていますが、人の流れがセンター内で完結しており、周辺への回遊性が乏しい状況となっています。

3. 交通ネットワークに関する課題

課題①：自動車の渋滞緩和

- 国道 197 号は交通量が多く、対象地区東側の鶴崎橋付近が慢性的に渋滞しています。また、鶴崎駅入口交差点と中鶴崎 2 丁目交差点は、主要な渋滞箇所となっています。
- JR 日豊本線を横断できるのは 4 箇所に限られており、平面交差（踏切）の箇所や幅員が狭い箇所もあり、結果として市街地が南北に分断されています。
- 市道鶴崎三佐線（都市計画道路 寺司三佐線）の平面交差（踏切）のため朝夕の渋滞が発生し

ています。

課題②：自転車の利用環境の改善

- JR 鶴崎駅を利用する方の多くは、通勤・通学などで自転車を利用されています。駅周辺には、2箇所（自転車収容台数約700台）に駐輪場を整備していますが、景観的・動線的な問題があり、快適に利用しにくい状態です。
- JR 鶴崎駅では自転車での利用が多くなっていますが、周辺の道路には自転車専用レーンなどの自転車走行空間が確保されていません。

4. 歴史文化・自然環境に関する課題

課題①：現状のニーズにあった公園施設の更新

- 子育て世代、高齢者、高校生等の利用ニーズにあてない街区公園が存在します。
- 木々が生い茂り、見通しが悪い街区公園も存在します。

課題②：乙津川や大野川等の河川敷の有効活用

- 清掃、草刈、歩道などウォーキングやサイクリング等を促す環境が十分に整っていません。

課題③：鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用

- 鶴崎踊の解説板やモニュメント、社寺や毛利空桑記念館など、鶴崎地区の歴史文化を伝える資源が、来訪者に気づかれにくい状態です。
- 歴史等の拠点となる施設がなく、地域の情報発信がしづらい状況になっています。
- 駐車場が少ないなど、観光客等が来訪しづらい状況になっています。
- 「空桑思索の道」の歩行者通行空間には、良好な沿道景観が形成されていません。
- 古くから伝わる行事やイベントについて、将来にわたって地域の歴史や文化が継承されていくか懸念されています。

課題④：歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実

- JR 鶴崎駅から鶴崎市民行政センターと、歴史文化資源や鶴崎公園等をつなぐ道路には歩道がないところが多く、街灯や休憩できるベンチも少ないなど、回遊しやすい歩行空間が十分に整っていません。

5. 防災まちづくりに関する課題

課題①：洪水・津波等の災害への対応

- 対象地区のほぼ全域が浸水想定区域に含まれており、最大洪水時には大半のエリアで 3～5m の浸水が想定されています。
- 地区内には、国道 197 号沿道をはじめ、津波避難ビルに指定される建物が多くありますが、南東部を除くエリアは、別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。また、西端部分や鶴崎公園の一部は、南海トラフを想定震源とする地震の津波浸水想定区域に含まれています。
- 更なる災害発生時の避難場所の確保や情報周知の徹底、避難訓練等の定期的な実施が求められています。

鶴崎駅周辺の課題図



鶴崎駅周辺の課題図<総括>

1. JR鶴崎駅周辺に関する課題

課題①:交通結節機能の改善

- JR鶴崎駅の駅前広場には、タクシー乗降場や駅前駐輪場及び一般車用駐車場がありますが、路線バスが停車できるスペースがありません。
- 歩道幅員が狭く、段差があるなどバリアフリー対策が十分ではありません。
- 駅のロータリーが小さいのでバスが入らず、鉄道から他の公共交通への乗継がしづらい状況となっています。また、送迎スペースや駐車場等が少なく、自動車への乗継がしづらい状況となっています。
- JR鶴崎駅から(裏)鶴崎駅バス停(県道鶴崎停車場線)まで約150m、鶴崎駅バス停(国道197号)まで約300m離れており、利用しにくい状況となっています。

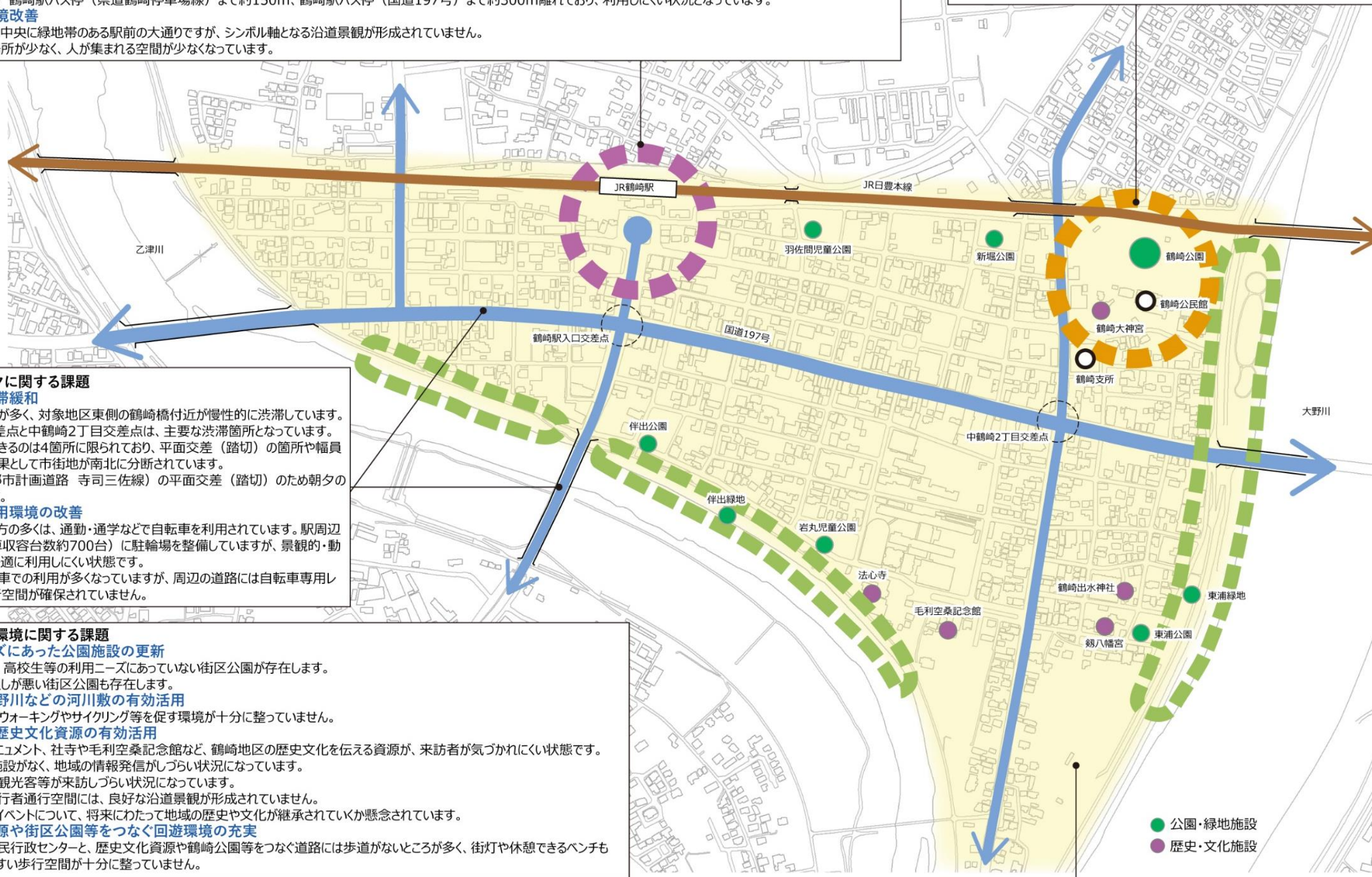
課題②:駅周辺の環境改善

- 県道鶴崎停車場線は中央に緑地帯のある駅前大通りですが、シンボル軸となる沿道景観が形成されていません。
- 駅前に買い物できる場所が少なく、人が集まれる空間が少なくなっています。

2. 鶴崎支所周辺に関する課題

課題①:鶴崎支所周辺の環境改善

- 鶴崎市民行政センターは、こどもルームや図書室などがあり、多くの人々が訪れる施設となっているとともに、公民館や鶴崎公園の改修等も進められ、拠点として整備されていますが、人の流れがセンター内で完結しており、周辺への回遊性が乏しい状況となっています。



3. 交通ネットワークに関する課題

課題①:自動車の渋滞緩和

- 国道197号は交通量が多く、対象地区東側の鶴崎橋付近が慢性的に渋滞しています。また、鶴崎駅入口交差点と中鶴崎2丁目交差点は、主要な渋滞箇所となっています。
- JR日豊本線を横断できるのは4箇所に限られており、平面交差(踏切)の箇所や幅員が狭い箇所もあり、結果として市街地が南北に分断されています。
- 市道鶴崎三佐線(都市計画道路 寺司三佐線)の平面交差(踏切)のため朝夕の渋滞が発生しています。

課題②:自転車の利用環境の改善

- JR鶴崎駅を利用する方の多くは、通勤・通学などで自転車を利用されています。駅周辺には、2箇所(自転車収容台数約700台)に駐輪場を整備していますが、景観的・動線的な問題があり、快適に利用しにくい状態です。
- JR鶴崎駅では自転車での利用が多くなっていますが、周辺の道路には自転車専用レーンなどの自転車走行空間が確保されていません。

4. 歴史文化・自然環境に関する課題

課題①:現状のニーズにあった公園施設の更新

- 子育て世代、高齢者、高校生等の利用ニーズにあっていない街区公園が存在します。
- 木々が生い茂り、見通しが悪い街区公園も存在します。

課題②:乙津川や大野川などの河川敷の有効活用

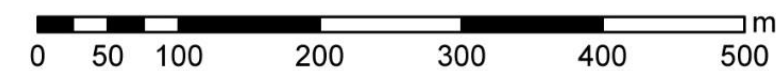
- 清掃、草刈、歩道などウォーキングやサイクリング等を促す環境が十分に整っていません。

課題③:鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用

- 鶴崎踊の解説板やモニュメント、社寺や毛利空桑記念館など、鶴崎地区の歴史文化を伝える資源が、来訪者が気づかれにくい状態です。
- 歴史等の拠点となる施設がなく、地域の情報発信がしづらい状況になっています。
- 駐車場が少ないなど、観光客等が来訪しづらい状況になっています。
- 「空桑思索の道」の歩行者通行空間には、良好な沿道景観が形成されていません。
- 古くから伝わる行事やイベントについて、将来にわたって地域の歴史や文化が継承されていくか懸念されています。

課題④:歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実

- JR鶴崎駅から鶴崎市民行政センターと、歴史文化資源や鶴崎公園等をつなぐ道路には歩道がないところが多く、街灯や休憩できるベンチも少ないなど、回遊しやすい歩行空間が十分に整っていません。



5. 防災まちづくりに関する課題

課題①:洪水・津波等の災害への対応

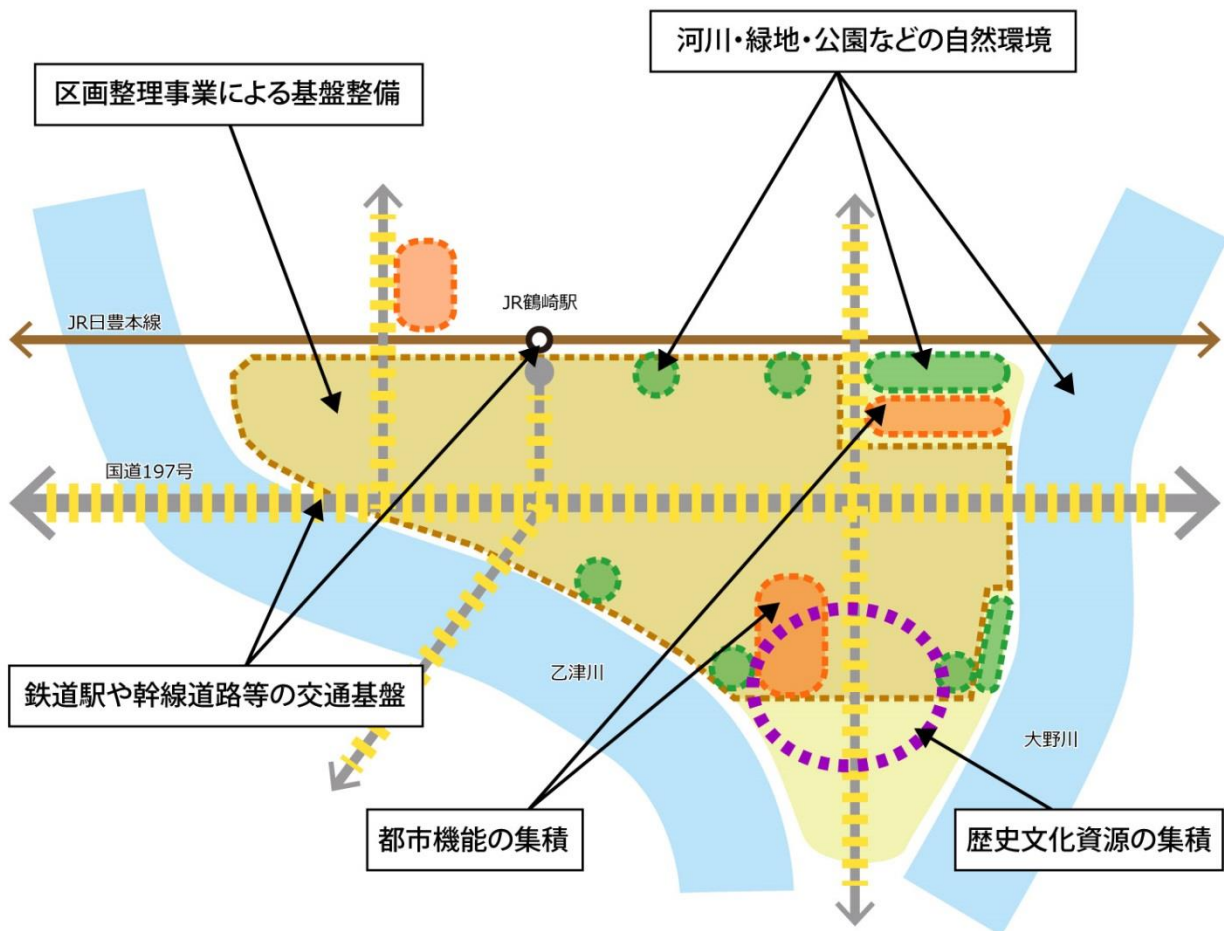
- 対象地区のほぼ全域が浸水想定区域に含まれており、洪水時には大半のエリアで3~5mの浸水が想定されています。
- 地区内には、国道197号沿道をはじめ、津波避難ビルに指定される建物が多くあります。南東部を除くエリアは、別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。また、西端部分や鶴崎公園の一部は、南海トラフを想定震源とする地震の津波浸水想定区域に含まれています。
- 更なる災害発生時の避難場所の確保や情報周知の徹底、避難訓練等の定期的な実施が求められています。

第4章 鶴崎駅周辺地区の将来像

1. 鶴崎駅周辺地区の魅力

本地区は、別府湾に注ぐ大野川、乙津川に隣接しており、古くから水運を利用し、瀬戸内海航路の拠点として発展しました。地区内には、豊かな歴史を背景とした寺社などの歴史文化資源や、鶴崎踊りに代表されるような伝統行事が脈々と受け継がれています。

また、現在では区画整理事業による充実した都市基盤を背景に、大分市中心市街地に次ぐ中枢的な商業・業務地区を形成しており、特急列車の停車する鉄道駅や幹線道路などの交通基盤、鶴崎市民行政センターを含む公共機関の窓口や子育て支援施設、医療施設、公園のほか、国道197号沿道には商業施設などの生活関連施設が立地し、高い生活利便性をもつ地区となっています。



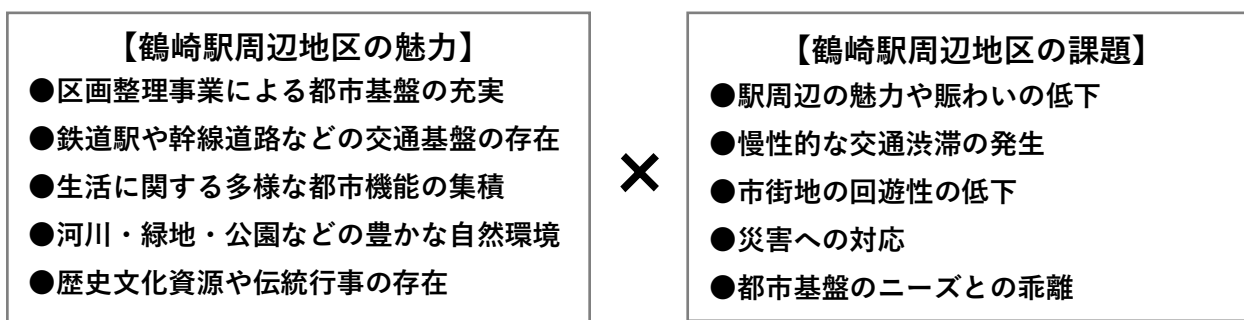
2. 鶴崎駅周辺地区の将来像

本地区には多くの魅力がある一方、少子高齢化やそれに伴う人口の減少、駅周辺から郊外ロードサイドへの賑わいの分散、慢性的な渋滞の発生、低未利用地の拡大、災害への対応など様々な問題も生じてきています。

さらに、成長社会から成熟社会への移行に伴い人々の意識や価値観は変化し、働き方の多様化や暮らしの質が重要視されるなど、人々が暮らしに求めるものも多様化しつつあり、時代のニーズに沿った都市基盤の更新が求められています。

本地区では、このような現状を踏まえ、豊かな歴史と自然環境、そして既存の都市基盤を最大限に生かしながら、課題に対応した適切なリニューアルを進めることで、次世代を担う子どもたちやその親世代を含む多世代が豊かに暮らしていくためのまちを目指します。

このようなことから本地区は、「伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点」をまちの将来像とします。



時代のニーズに沿った都市基盤の適切なリニューアル

伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点

第5章 都市づくり方針

鶴崎駅周辺地区の将来像を実現していくための4つの方針を設定します。

1. JR 鶴崎駅や鶴崎市民行政センターを核とした住環境の高質化

(1) 鶴崎駅前拠点の魅力の向上

JR 鶴崎駅周辺を鶴崎駅前拠点として位置づけ、交通結節点としての機能向上や本地区の顔としての魅力の向上を図ります。

(2) 鶴崎駅前軸の景観形成と活用

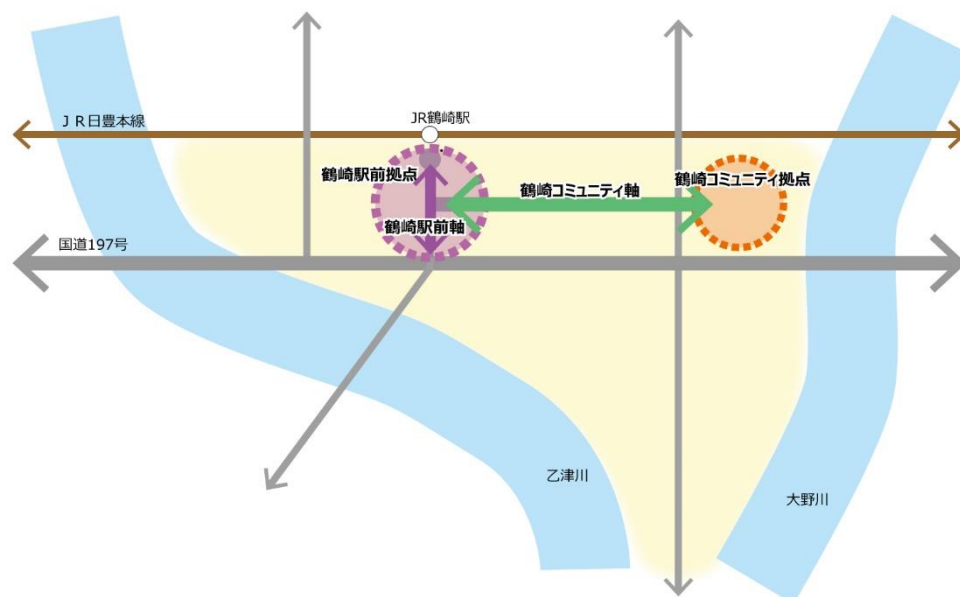
鶴崎駅から国道 197 号に至る駅前通りを鶴崎駅前軸として位置づけ、公共空間の高質化により、駅前広場と併せた玄関口にふさわしい景観の形成と、日常の憩いやイベントでの活用を図ります。

(3) 鶴崎コミュニティ拠点の機能の向上

鶴崎市民行政センター周辺を鶴崎コミュニティ拠点として位置づけ、公園や公民館等のリニューアルによるコミュニティ機能の向上に向けた取り組みを推進します。

(4) 鶴崎コミュニティ軸による拠点間の回遊性の向上

鶴崎駅前拠点と鶴崎コミュニティ拠点を結ぶ道路を鶴崎コミュニティ軸として位置づけ、道路空間の高質化やバリアフリー化により、回遊性の促進を図ります。



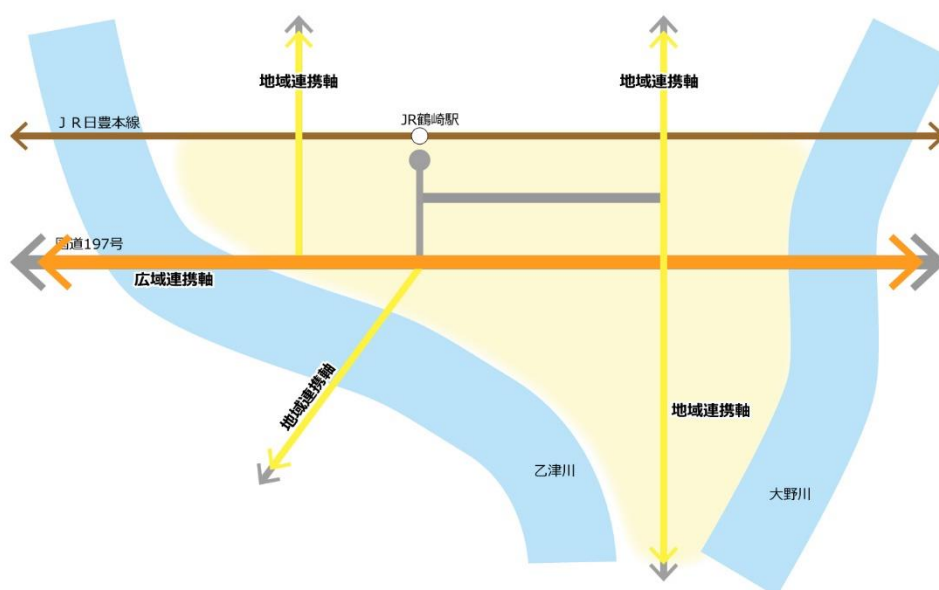
2. 円滑な交通ネットワークの形成

(1) 広域連携軸による広域交通の円滑化

拡幅予定の国道 197 号を広域連携軸として位置づけ、交通流動の円滑化を促進するとともに、拡幅を契機とした都市づくりの取り組みを行います。

(2) 地域連携軸による地区内のアクセス性の向上

国道 197 号から鶴崎地区の各所へアクセスする道路を地域連携軸として位置づけ、本地区区から南北へのアクセス性の向上を図ります。



3. 鶴崎の伝統・文化・緑を「まもり」「つなげ」「いかす」ネットワーク形成

(1) 鶴崎歴史文化拠点の魅力の向上

本地区の豊かな歴史を物語る歴史文化資源が集積する毛利空桑記念館周辺を鶴崎歴史文化拠点として位置づけ、歴史を活かした魅力づくりを促進します。

(2) 鶴崎歴史とみどりのネットワークの形成

点在する歴史文化資源や既存の公園・緑地などを結ぶルートをつなぐネットワークとして位置づけ、地区全体の回遊性と魅力の向上を図ります。

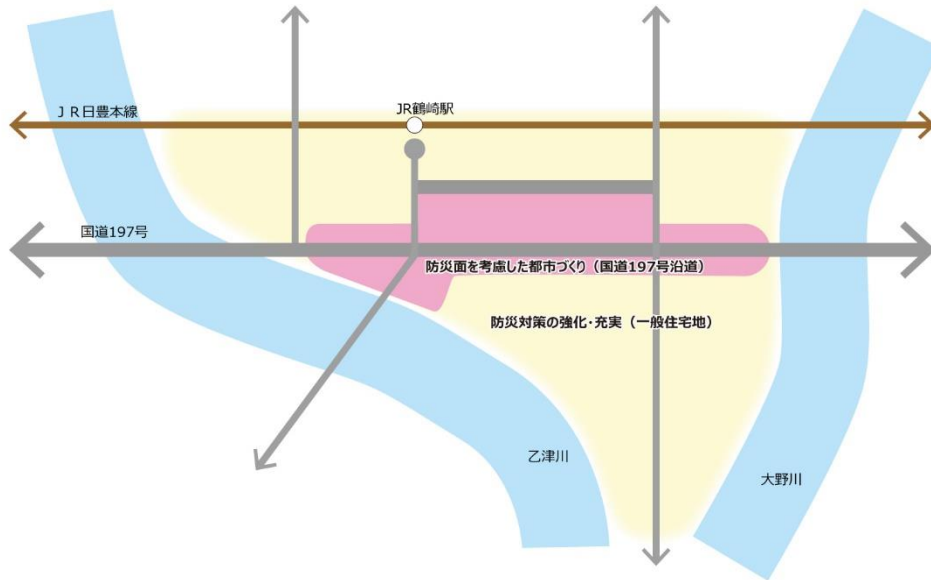


4. 安心・安全に暮らせる防災都市づくり

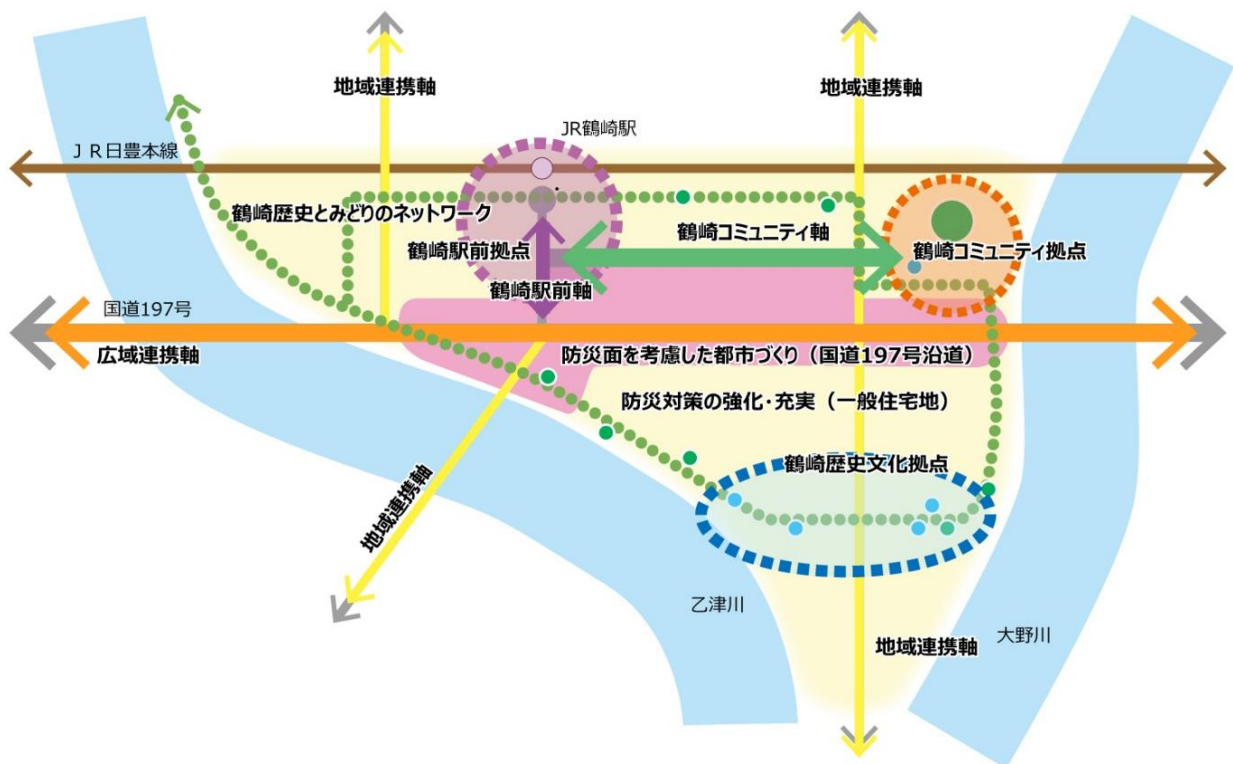
(1) 防災面を考慮した都市づくりの推進

拠点の形成や交通ネットワークの形成などの整備を行う際には、防災の観点を取り入れた都市づくりを推進します。

防災訓練の実施などソフト的な防災対策の強化・充実により災害に強いまちづくりを促進します。



都市づくり方針図<総括>



第6章 方針実現に向けた取組

本市では『大分市まちづくり自治基本条例』において、市民の幸せな暮らしの実現を目指すために市民主体によるまちづくりを行うことを自治の基本理念としています。

都市づくりは、そこに住む人、そこで働く人のためのものです。自らの生活を豊かにする都市づくりは、自らが考え、行動することが重要です。

市民が主役となる都市づくりを行うため、第5章「都市づくり方針」に沿って今後展開していく取組のイメージを示します。

1. 鶴崎駅周辺全域（共通）

【取組の概要】

- ・エリアの価値が維持向上するエリアマネジメントが必要です。
- ・防災・減災に向けた継続的な取り組みが必要です。

【取組の主体】

民間、大分市、大分県

【取組のポイント】

- ・官、民での連携が必要です。
- ・良好な環境や地域の価値の維持向上のため、土地利用やブランド力の形成、良好なコミュニティの維持向上、地域の伝統文化の継承などについて、関係機関と連携し、住民等による主体的なエリアマネジメントの充実が必要です。
- ・整備箇所周辺では、公共施設の役割の整理とともに、住宅や店舗、駐車場など、エリアの価値の維持向上に資する土地利用を促します。
- ・商店街の活性化に向け、整備と連動した取り組みが必要です。
- ・整備においては、防災面への配慮が必要です。
- ・災害の発生に備えた情報周知の徹底や防災訓練等の定期的な実施など、ソフト面における防災・減災に向けた取り組みが必要です。
- ・整備においては、デジタル化を含む次世代技術等の導入の可能性を考慮します。

※エリアマネジメントとは・・・

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み

2. 鶴崎駅前広場

【取組の概要】

- ・自家用車、バス、タクシー、自転車等の交通を安全かつ円滑にするとともに、日常の憩いやイベント等への活用を視野に入れた再整備を検討します。

【取組の主体】

大分市、大分県、JR九州、民間

【取組のポイント】

- ・誰もが使いやすい交通結節点となるように、段差の解消等のバリアフリー化を推進します。
- ・交通結節機能としてパークアンドライド等も考慮した駐車場機能を検討します。
- ・鶴崎地区の顔としてふさわしい風格ある景観を形成するため、駅前通りとの一体的なデザインの統一や、舗装やストリートファニチャーの高質化など景観面に配慮します。
- ・交通処理のためだけの広場とせず、日常の憩いやイベント時における利活用を考慮します。
- ・駐輪場利用者の利便性や歩行者等との安全性にも考慮した駐輪場の配置・形態を検討します。
- ・次世代型モビリティの導入可能性も踏まえた規模や構造を検討します。
- ・自由通路等を含めた南北市街地の連携について検討をします。
- ・整備と併せた周辺の土地利用についての検討をはたらきかけます。
- ・行政や市民、交通事業者など関係者の連携による検討体制の構築を目指します。

3. 県道鶴崎停車場線

・【取組の概要】

- ・駅前広場との一体的な利活用に向けた連携へ取り組みます。

【取組の主体】

大分県、大分市、民間

【取組のポイント】

- ・円滑な自動車・自転車交通処理に配慮しつつ、中央緑地帯を含む道路空間の再編が求められています。
- ・誰もが安心安全に移動できるウォークブルな歩行者空間の創出が求められています。
- ・駅前広場と一体的活用を考慮したデザインが求められています。
- ・整備と併せた周辺の土地利用についての検討をはたらきかけます。

4. 鶴崎市民行政センター周辺

【取組の概要】

- ・ 鶴崎公民館、鶴崎公園の再整備により、「行政と教育・文化・福祉の拠点施設」としてのリニューアルや修景整備を推進します。
- ・ 周辺施設への回遊性の向上を図ります。

【取組の主体】

大分市

【取組のポイント】

- ・ 鶴崎市民行政センター周辺整備基本計画に沿って、行政と教育・文化・福祉の拠点施設整備を行います。
- ・ 周辺施設へ回遊するための案内板や動線の整備を検討します。

5. 市道北鶴崎3号線

【取組の概要】

- ・ 鶴崎コミュニティ軸として歩行者と自動車が安全で快適に往来できる道路空間の形成に取り組みます。

【取組の主体】

大分市、民間

【取組のポイント】

- ・ 市道中鶴崎1号線と連携した形態を検討します。
- ・ 歩行者が安心安全に移動できる歩道整備に取り組みます。
- ・ 歩行空間の確保と自動車の安全な通行を考慮し、道路形態や通行形態を検討します。
- ・ 舗装材の選定においては、メンテナンス性にも配慮します。
- ・ 整備と併せた周辺の土地利用についての検討をはたらきかけます。

6. 市道中鶴崎1号線

【取組の概要】

- ・鶴崎コミュニティ軸として、安全で居心地の良い道路空間となるよう修景・美装化を図ります。

【取組の主体】

大分市、民間

【取組のポイント】

- ・市道北鶴崎3号線と連携した形態を検討します。
- ・歩行者が安心安全に移動でき、歩きたくなる形態を検討します。
- ・美装化の方法や舗装材の選定においては、メンテナンス性にも配慮します。
- ・回遊性を促すために、国道197号の拡幅を契機とした沿道低層部への賑わい形成に資する機能導入の可能性を検討します。
- ・整備と併せた周辺の土地利用についての検討をはたらきかけます。

7. 国道197号

【取組の概要】

- ・国道197号鶴崎拡幅事業の推進をはたらきかけます。
- ・国道197号の拡幅に伴った市街地形成について、民間事業者や県と連携した手法を検討します。

【取組の主体】

大分県、大分市、民間

【取組のポイント】

- ・拡幅に伴う商店街の賑わいの維持や創出に向けた取組を進めます。
- ・主要幹線沿道の土地利用には、周辺環境と利便性にも配慮が必要です。

8. 市道鶴崎・三佐線（（都）寺司三佐線）

【取組の概要】

- ・JR 日豊本線で分断されている市街地南北間の交通動線を円滑にするために、道路のアンダーパス化に向けた取組を推進します。

【取組の主体】

大分市

【取組のポイント】

- ・豪雨時の冠水の可能性など防災面に配慮しながら検討を行います。
- ・周辺施設とのアクセス性に配慮した検討を行います。

9. 県道鶴崎大南線（別保橋）

【取組の概要】

- ・ピーク時間における渋滞の緩和に向けた検討を行います。

【取組の主体】

大分県、大分市

【取組のポイント】

- ・周辺道路の整備による交通状況を踏まえ、関係機関と連携して対策の検討を行います。

10. 回遊ネットワーク

【取組の概要】

- ・神社、毛利空桑記念館など地域の歴史文化資源や公園緑地をネットワークする歩行者動線の形成を図ります。
- ・ネットワーク上の河川空間の活用を検討します。

【取組の主体】

大分市、国土交通省、民間

【取組のポイント】

- ・安心安全な歩行者動線として、バリアフリーなどに配慮します。
- ・ネットワーク上の道路の美装化や植栽の整備、誘導案内サインの設置などを検討します。

1 1. 街区公園

【取組の概要】

- ・地区内の複数の街区公園について、周辺環境や利用者特性に応じた機能の再編に取り組みます。

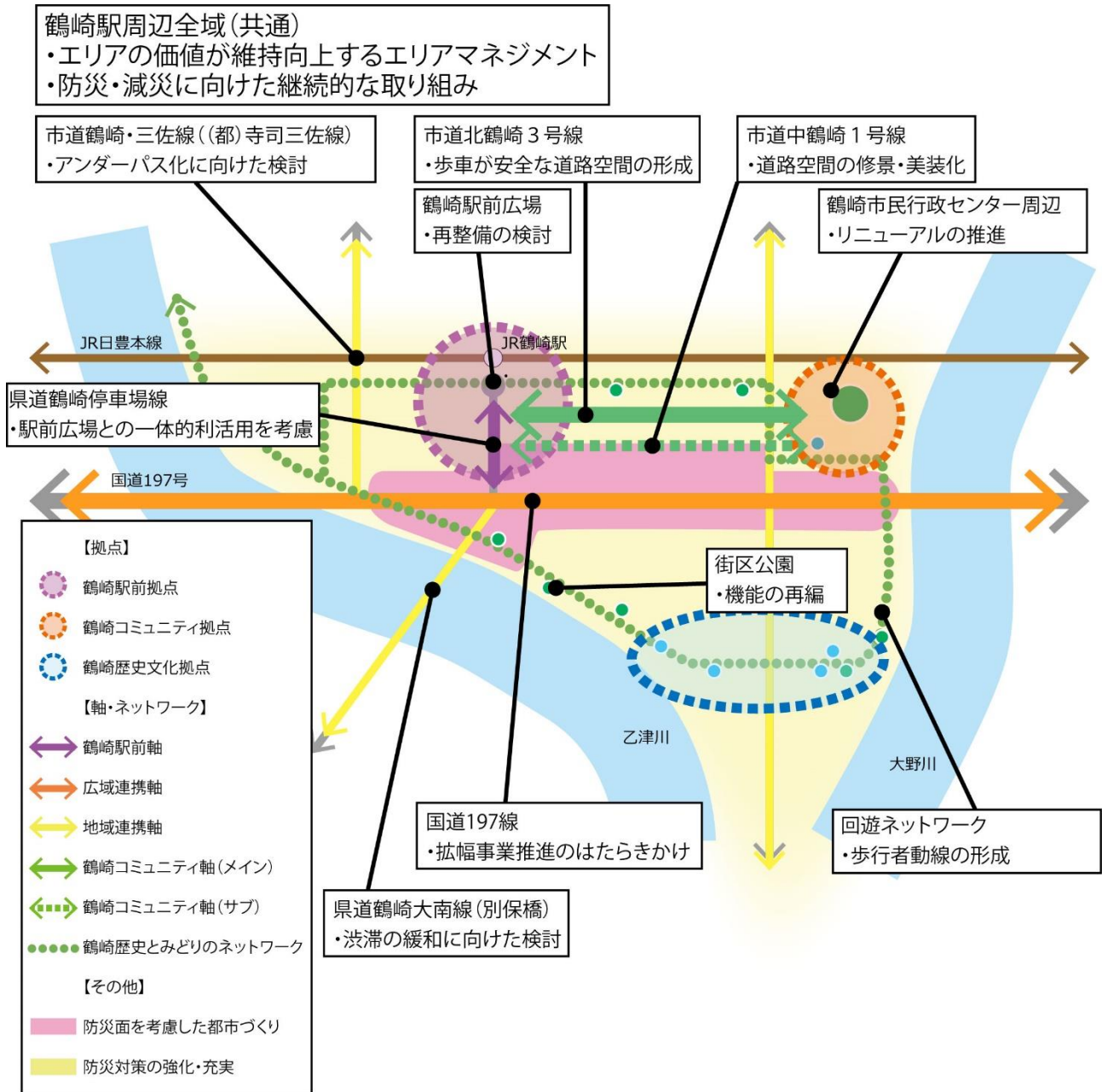
【取組の主体】

大分市、民間

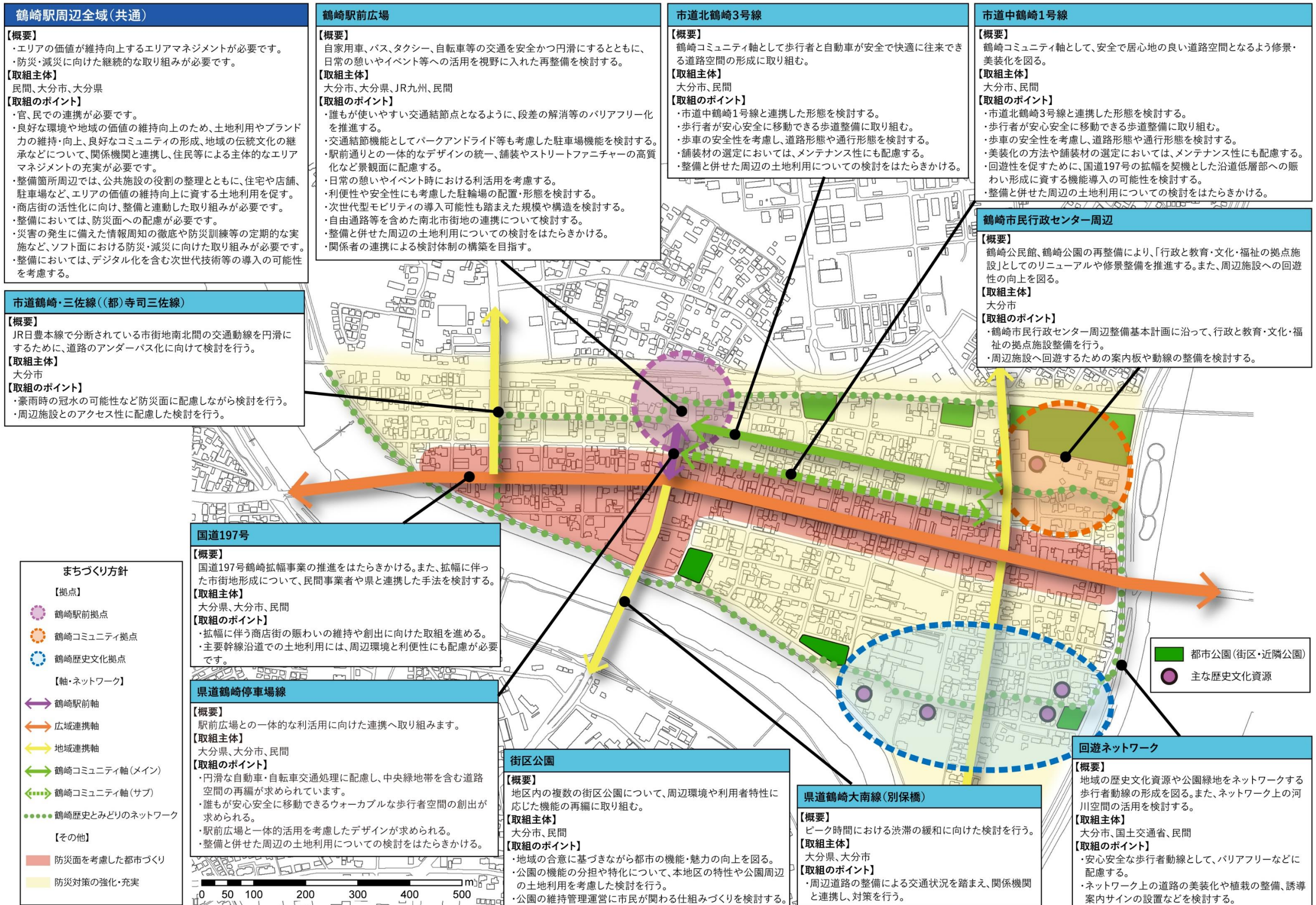
【取組のポイント】

- ・地域の合意に基づきながら都市の機能・魅力の向上を図ります。
- ・公園の機能の分担や特化について、本地区の特性や公園周辺の土地利用を考慮した検討を行います。
- ・公園の維持管理運営に市民が関わる仕組みづくりを検討します。

都市づくり方針と取組のイメージ図



都市づくり方針と取組のイメージ図〈詳細〉



1 2. 各取組の実施時期のイメージ

	取組内容	取組時期			
		短期	中期	長期	
鶴崎駅周辺全域(共通)	鶴崎駅周辺全域	エリアマネジメント、 防災・減災に向けた取り組み	[Orange bar]		
鶴崎駅前拠点	鶴崎駅前広場	JR 鶴崎駅駅前広場	[Orange bar]		
	県道鶴崎停車場線	県道鶴崎停車場線 ((都) 鶴崎駅前松岡線)	[Orange bar]		
鶴崎コミュニティ拠点	鶴崎市民行政センター周辺	鶴崎市民行政センター、 鶴崎公民館、鶴崎公園	[Orange bar]		
鶴崎コミュニティ軸	市道北鶴崎 3 号線	市道北鶴崎 3 号線 ((都) 船頭町線)	[Orange bar]		
	市道中鶴崎 1 号線	市道中鶴崎 1 号線	[Orange bar]		
広域連携軸	国道 197 号	国道 197 号沿線	[Orange bar]		
地域連携軸	市道鶴崎・三佐線 ((都) 寺司三佐線)	市道鶴崎三佐線 ((都) 寺司三佐線)	[Orange bar]		
	県道鶴崎大南線 (別保橋)	県道鶴崎大南線 ((都) 鶴崎駅前松岡線)	[Orange bar]		
鶴崎歴史と みどりのネットワーク	回遊ネットワーク	市道南鶴崎 6 号線 (空桑思索の道) 乙津川右岸緑地 など	[Orange bar]		
	街区公園	羽佐間児童公園 新堀公園 東 浦公園、岩丸児童公園、 伴出公園	[Orange bar]		

第7章 取組実現に向けた課題

将来像である「伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点」を実現するために、第6章で記載した様々な取組が必要となります。第6章では主にハード整備を記載しており、その実現には多くの課題があります。

また、将来像実現のためにはハード整備だけでなく、ソフト対策も行っていく必要があります。以下に、取組実現に向けた課題を示します。

1. ハード整備における主な課題

- ・ 民間活力の導入が必要です。
- ・ 今後の人口減少などを踏まえて、過剰整備とならないように適切な規模、仕様、費用対効果を十分に検討することが必要です。
- ・ 整備後の維持管理を考慮し、メンテナンス性を踏まえた整備を行うことが必要です。
- ・ 補助金の活用やクラウドファンディングの活用など予算面における検討が必要です。
- ・ 整備を行うための敷地の確保など関係権利者との丁寧な合意形成が必要です。

2. ソフト対策における主な課題

- ・ 民間の取組との連携が必要です。
- ・ 公共施設等の整備に伴う商業施設や住宅の立地等を促進するための取組が必要です。
- ・ 公共施設等を活用するため、イベント等の実施における公共空間活用方法や体制等の仕組みの検討が必要です。
- ・ 公共施設等の整備の検討には、周辺の民地の土地利用の可能性も含めた検討が必要です。

附属資料

子育て世代アンケート調査による意向把握のまとめ

①調査概要

【調査対象】

1歳6か月、3歳児健康診査受診者の保護者および鶴崎こどもルーム来訪者

【調査期間】

令和3年12月下旬から令和4年3月下旬

【回収状況】

132名（健康診断：31名／子どもルーム：101名）

②結果のまとめ

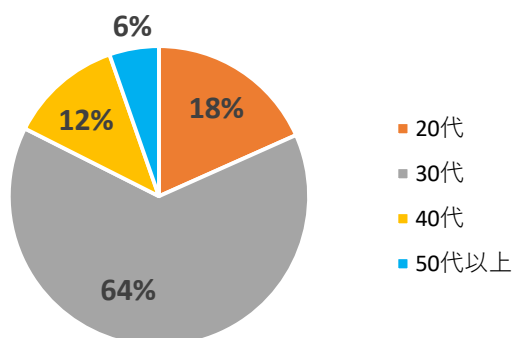
- ・住みやすい、子育て環境に満足という回答がともに7割を超えています。
- ・鶴崎駅周辺で子どもとしたいこととして公園で遊ぶが7割を超えています。また、自由記述においても子どもが遊べる場所や公園遊具の充実、再整備などが挙げられています。
- ・鶴崎駅周辺でよく利用する施設のうち、こどもルームと鶴崎支所を除いた回答が2割以下となっており、利用者の多くが支所内のみの利用にとどまっています。
- ・鶴崎駅周辺の課題として、約6割の方が渋滞を挙げています。
- ・鶴崎駅周辺の課題として、店舗の少なさなど商業的な活気がないことが挙げられています。
- ・子育て世代のほとんどが自家用車を利用しているため、駐車場の整備を望む声が多くあります。
- ・区内を回遊するための安心して歩ける歩道の整備を求める声があります。

【Q 1】 あなたの性別を教えてください。(1つに●)

	n	割合 (%)
男性	7	5.3
女性	124	94.7

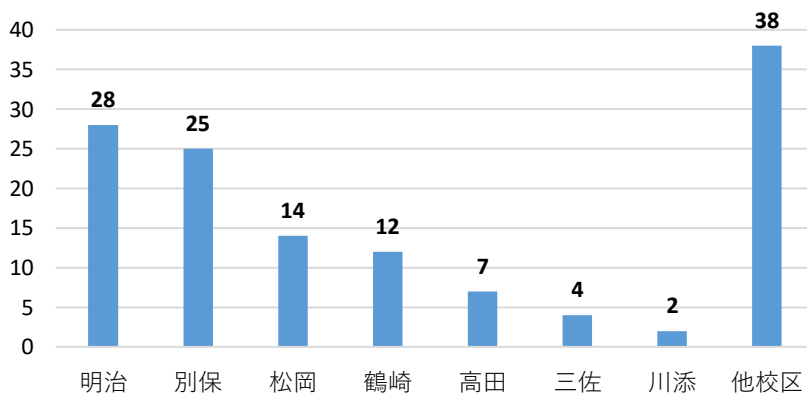
95%を女性が占めている。男性は5%で、男女の乖離が大きい。

【Q 2】 あなたの年代を教えてください。(1つに●)



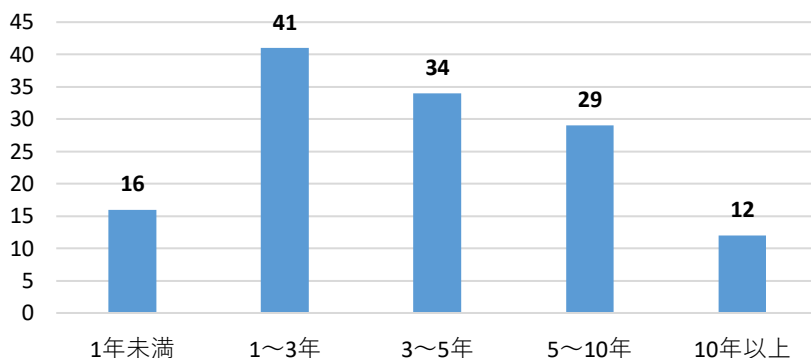
30代が最も多く、次いで20代、40代が多い結果となった。50代の割合が一番少なく、10代、60代の存在していない。

【Q 3】 現在お住まいの校区を教えてください。(1つに●)



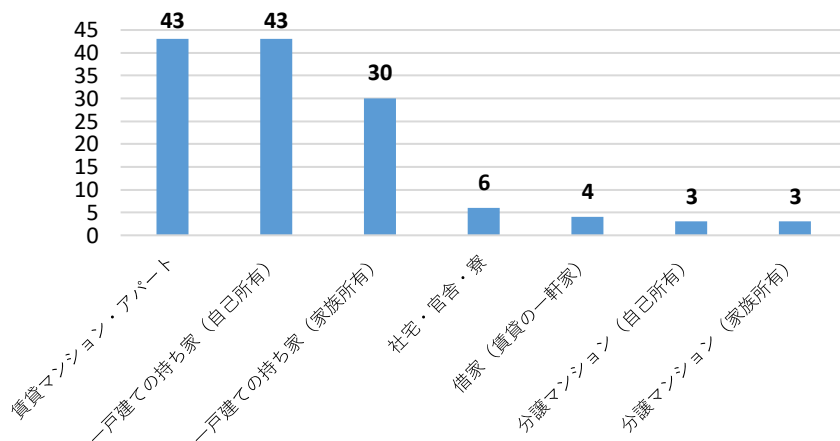
明治校区が28人(21%)、別保校区が25人(28%)と多かった。一方で他校区は38人(29%)で、他校区からの利用者も一定数存在している。

【Q 4】 現在のお住まいには、どれくらいの期間住んでいますか。（1つに●）



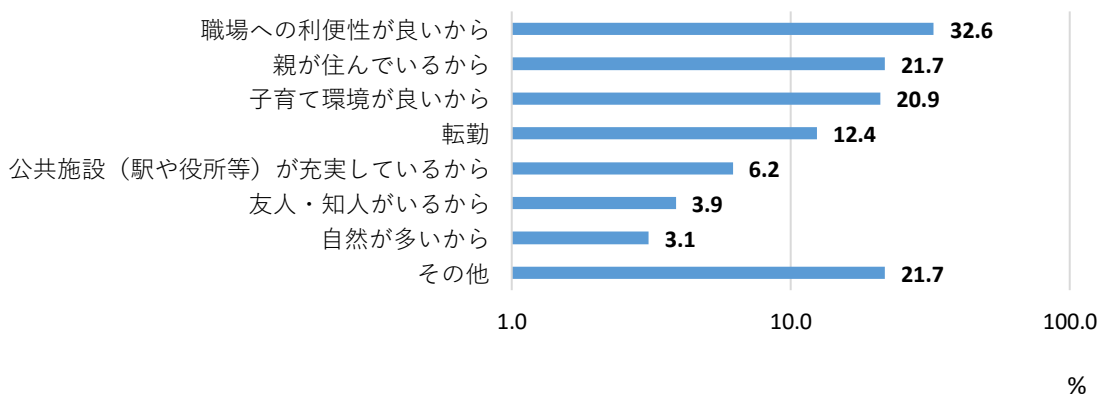
3年未満が41人で最も多く、次いで3年～5年未満が34人と多かった。5年から10年未と1年未満および10年以上はそれぞれ20人を切る結果となった。

【Q 5】 現在のお住まいの所有形態はどれですか。（1つに●）



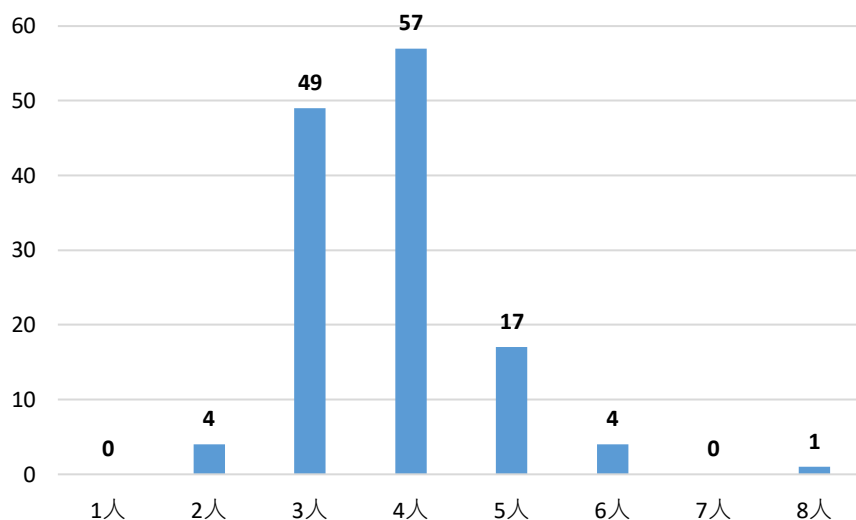
「賃貸マンション・アパート」と「一戸建ての持ち家（自己所有）」がそれぞれ43人で最も多く、「一戸建ての持ち家（家族所有）」が30人で続く結果となった。

【Q 6】 現在のお住まいに住み始めた理由はどれですか。（複数回答可）



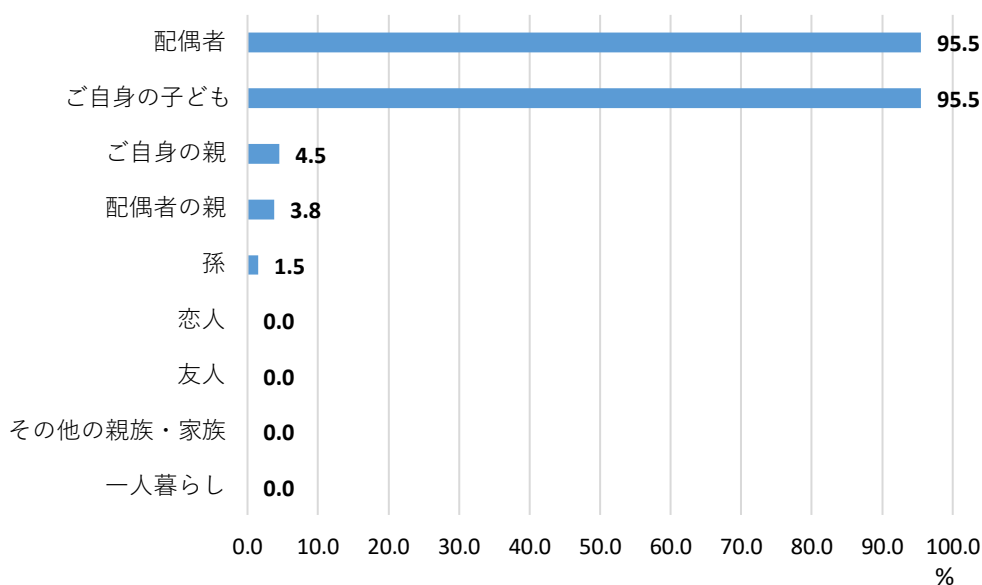
「職場への利便性」の良さを理由に挙げる割合が33%で最も高く、次いで「親が住んでいるから」の22%、「子育て環境が良いから」の21%がほぼ同数で並んで多い結果となった。

【Q 7】 あなたと同居している人数はあなたを含めて何人ですか。



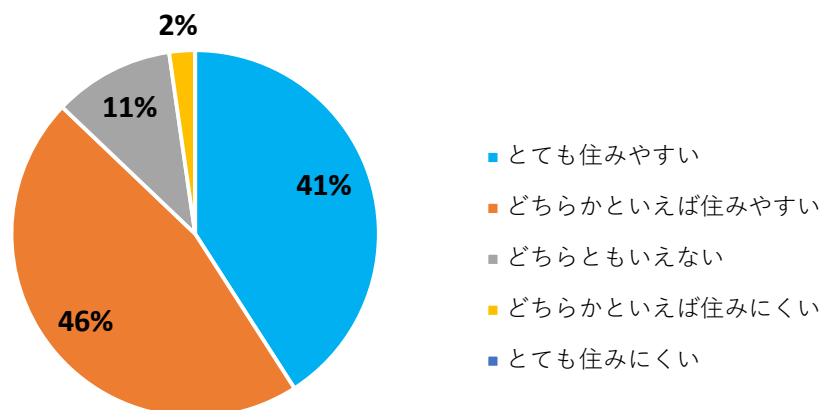
「4人」が57人（43%）で最も多く、「3人」の49人（37%）と合わせると、80%という高い割合を占めていることが分かった。それ以外の選択肢は回答が少なく、5名以上もしくは2名以下は合わせて26人（20%）という結果になった。

【Q 8】 あなたと同居している方は誰ですか。（複数回答可）



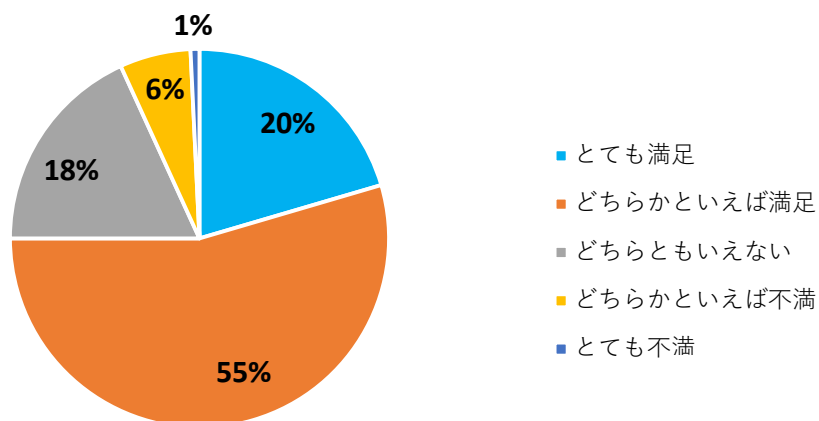
「配偶者」「ご自身の子ども」がそれぞれ96%と同じ割合で最も多く、それ以外の選択肢に大きな差をつけた。また、単身者および家族以外と同居しているという回答はなかった。

【Q9】 現在お住いの場所の住みやすさはどれですか。(1つに●)



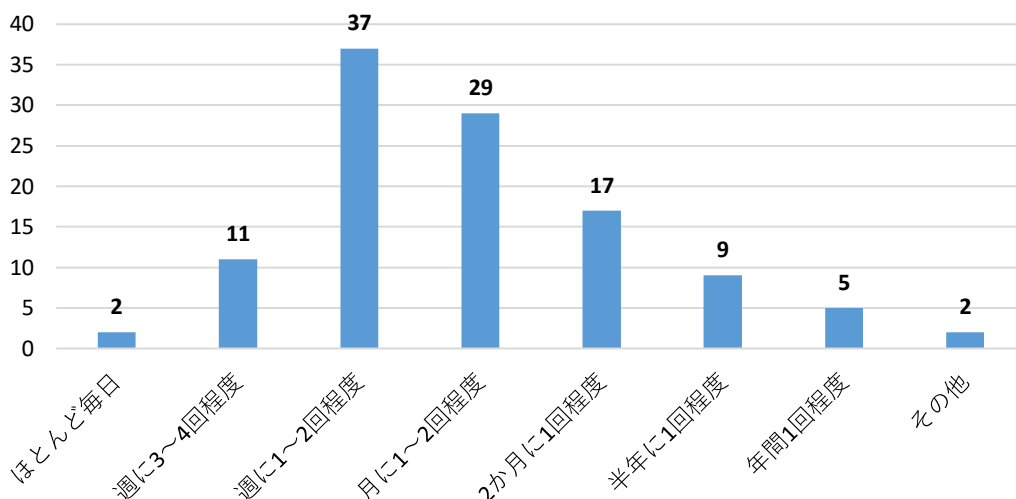
「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が合わせて87%で、「どちらかといえば住みにくい」は2%であった。「とても住みにくい」への回答はなかった。

【Q10】 現在お住いの場所での子育て環境の満足度はどれですか。(1つに●)



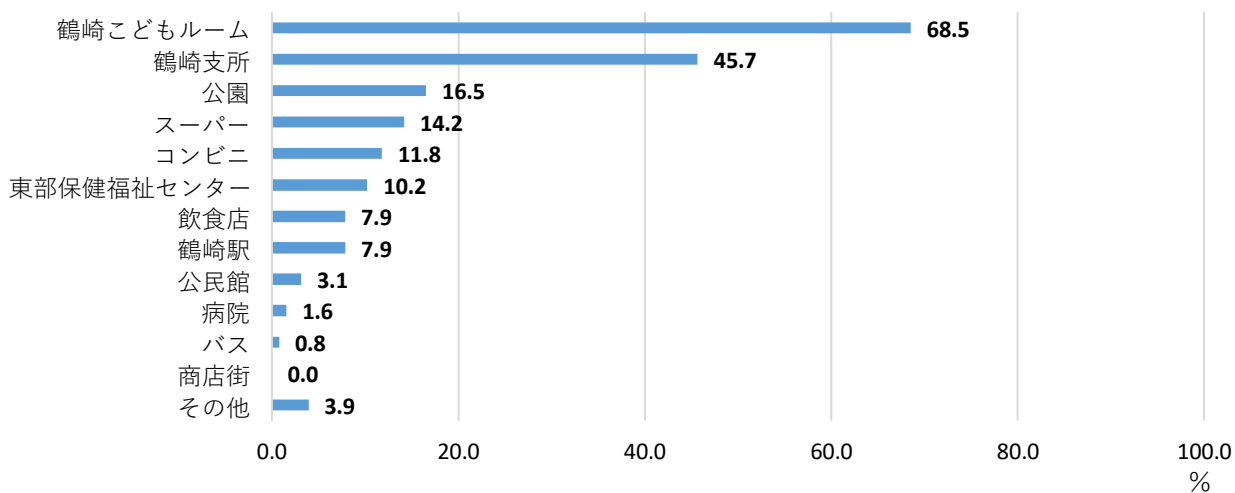
75%が「とても満足」もしくは「どちらかといえば満足」と回答し、7%が「どちらかといえば不満」、「とても不満」と回答している。「どちらともいえない」と回答したのは18%だった。

【Q11】 下記の鶴崎駅周辺（点線で囲んだエリア）にどれくらいの頻度で訪れますか。



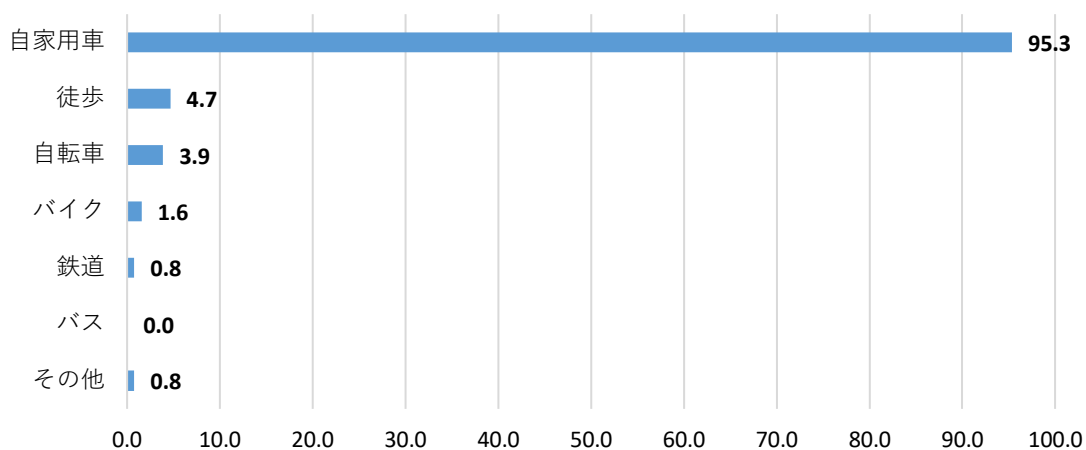
週に1~2回程度が37人で最も多く、次いで月に1~2回程度が29人であった。それ以外の選択肢はいずれも20人未満であった。

【Q12】 鶴崎駅周辺でよく利用する施設はどれですか。（複数回答可）



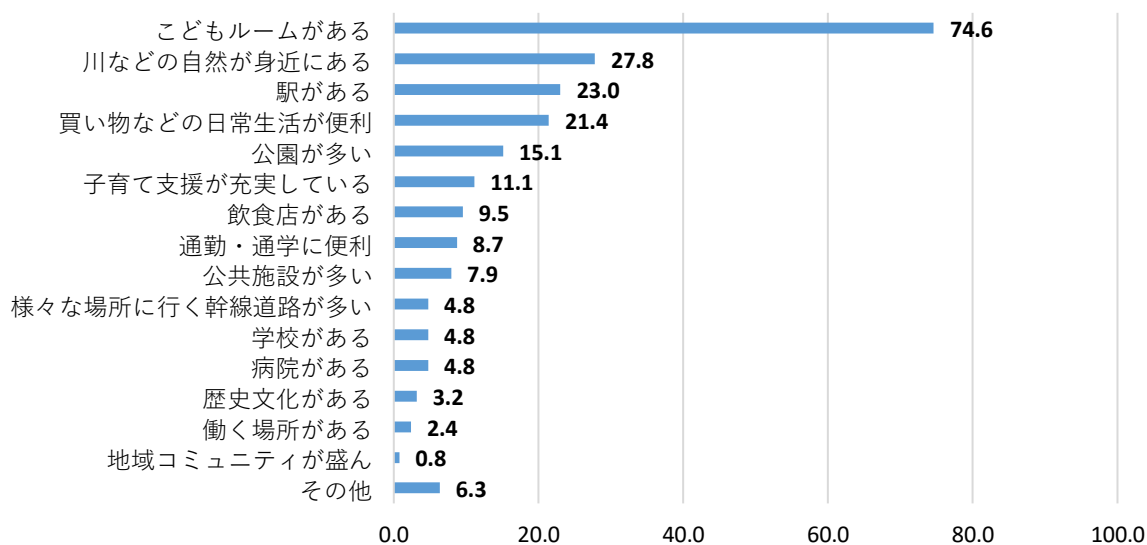
「鶴崎こどもルーム」が約69%最も多く、次いで「鶴崎支所」が46%で多い結果となった。

【Q13】 鶴崎駅周辺に訪れる手段はどれですか。(複数回答可)



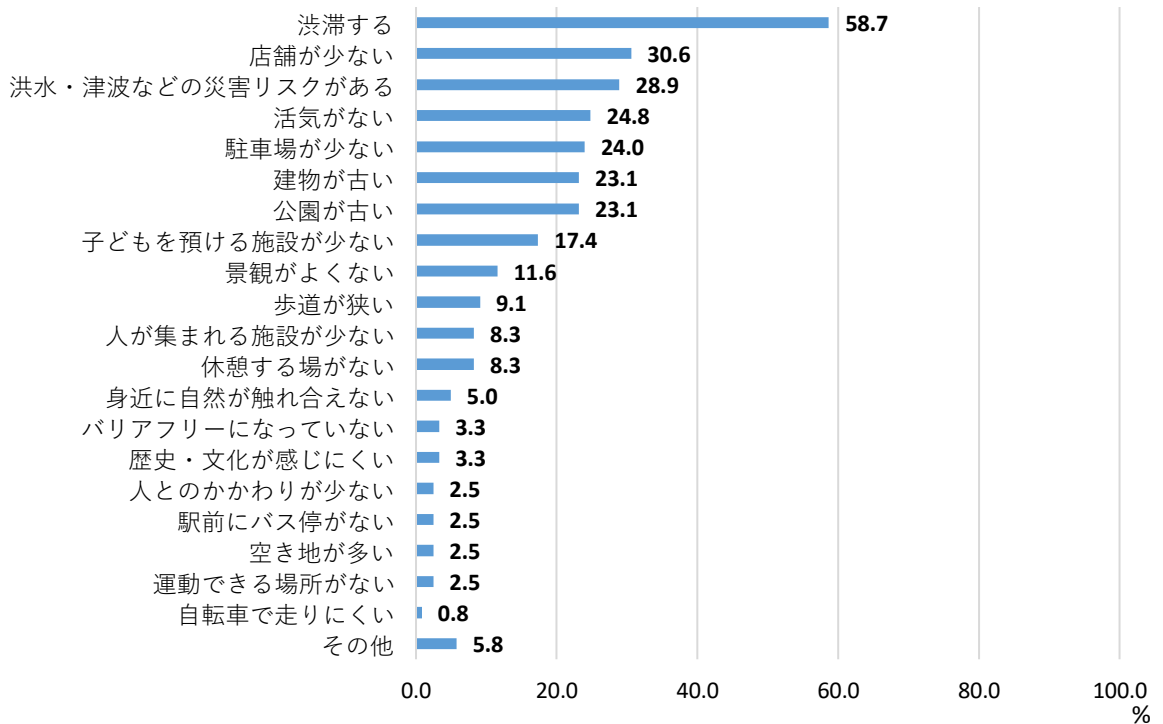
「自家用車」が約95%で最も多かった。その他の選択肢はいずれも5%未満であった。

【Q14】 あなたが感じる鶴崎駅周辺の魅力は何ですか。(複数回答可)



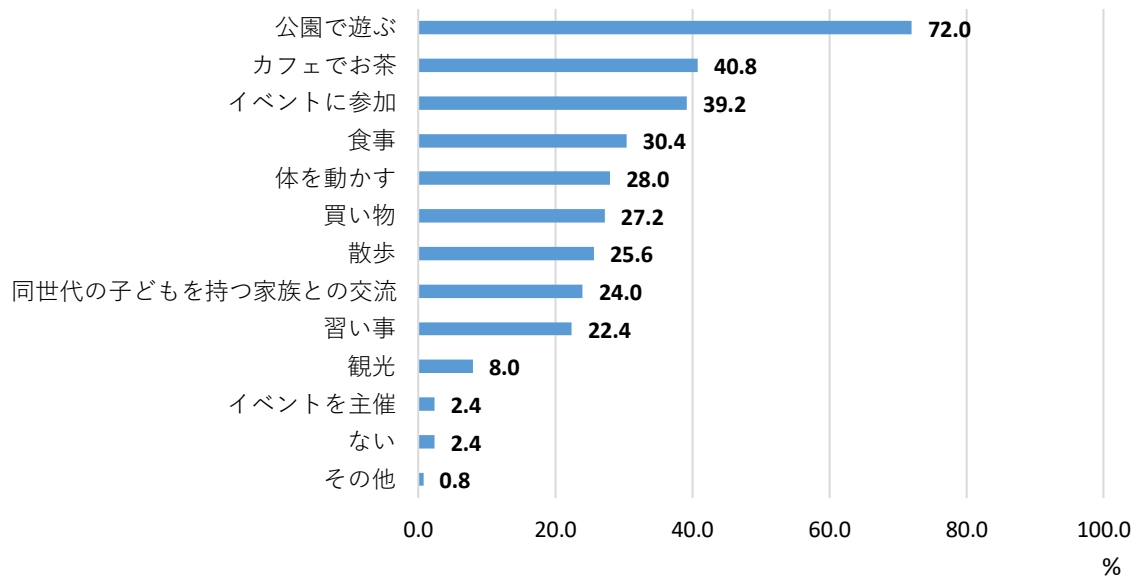
「こどもルームがある」が最も多く、約75%を占めている。次に多い「川などの自然が身近にある」は約28%となっている。それ以外の選択肢は割合こそ低いものの、満遍なく回答が得られた。

【Q15】 あなたが感じる鶴崎駅周辺の課題は何ですか。（複数回答可）



「渋滞する」が最も多く約 59%を占めている。次いで「洪水・津波などの災害リスクがある」が多く、防災意識の高さが伺える。また、「店舗が少ない」、「活気がない」を合わせると 55%となり、今後の改善が望まれる。

【Q16】 鶴崎駅周辺で、お子様と一緒にやってみたいことを教えてください。（複数回答可）



「公園で遊ぶ」が 72%で最も多く、次いで「カフェでお茶」が多い結果になった。同様の日常的行為である「食事」（30%）、「買い物」（27%）、「散歩」（26%）にも回答が集まる中、非日常的な「イベントに参加」（40%）、「同世代の子どもを持つ家族との交流」（24%）にも一定の回答があった。

【Q17】 Q16 で回答したことをするため、必要なものや施設は何ですか。（自由記述）

回答人数 84 名のうち、下記の 9 項目に分類することができた。

施設の新設・改築

- ・ 駐車場付きの商業施設（7）
- ・ 子どもが遊べる施設（5）
- ・ 子どもの遊べる場所の隣にスーパーやドラッグストア
- ・ ベビー用品専門店
- ・ 子どもにやさしい駄菓子屋
- ・ トイレの整った施設
- ・ 子連れにやさしい新しい施設
- ・ 駅を大きくする
- ・ 買い物した後に店内で休憩できるスペース
- ・ コンビニを増やす
- ・ ゆったり過ごせる図書館

子連れ可の飲食店

- ・ 小さな子連れで食事できる場所（15）
- ・ 小学校低学年も遊べるようなキッズスペースが充実したカフェ（4）

広場・敷地の整備

- ・ 広場（4）
- ・ 子育て等イベントのための広場（4）
- ・ 家族でテント設営や自炊ができる場所
- ・ 青空カフェ的な少し開放感のある空間

歩道・道路・交通機関の整備

- ・ 歩道にガードレールを付けるなど安全に歩ける環境（3）
- ・ 歩道を広げる（2）
- ・ 道路を広げて渋滞緩和
- ・ 駅前にサイクリングロードをつくる
- ・ 駅周辺までの公共交通機関を増やす（2）

駐車場の増設

- ・ 子どもを乗り降りさせられる広い駐車場（2）
- ・ 無料または長時間安価で使用できる駐車場（7）
- ・ 公園の近くに駐車場が欲しい（12）

イベントの開催

- ・鶴崎ならではのイベント（2）
- ・防災意識を高めるためのイベント
- ・年齢によって集まれるイベント
- ・消防署でのイベント（子ども向け）

PR

- ・情報発信の場であり活気のある街づくり。
- ・今いいところがいっぱいあるので、それを繋げてアピールしたほうが良い（スポーツパーク、河川敷、歴史、祭り）
- ・イベント告知方法を SNS でもっと知りやすくする必要がある（大分市子育て支援サイト naana を活用するなど）

子どもルーム・保育場所の増設

- ・子どもルームをもう少し増やす（2）
- ・保育園や安価な夜間保育を増やす

公園

- ・公園の整備
- ・公園で遊ぶための公園の整備
- ・公園の草刈りをしてほしい
- ・安全な公園
- ・小さい子が遊べる公園
- ・少しの雨でも遊べるようベンチ周辺に広い屋根の設置
- ・おむつ替え可能なトイレが充実した公園（2）

公園遊具の整備

- ・遊具を増やす（4）
- ・遊具を整備する（4）
- ・たくさんの年齢層に合わせた公園遊具の設置（2）

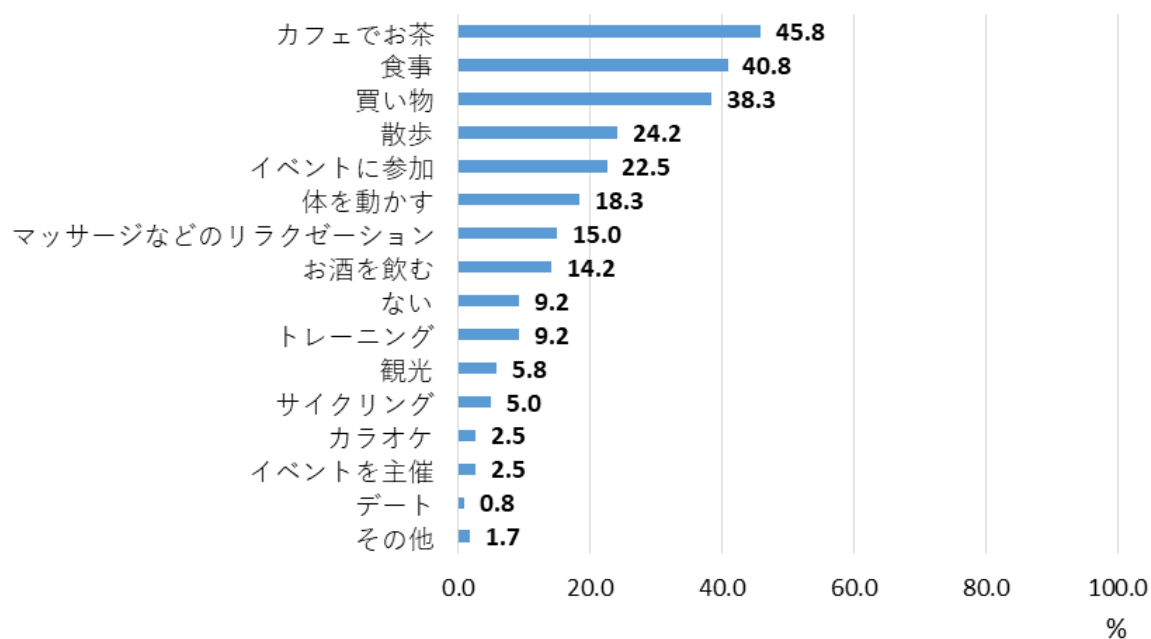
公園の新設

- ・広場のある広い公園（8）
- ・駅前などに公園の新設（2）

その他

- ・広い公園があるので、今のままで十分

【Q18】 鶴崎駅周辺で、あなたがやってみたいことを教えてください。（複数回答可）



「カフェでお茶」が最も多く、「食事」、「買い物」が次ぐ結果となった。

【Q19】 Q18で回答したことをするため、必要なものや施設は何ですか。（自由記述）

回答人数 60 名のうち、下記の 7 項目に分類することができた。

施設・設備

- ・大型ショッピングセンター（6）
- ・駐車場付き施設（3）
- ・安い大型スーパー（3）
- ・キッズスペースのあるリラクゼーション施設（3）
- ・ジム・教室（3）
- ・子どもを預ける場所（2）
- ・レンタサイクル
- ・自然食品やオーガニックの店
- ・子育て相談ができる場所
- ・子どもが遊び大人が寛ぐ場所
- ・空き店舗に新たな店舗の出店
- ・イベントのための広場
- ・居酒屋
- ・子どもと一緒に入りやすい場所

歩道・道路環境の整備

- ・バリアフリーな歩道（2）
- ・道路を広くする（2）
- ・散歩のための広い公園や自然を感じられる道（2）
- ・散歩しやすいよう土手の整備
- ・大野川対岸の芝のトイレの整備

飲食店

- ・子連れ可能な飲食店（5）
- ・気軽に入れるカフェ（4）
- ・駐車場があるカフェ

情報・マップ

- ・駅周辺のお店の一覧（3）
- ・散歩場所等のマップ
- ・子連れ可能なお店の告知
- ・道のつくりがわかるような案内

駐車場

- ・寄り付きやすい駐車場の確保（4）
- ・昼無料、夜有料の駐車場（2）

街づくり

- ・人にやさしい街づくり
- ・活気のある町
- ・子と一緒にできるイベント
- ・施設を活用する人材

公共交通機関

- ・飲んだ後帰れるバスの充実
- ・鶴崎駅への公共交通機関

【Q20】鶴崎駅周辺の印象や今後望むことについて、どのようなことでも結構ですのでお聞かせください。(自由記述)

建物等の新設・修理の希望

- ・商業施設(11) …飲食店、子ども～大人の洋服ショップ等
- ・駐車場の整備(6) …無料・広い駐車場を増やす、現在ある駐車場の利用時間の拡大
- ・子連れでも楽しめる場所・飲食店(5)
- ・大きい公園や広場(5)
- ・高校が近くにあるので、高校生・若者向けの店(3)
- ・公園の整備(3) …鶴崎橋の下の公園、鶴崎公園の遊具、スポーツパークのローラー滑り台の修理
- ・駐車場付き公園(2)
- ・駅を大きくする
- ・一時預かりなどの保育場所
- ・駅直結の店舗

活性化の希望

- ・活気が戻ってほしい(9)
- ・メインロードの老朽化やシャッターのしまった店舗等が多い(6)
- ・お祭り・イベントを開催してほしい(5) …子どもと町の交流
- ・商店街に活気が欲しい(4)
- ・川や電車など景色を活かす(3)
- ・行きたいと思う場所がない(2)

PR・情報提供

- ・観光場所・ショップ・公園・史跡等のマップ(3)
- ・店同士のつながりを作る
- ・育休復帰後の母親の働き方が知りたい
- ・駅周辺のお店等イベントなどでPRしてほしい

交通・安全対策

- ・渋滞の緩和(9)
- ・道路を増やす・広くする(5) …森町バイパス・駅周辺
- ・歩道を広くする(4)
- ・道路の分岐などわかりやすく表示してほしい(4) …駅周辺・商店街付近など
- ・災害対策(2) …高い建物があると良い
- ・川沿いの水害対策(2) …鶴崎橋川沿いの公園にフェンスを付ける
- ・公共交通機関の拡充(2) …バスの利便性の改善、鶴崎エリア～駅での拡充
- ・街灯を増やす

- ・サイクリングロードがあると良い

肯定的

- ・子どもルームや支所が便利（4）
- ・意外とおしゃれな店や便利な店が多い（2）
- ・住みやすい

その他

- ・高校生の自転車のマナーがあまりよくない
- ・保育園に入れなくて困っている

令和5年 (2023年)	8月9日	第2回鶴崎駅周辺整備基本構想策定委員会 ・子育て世代を対象にしたアンケート調査の結果報告 ・高校生を対象としたワークショップの結果報告 ・鶴崎駅周辺整備基本構想（素案）について
	8月31日	第2回鶴崎駅周辺整備推進会議 ・子育て世代を対象にしたアンケート調査の結果報告 ・高校生を対象としたワークショップの結果報告 ・鶴崎駅周辺整備基本構想（素案）について
	10月5日	第3回鶴崎駅周辺整備基本構想策定委員会 ・鶴崎駅周辺整備基本構想（案）について ・第2回鶴崎駅周辺整備基本構想策定委員会の意見について ・鶴崎駅周辺整備推進会議からの要望について
	11月15日	第3回鶴崎駅周辺整備推進会議 ・鶴崎駅周辺整備基本構想（案）について
	11月18日	鶴崎地域まちづくりビジョン フォローアップ会議 ・鶴崎駅周辺整備基本構想（案）について
	1月1日 ～1月31日	「鶴崎駅周辺整備基本構想（案）」に関する 市民意見公募（パブリックコメント）の実施 ○閲覧場所：大分市ホームページ、大分市役所、各支所、ホルトホール大分 ○意見数：3件
	1月10日	鶴崎駅周辺整備基本構想（案）に関する住民説明会 ○開催場所：鶴崎支所 大会議室 ○参加者数：31名 ○質問・意見数：3件
	2月13日	第4回鶴崎駅周辺整備基本構想策定委員会 ・鶴崎駅周辺整備基本構想（案）に対する意見・質問について ・鶴崎駅周辺整備基本構想（最終案）について
	3月30日	鶴崎駅周辺整備基本構想の公表

鶴崎駅周辺整備基本構想委員会委員名簿

所属団体・役職	氏名	備考
独立行政法人 国立高等専門学校機構 大分工業高等専門学校 名誉教授	亀野 辰三	
公立大学法人 大分県立看護科学大学 講師 教授(当時)	小野 治子 赤星 琴美	※令和4年4月1日～ ※～令和4年3月31日
株式会社 日本政策投資銀行 大分事務所 所長代理	佐野 真紀子	
学校法人 文理学園 日本文理大学 教授	吉村 充功	

編集・発行 大分市 都市計画部 都市計画課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

TEL (097)534-6111

FAX (097)536-7719

E-mail tosikeikaku@city.oita.oita.jp

URL <http://www.city.oita.oita.jp>

令和5年3月30日 公表